

工所に就働すること一ケ年、四十年八月本商店を譲り受け日本食料品及日米雜貨を販賣す、氏

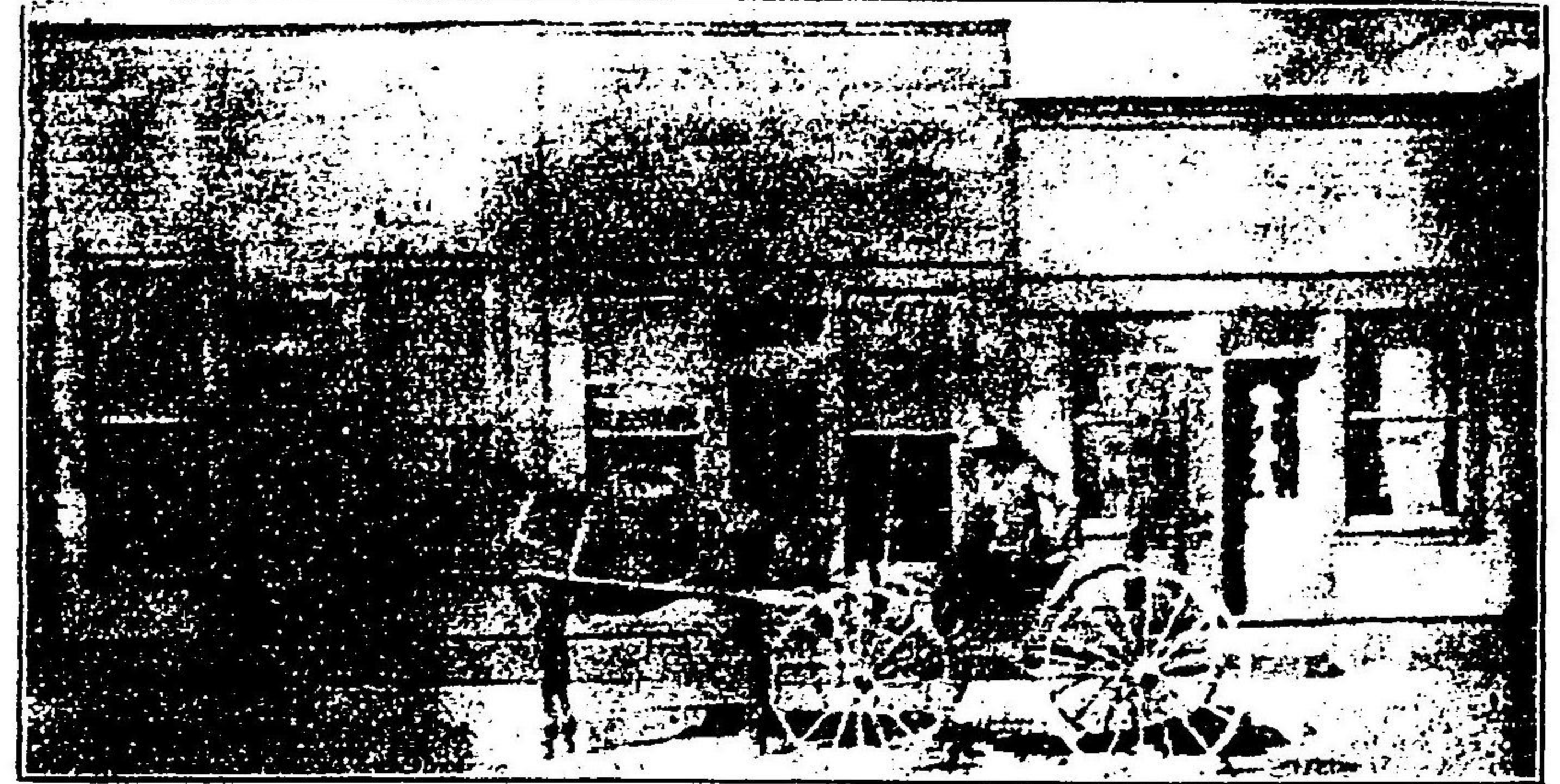


桃井之吉



桃井夫人

は薄利を旨とし顧客に接す親切にして商運日に繁榮に趣き、四十年七月令閨まつ子を故國より迎ひ、夫妻協力業務に精勵にして現時同市同胞間に有力者として漸次頭角を顯はすに至れり氏が郷里は山口縣玖珂郡折井町にして明治十三年五月を以て生



桃井之吉と其居宅

る、年齢正に而立、令閨まつ子は二十有三歳克く内助の功を完ふす。

小池 萬

ノーザンアベニュー一七郵函二一八五



ピヤブロ市小池萬氏商會の内部

氏は岡山市中屋敷の人、幼少の頃軍人たらん志望にて東京に出て成城學校へ入りしも在學二年にして米國の有望なるを聞き、即ち志を一變して渡米に決し、當時神田區淡路町に在りし共立學校へ入學して熱心英語を學ぶと二ケ年準備已に成りて桑港へ上陸せしは明治廿七年一月なりき、白人家庭にスクールボーイとして働き傍ら通學せしも二ケ月にして去て農園に赴き、甜菜の耕作に或はハツプス、葡萄等の摘採に従事し轉々移働して四ケ年を経過し、三十二年鹽潮市へ出て直ちに某白人商店に入り三十五年まで四ケ年間忠實に務め後ち銀行のボーイたりしが翌三十六年七月に至りてデンツァー市へ來り、デツキ教授の家庭にスクールボーイとなり、後日大學へ入る準備として傍ら同教授の主宰する師範學校へ通學せしも四ケ月にて罷め、ピヤブロ市の有望なるを觀て翌三十七年十一月同市へ赴き鐵工所の契約者となり今日に至れり、然れども當初に在りてはユービー鐵道等より同市の鐵工

所に至り悪辣なる手段を以て労働者を誘引する者ありて非常に白人間の感情を害し爲めに同胞の氣受け良からざりしが氏の契約してより、漸次是れ等の悪弊を一掃するに努めたる結果感情亦融和して會社より大に歓迎せらるゝに至りて一時は同胞の數五百を算する盛況に達したりしも惜しむべし、一昨年末に於ける經濟上の恐慌は、同鐵工所事業の縮少となり、労働者減員せらるゝ事となり邦人の就業者又數十名に減退せしも財界の順潮に歸すると共に現時に於ては漸次其數を増加し、恢復の途にあるもの如し。氏の許に在る労働者は七個の寄宿舎に入り、會計は撰擧に依りて定むる事と爲し居れり、猶ほ氏は契約業の小池商店を起して食料品雜貨等を旺んに販賣す、其店員として加藤及福田の二氏亦着實に氏を補佐し居れり。

氏は温厚にして堅實而かも思慮周緻なるの人、唯惜しむらくは陰險を以て目せられ、術數を弄するが如く誤解せらるゝ妨なきにあらず、然れども之れ氏が事に處して細密を期せんとするの結果に外ならざる可し、今や同市に於ける同胞實業界の第一流たるに至れる遇然ならざるなし、好漢夫れ加餐せよ。

加藤省三 同上

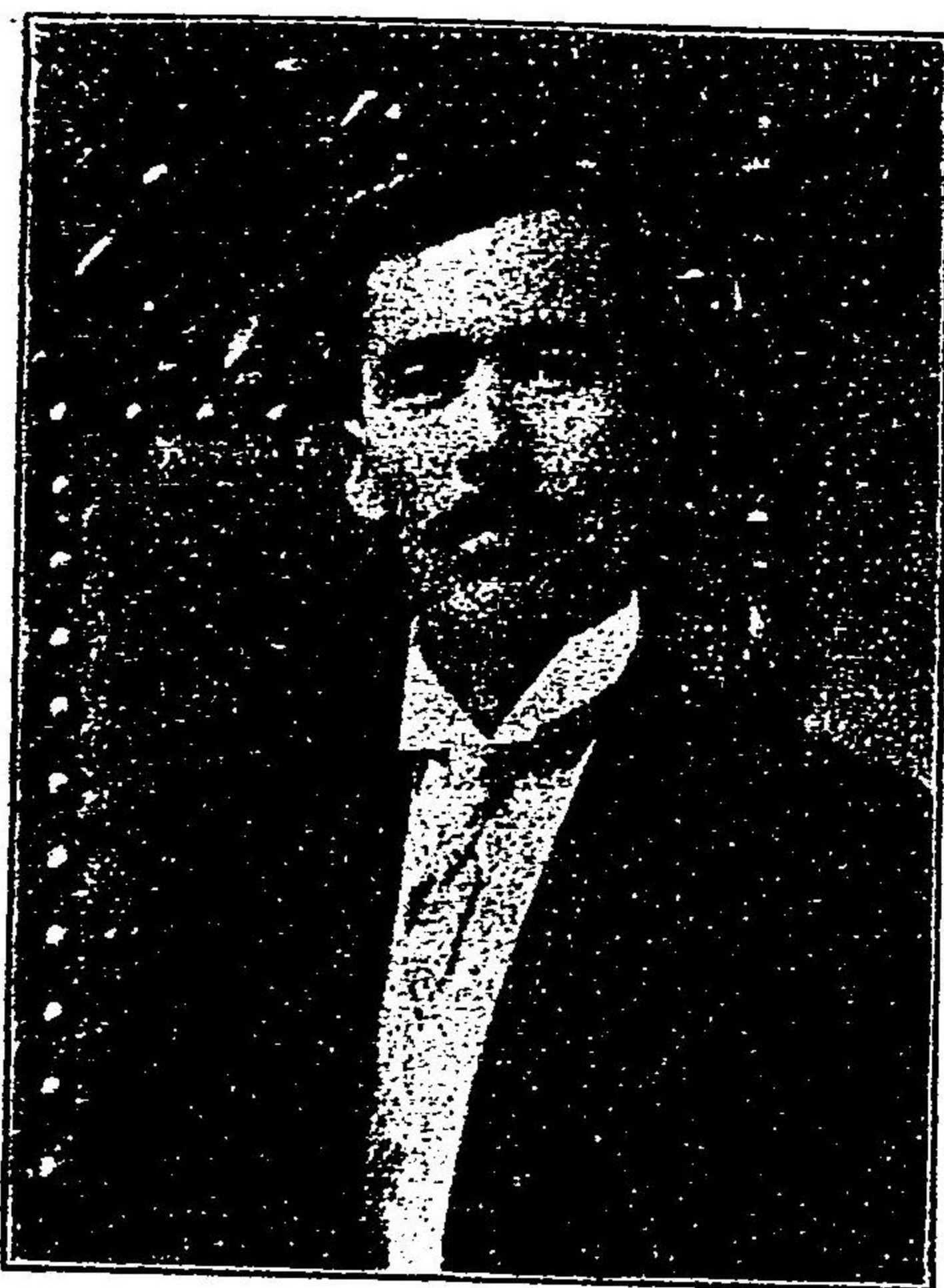
氏は前記小池店の店員にして三十八年より今日に至るまで五ヶ年間一日の如く小池氏を補佐し、四十一年同店を開くに至りては熱心其擴張を計り能く今日の盛況を致したるものは氏が内助の功、與て力ありと謂はざる可らず、況んや氏が故國實業界に於ける數年の經驗を有するに於

てをや。



加藤省三

員となり、引き続き専ら事務に執掌し今日に至れり、現時に於ては先づ小池氏の總顧問兼臺所



福田猪吉

福田猪吉 同上

氏は岡山縣御津郡大野村字大安寺の人にして明治三十年五月オレゴン州ポートランド港へ上陸し、間もなくアイダホ州ボイセイに至りて白人家庭に働き三十四年の春ユタ州ソートレーキ市へ出たるも面白からず、直ちに桑港を経てロ

スアンゼルス市へ赴き亞細亞商會に入りて店員たりしが二ヶ年にして再びソートレーキ市へ出て三十八年六月デンヴァー市へ來りて、當時デンヴァー、ライオ、グランド其他の鐵道の入夫供給を契約し居たる木山、高塚組の事務員となり、所謂「セクション廻り」を爲したりしが四十一年一月歸任し二月前記小池商店の開業するに及びて同店に聘せられて店員となり、拮据經營の任に當る、氏や温厚にして得難きの人と謂ふ可し矣。

田口吉松

北サンタフェアベニュー三〇七、

氏は山口縣阿武郡三島村の人にして明治十四年五月を以て生る、三十三年一月布哇ホノル、港へ上陸し、一廿黍の耕作に従ふこと四ヶ年にして三十七年四月轉航して桑港へ上陸し、直ちにサンノゼ附近へ赴きて果物の摘採を爲し、同



川口吉松

年十一月松野氏と共にワイオミング州ロックスベリングなるスウエートウォーター炭鑛へ來り第二坑にて四十一年二月まで採炭に従ひ蓄積已に尠なからず、獨立の營業を開始せんと欲し、コロラド州に入り、デンヴァー市を経てピャプロ市に至りて中本商店々員となり次いて本年四月より獨立して店舗を開き食料品雜貨等を販賣す、

經濟界の順潮に歸すると共に今や益々隆盛ならんとす。

間野曾太郎

南メーン街二二七

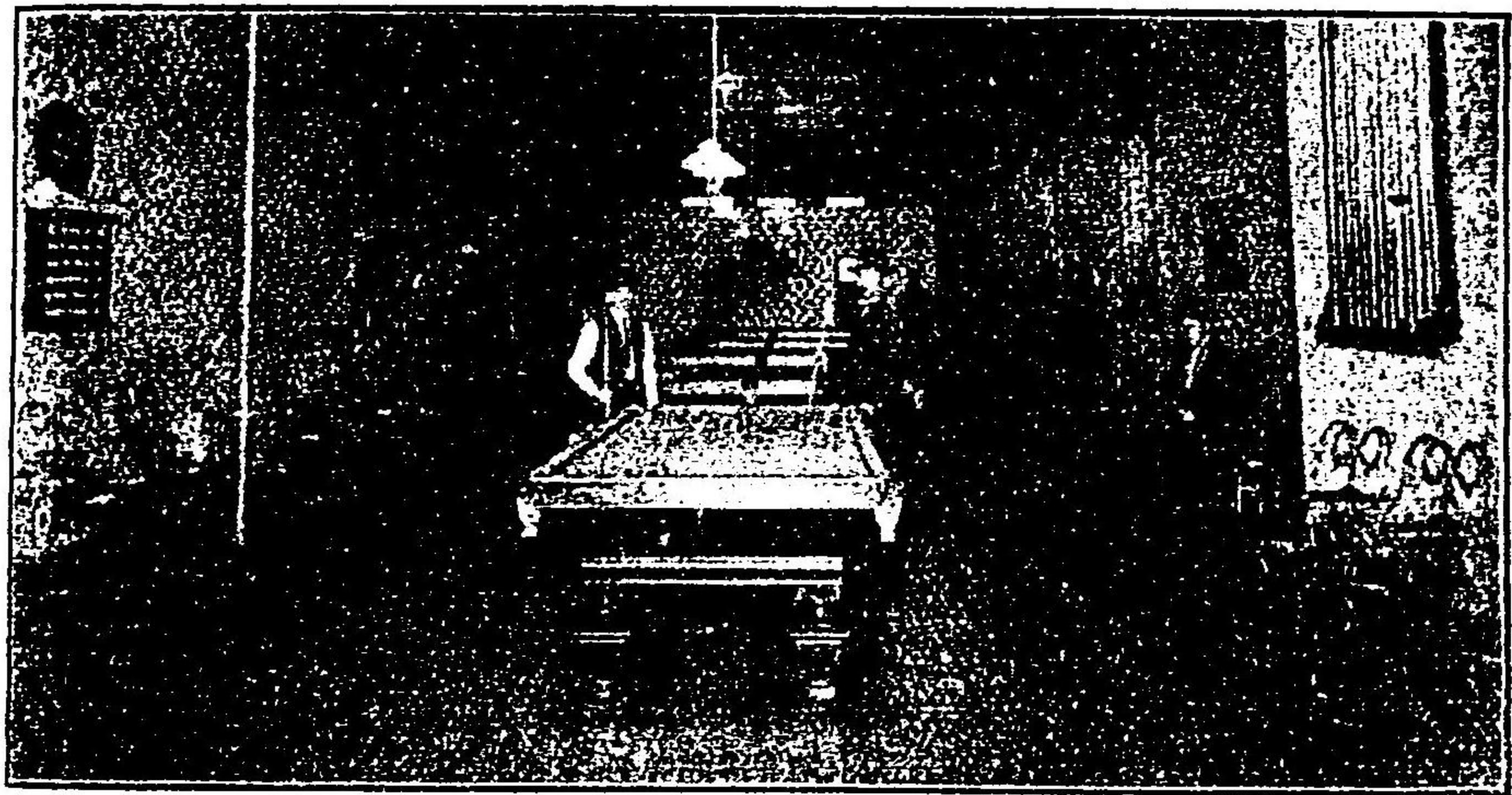
氏は高知縣香美郡曉霞村の人、明治十年十月を以て生る、若冠にして中學を卒業し、二十五年六月より職を官界に奉ずること五ヶ年、大阪郵便爲替貯金管理支所、神戸郵便局及神戸税關監視部に轉勤し、三十年六月在横濱加奈陀太平洋鐵道の書記となり勤むると一ヶ年半、此間氏は眼疾を患ひ、辭して郷里に病を癒す、三十三年六月復び大阪稅務管理局に通譯を奉職せしが志を海外に樹てんと欲し九月職を辭して若邊準備を爲し、タコマ港へ上陸せしは其十月なりき、茲に中野辨氏と共同にて雷新聞を經營したりしが半ヶ年後、事業界に身を投じてハツプス其他の諸受負契約を爲し、三十五年六月桑港へ轉じ櫻府に至り、ナトマ葡萄園に竹崎氏を援け同十月倉永事務所に入り、翌年十二月に及ぶ、更にカッスルビルに至り瀬尾氏を助けて三十七年四月コロラド州に入る、茲に外園氏と共同にて前年岡島氏が契約せるロツキ、マウント、グラント河の溝渠開穿事業を繼承し翌年に涉りて同工事を竣工し、同年十一月より三十九年四月に至る六ヶ月間本州南部のラマー市附近に於ける灌漑溝渠工事及架橋工事に要する勞働者供給の契約を完成し、五月同地方に於て生産組合の甜菜耕作を英町二十二弗五十仙を以て約千英町を契約し、之に入夫を供給せしが斯年農家の不拂の爲め氏は多大の損失を蒙れり、四十年六月ピャプロ市に來り、佐藤、中本の諸氏と共同して日本契約會社を創設し十二月立川氏入社し

社員協力してミヅリ、バシフェック鐵道の人夫供給、旅館業及商店部を經營せしが四十年末に至り、米國財界恐慌の餘波を受けて四十一年五月解散の餘儀無きに至れり、氏は其後を享けて監督の任に當りしも罷めて、現時市俄古にて製造するダイオゾーと稱する室内清涼劑の日本人間一手販賣を特約して盛に販路の擴張に努めつゝあり。

近藤吉太郎

北サントフキ、アベニユー二〇七

氏は新潟縣岩船郡金屋村字金屋の人にして廿四歳のとき即ち明治三十二年十月布哇ホル、港へレキヤリ耕地に就働すること五ヶ年半、三十八年三月桑港へ轉航してユニオン・バシフェック鐵道にシヤブルを握り後ち轉じてビヤプロ市へ來り、昨四十一年五月まで鐵工所に働く、勤勉なる報酬は遂に多大の貯蓄となり、森山、矢田の兩氏と共同にてベスマー街に球戯場を開業し、今や二六時中雜踏を極むるの盛況に達せり、曩に森山氏は組合より分離して獨立し、本年四月矢田氏組合を脱して秋山氏之に代り協力して事業に精勵し居れり。



近藤秋元玉場の圖

秋元強之進

北サントフキ、アベニユー二〇七

氏は新潟縣北蒲原郡新發田町の人、明治三十二年四月シヤトルへ上陸し、直ちにスポーケン地方に至りしが又英領晚香坡へ入りフレザー河に於ける鮭漁に従ふこと五ヶ年、千九百三年即ち五月四日加奈陀政廳より歸化權を得、同年十二月シヤトルへ歸り、夫れよりオレゴン州ポートラドに出でモンタナ州ビングスを経て三十七年十二月デンヴァー市へ來り、翌年一月本州南部デラガ炭鑛に赴きて採炭に従事すること八ヶ月同年九月ロッキーフオードに出でハイレに轉じ製糖會社工場に働き、卅九年に於ては同志五名組合にてキャンタロープ三十英町を借地耕作したるも宜しからず、翌年再び製糖會社に入りて四十一年十二月まで就働し、本年四月よりビヤプロ市に來り近藤氏と共同者たりし矢田氏の後を繼ぎて近藤氏と共同にて球戯場を經營す年齢正に不惑を超ゆる一。

村上新次郎

北サントフキアベニユー三〇七

氏は和歌山縣海草郡港村の人にして明治十三年二月を以て生る、三十一年三月英領ビクトリヤ港へ上陸しシヤトルを経てポートランド港に出でたるも暫時にして桑港に至り、種々の家内の勞働に服する二ヶ年、出で、加州グリーンダー、タンクレー地方にて同志の士、十名組合を以て六百英町の果樹園を借地耕作し、一方フレスノに於て六百英町の葡萄摘採人夫を供給するの契

約を爲せしが、三十五年二月コロラド州に入り岡島金彌の手にて本州南部ウォルソン炭鑛へ百



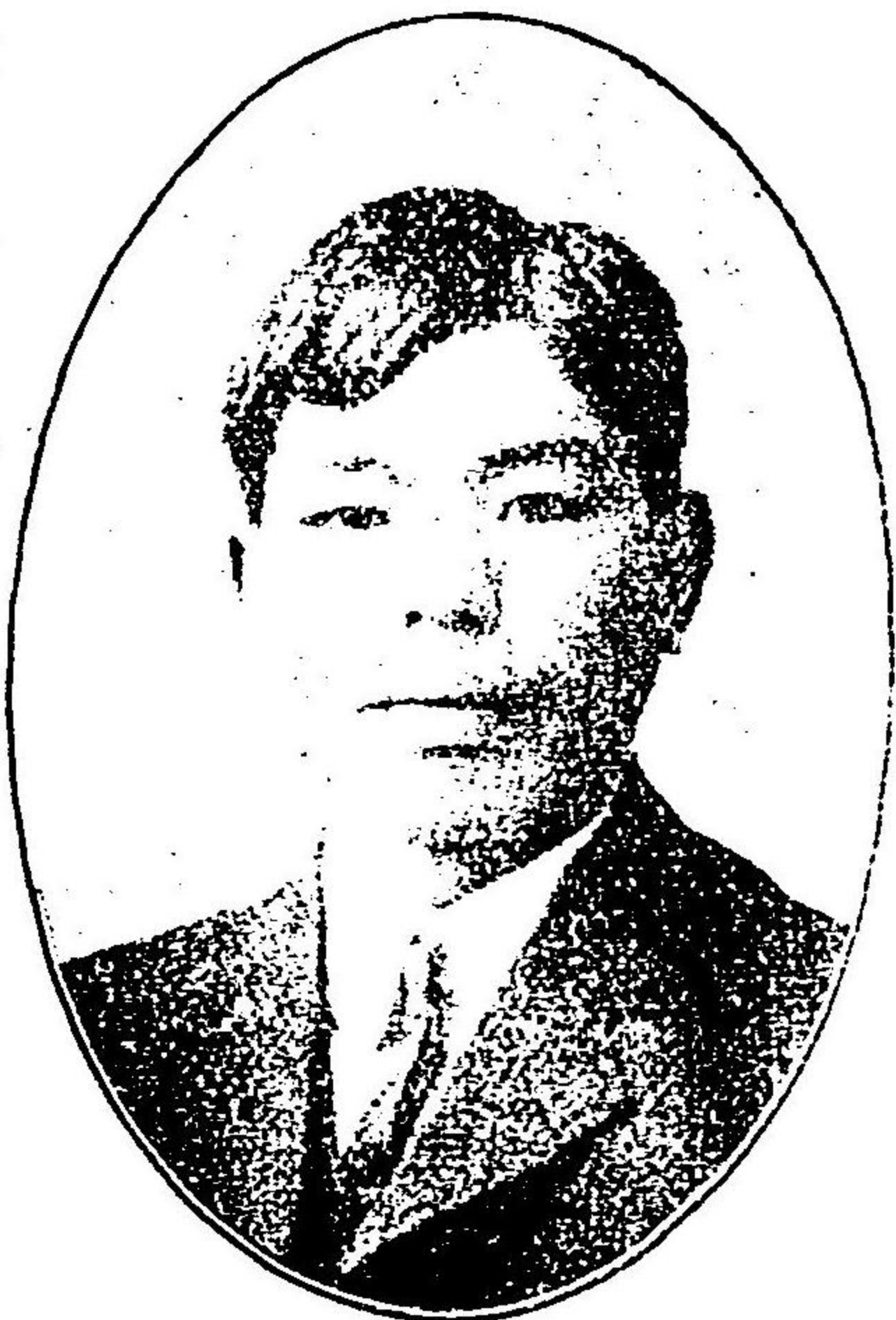
村上新次郎

二十人の坑夫を供して之に主任たり、三十七年七月に至りて三浦、長田兩氏の契約したるライ
オグランド、ウエスタン鐵道の土均し工事の人
夫百二十人のギヤング長たり、後ちデンヅーラ
イオグランド線のラボカにセクションホーム
（工夫長）たること二ヶ年餘、四十一年度は中尾
文之助氏と共同してスウインクに於て農園労働
者の供給契約を爲し、本年二月よりビヤプロ市
月に至りて森山氏へ讓渡し目下さる事業に向て策
戰計劃中なり、年齢漸やく而立、之を氏が小
傳と爲す。

森山八十吉

北サンタフェ、アベニュー三〇七

氏は新潟縣北蒲原郡新發田町の人、明治卅年六月廿歳にして布哇ホノル、へ渡航しワイナク
其他の耕地に於て勞働し、卅八年三月轉航して桑港へ上陸し直ちにアイダホ州に入り、オレゴン
シヨートライン鐵道に働き、同年五月コロラド州に入り。ビヤプロ鐵工所に就働し、夫れより
四十一年五月まで本州南部のハーレー及スウインクの製糖工場に三ヶ年間攷々として働き、得



森山八十吉

事に當り居れり。

近藤匠

北サンタフェ、アベニュー一一九

氏は明治三十一年十月を以て布哇ホノル、港へ上陸
し所々の耕地に於ける甘黍の栽培に従事し、三十八年
一月に至りて桑港へ轉航し來りてユニオンパシフェツ
ク鐵道に入りワイオミング州のセクションに働くこと
一ヶ年にして三十九年四月に至りデンヅーへ出て次い
て本州南部トリニダットの炭鑛へ赴き後ちビヤプロ市
へ來り製鐵所に就働し昨年五月に至りて新田氏の經營

近藤匠氏の玉場



したりし現在の玉場を譲り受け今や益々旺ならんとす、蓋し球戯場は其趣味最も普遍的なるを以て娛樂機關としては優良なるものなるべし、同玉場に顧客の便利を計りて其一隅に白人の理髮店を設け居れり。

ロッキーフオード

コロラド州に於て最も邦人の口に膾炙する所なり、之れコロラド州に於て邦人が農業に従事したる最初の土地なるが爲めなるべし。

ロッキーフオードは同州南部に於ける重要な農業地にして人口四千サンタフェ鐵道を以て交通の機關となす、ビャプロ市を去ること東五十三哩、アメリカン製糖所あり甜菜及キャンタロープを以て名あり其他野菜及果物の成熟極めて良好なり。

同胞が單にロッキーフオードといふもニューデール、セクター、ビンガムの小字を總稱したる名稱なり、而して同胞が始めて同地方に入り込みしは千九百三年(明治三十五年)五月西村才次郎氏が三十五人の労働者を引率し農業上の經驗を得んが爲め來り大根園に労働せしを以て嚆矢とす其當時に在りて當地方人は未だ日本人なるを知らず只加州より轉任せる二名の製糖會社員が日本人なるを知り誇り顔に村人に説明せるありしのみ労働の結果は非常に良好にして以て當地方農夫をして日本人が砂糖大根耕作に一種の技術を認めしめたり三十五人の労働者は正直に就働し毫も倦怠の色なく中には賭博せんとするものありしも西村氏は之を嚴禁し自ら預りて賃

銀を貯蓄せしめたり、之れ現今と事情を異にし其當時にありては仕事に比して労働者多く皆除外されんことを恐れればなり時世の變遷も亦速かなる哉。而して其卅五人中當地方に止まりたるものは十人にして他の廿五人は加州に向つて歸りぬ之れ其氣候の適せざりしと仕事の不足なりしに因る也、而して現今猶當地方に在留するは西村才次郎氏と都乙作氏との二人あるのみ。

當時傳馬に在りし外園氏は西村氏の經驗せる當地方の農況を艸して之を新世界に投じたるに山中正雄及び矢野由次郎(乾坤と號す)の二氏は視察に來り山中氏は砂糖大根八十英町歩キャンタロープ二十英町歩矢野原、木村組は砂糖大根七十五英加キャンロープ十五英加を耕作し西村氏又農業に従事するに至りぬ。

三十六年即ち千九百三年は農夫にとりては不幸なる年なりき砂糖大根は不作の極なりき矢野原組は耕作を中止し山中氏は辛ふじて繼續せしも收穫するを得ず製糖會社に委託し、農學研究の爲め在フォートカリンズ州立農科大學に入學せるも翌三十七年日露開戦に當り身軍籍に在りしを以て召集に應じ歸朝せり。

次に加州より移住せるは森銀之助氏なりき氏は同勢十人を引具し砂糖大根三百五十英加キャンロープ百五十英加を耕作せんとするや西村、山中及び木村の三氏は其計畫の餘りに大なるに失するを以て協議の上忠告するに決し山中氏を以て森氏に言はしむる所ありき蓋し灌漑の法は加州と趣を異にし労働者少きを以て也然れども森氏は毫も之に耳を傾くることなく事業を進行して見事なるキャンロープと一英町に付八九噸の大根を耕作したり而かもキャンロープ全部を

出荷するに至らず僅かに其一部を出荷せるのみビーツの收穫を全ふせずして破産の已むを得ざるに至れり之れキャンロップ耕作に非常の費したるとキャンロップの價格下落せるが故なり、翌三十八年一月森氏は傳馬を経てアイダホ州に向はれたりといふ而して之れ三十七年度の事に屬す森田徳三郎組が地主と歩割にて砂糖二十英町歩を耕作せるも亦本年度なりき。

日本人が失敗者の多かりしに係らず當地方の農夫は常に日本人が大根仕事殊に間引に最熟練にして且つ迅速なるを認めたるのみならず日本人労働者は永久労働者たるに甘んぜず資本を貯蓄して獨立耕作に移るを觀破し他人種に優るの長所あるを知りて歓迎するに至り市中何れの商店も取引を開始するを快諾するの傾向を示せり而かも會社は農夫の希望に添はんが爲め日本人の來住を奨勵せしも好結果を得る事はざりき。

三十八年度に至り南部炭坑地方より柳、西川、山本、久保の諸氏移住し來り共同してキャンロップ二十五英加を耕作し相場格外に騰貴せしを以て非常なる利益を得たり、柳其他の諸氏が非常なる利益を得たるの報傳播するや來り住する者益々多く三十九年度に至りては左の耕作者を見るに至りぬ。

組名	砂糖大根	キャンタロップ	計
柳	三七	五八	九五
西川	四〇	一四	五四
西村才次郎		三八	三八
村上、本田、秋元、八重山		三〇	三〇
井上、岩崎、竹原		一〇	一〇
岡田、梶井			
川上松井組			

計 七七 一五〇 二二七

三十九年には格外に利益を得たるものもなかりしも相應に收益を得たるを以て四十年度に至りては百五十英加を増加せり、

組名	砂糖大根	キャンロップ	アルファアルファ	計
久保、筑紫組	一〇〇	四〇	一〇〇	二〇〇
富田、岩本、田代、柴田、増永、岩崎外二人	四〇	四〇	八〇	一六〇
横山城戸組	四〇	一四	六四	一〇〇
井上、常風、組	二〇	三〇	五〇	一〇〇
上田、竹原、組		四〇	四〇	八〇
村上、川上、組		二八	二八	五六
柳		二〇	二〇	四〇
西川		一七	一七	三四
山本		二〇	二〇	四〇
總計	二〇〇	一七二	三〇	三八二

組名	砂糖大根	キャンロップ	トマト	ホキート	アルファアルファ	計
井上、田代、竹原、山崎、菊松組	一〇〇	一六〇				二六〇
久保	一〇〇	一〇				一一〇
筑紫、澤村、組	三〇	一〇				四〇
横山菊松組	三〇	五		二五		七〇
村田、芳之内、佐伯、組	三〇	三七				六七
高橋安太郎	三〇	一五				四五

四十一年に至りては益同胞の注目する所となり獨り英加數に於て増加したるのみならず新人物の移住せるを見る、即ち左の如し、

谷、林、金友、組	一五	二七							三六〇
村上	二二	一一							四二
柳、常風組		三〇							三四
城戸		一七							三〇
西川		二〇							二〇
川上、木村、北山、 松本、未本組		一四							一四
中本、田邊、 戸田、三宅 組		五							一〇
松本		五							五
富田、久代組 (マンザラ)		一六〇							一六〇
總計	三五七	三七七	五	二五	七三				八三七
備考×はマシメロン									
九月横山氏はキャンロープの外大根、アルファアルファ及びへーの收穫馬及農具を千八百弗にて某露國人に賣り歸朝せり									
四十一年は早魃の爲めに結果佳良ならず中には全然に歸したるものもありしも毫も届するこ となく當地方に農業の有望なるを認め今年に入りて益増加の度を示せり									
熊野	二七	一八	二三			四〇	計	一〇八	
久代、中川、前田、組	三〇	三五		一〇				七五	
村田、與戸、七海、組	三五	三七						七二	
筑紫	二二	五	四〇			三		七〇	
谷、兼友、組	一五	二九	一八					六二	
井上組		四〇						五〇	
久保	二五	五				二〇		五〇	
荻野組	六	二七		一四				四七	
砂糖大根									
キャンロープ									
アルファアルファ									
へー									
麥									

柳	二五	三五							四五
田部、中本、組	二五	一五							四〇
西村		三五							三五
山長	二〇	七							三五
澤村		八							三三
林組		二二							三〇、半
川木、西川、組	二〇	四							二四
城戸	二一								二一
都	五	八							二〇
末本組		一八							一八
田代兄弟		一〇							一〇
三宅		一〇							一〇
合計	二三〇	三八九	八一	四一	一一四、半				八五五、半
農業經營と共に離るべからざるものは地代なり當地方に於て同胞が借受くる土地は多くアメリカン、ビートシユガコムバニーの所有に係り其地代は年々騰貴の傾向を有するも毎年度の初めに於て評定せられ當地方に於ける地代の標準たり、今左に三十五年以來の會社地代を列記して参考に供す。									
砂糖大根									
歩利									
五分一									
キャンロープ									
アルファアルファ									
千九百二年(三十五年)	八弗								
千九百三年(三十六年)	十弗								
千九百四年(三十七年)	十弗								
千九百五年(三十八年)	十五弗								
千九百六年(三十九年)	同								

千九百七年（四十年） 同
 千九百八年（四十一年） 同
 千九百九年（四十二年） 同

備考 一、右の外一英加に付水代として六十仙宛徴せらるる會社外の分も亦同じ。
 二、會社外の地代は其便否及び地質の如何により多少の相違ありと雖も大根は收穫の四分一、麥三分一、アルフル
 フア二分一、キャンローフは一英加に付十弗より二十弗までとす。
 三、地代納入の方法は農作物代金の支拂を受くるとき第一回支拂分より會社又は地主より差引るゝを常とす。

労働賃金

明治三十五年（千八百九十九年）本地方に、我が労働者が入り込みてより本年に至るまでの
 労働賃銀を示せば大略左の如し。

年	全體受負一英加に付	間	引一英加に付	ホーイング	株切りに付
三十五年	ナシ	六弗	一時間三付	七弗	七弗
三十六年	ナシ	七弗	一英加に付	七弗乃至七	七弗乃至七
三十七年	ナシ	七弗乃至七	七弗乃至七	八弗	八弗
三十八年	十八弗	全上	壹弗七十五仙	全上	全上
三十九年	十八弗	全上	全上	全上	全上
四十年	十八弗	全上	參弗五十仙	全上	全上
四十一年	十八弗	全上	乃至四弗	六弗乃至	六弗乃至
四十二年	—	—	六弗五十仙	壹弗七十五	六弗五十仙
			仙乃至貳弗	仙乃至貳弗	乃至七弗五十仙

備考 一、若し時間にて働くときは、壹時間拾七仙五厘を例とす。
 二、同題はメキシコ人に比し一英加に付廿五仙方、一時間に付貳仙五厘乃至五仙方の高き賃銀を得るを常とす。

労働請負者

左にロッキーフオードに於ける労働契約者年表を掲ぐ。

年	請負者	人数	備考
三十五年	西村才次郎	労働者三十五人	
三十六年	森本枝之丞	全上	
三十七年	富永時次郎	労働者不足の爲め中途廢止	
三十八年	小野田 某	労働者十人	
三十九年	小川 某	全 八人	
四十年	富田 耕馬	タツブ時期にサンタフェ鐵道より七十人と共に就働	
四十一年	岡本山根組	六十人内外	
四十二年	谷 義 正	三十人内外八月山根豐逃亡す	
	室 谷 某	不作の爲中止	
	富田 耕馬	キャンタローフ販賣の件に付九月失踪	
	常 風	十月ダウソン炭坑に移る	

備考 一、富永時次郎氏が當地へ來りしは山中正雄氏のイリゲーション仕事を受負ひたるが始めなりといふ

キャンタローフの收支豫算

當地方のキャンタローフ(甜瓜の一種)が、一種云ふ可からざる風味を有し、全國の名物たる
 は既に世人の知る所なり、今起業せんとするものゝ爲めに收支豫算を掲げて参考に供す。

項目	金額
創業費	一金貳百五十弗
馬貳匹ハリス付	一金七十五弗
運搬用荷車一臺	—

一金十五弗
 一金六弗
 一金四弗五十仙
 一金貳弗五十仙
 一金貳弗
 一金壹弗
 一金五十仙
 計金參百五十貳弗五十仙

ハロー
 レベル
 カルテベター
 ジャベルプロ
 フェンス
 ホー
 レーキ

經營費

地代水代共

一金百六十五弗
 一金貳十五弗
 一金十七弗五十仙
 一金五弗
 一金五弗
 一金參弗五十仙
 一金貳十弗
 一金五弗
 一金四十弗
 一金十七弗五十仙
 一金貳百六十貳弗五十仙
 一英加百五十面と見積り一函に付十七仙五厘 但しホール代共
 一金百八十七弗五十仙
 一金貳十貳弗五十仙
 計金七百七十六弗也

深サ十二吋(一英加ニ付貳弗五十仙宛
 種代 壹斤ニ付壹弗七十五仙
 ハロー代
 レベル代
 種蒔賃
 カルテベター四度分
 水カケライン付
 水カケ四度分
 ホー三度
 摘採費
 クレート代
 全釘打付代一函一仙五厘

一金千百廿五弗
 差引金參百四十九弗
 備考 純益は收入より營業費を差引たるものなり但し創業費は純益中より年次償却するものとす

收穫千五百クレート 一クレート平均七十五仙ノ割
 純益

砂糖大根耕作の收支豫算

キヤンタローブ耕作に關する收支豫算は前項の如し、今左に同地方に於ける砂糖大根耕作の
 收支豫算を示して以て同業者の參考に供す。

創業費 (二十五英加之見積り)

金四百弗
 金百五十弗
 金四十五弗
 金貳十弗
 金拾五弗
 金拾五弗
 金拾參弗
 金六弗
 金壹弗七十五仙
 金壹弗
 金五十仙
 計金六百六十七弗貳十五仙
 經營費
 金六十二弗五十仙
 金十二弗五十仙
 金十二弗五十仙

馬匹三頭ノテス共

運搬用荷車一臺
 種蒔器械
 カルテベター
 ブラウ
 ハロー
 子ツト
 レベル
 フオーク
 シヤベル
 ホー
 ブラウ
 ハロー
 レベル

金十二弗五十仙	種蒔代
金五十弗	種代
金十五弗	スパイダーナイフ付
金百六十貳弗五十仙	カルテベター
金貳十貳弗五十仙	シンニング
金貳十弗	カルベター三度
金五十弗	イリゲーシヨン
金百七十五弗	ホーイング
金百五十弗	タツピング 一英加七弗ノ割
金參百弗	全 十二噸と見積り一噸に付五十仙ノ割
收 入	地代
金千四百四弗	
金千五百弗	一英加十二噸と見積り一噸五弗ノ割
金拾貳弗五十仙	バルブ貳噸 一噸ニ付廿五仙ノ割
計金千五百十二弗五十仙	純益
差引金四百六十八弗也	備考 創業費はキヤンタローブ耕作の場合と同じく漸次償却するものとす。

西村才次郎

ロッキーフオード北メイン街三一〇

入りては良事務員たり、出ては着實なる事業家たり、内に在りては家庭の良主人たり、外に在りては好個の世話焼きたり之を西村才次郎氏の生涯となす。

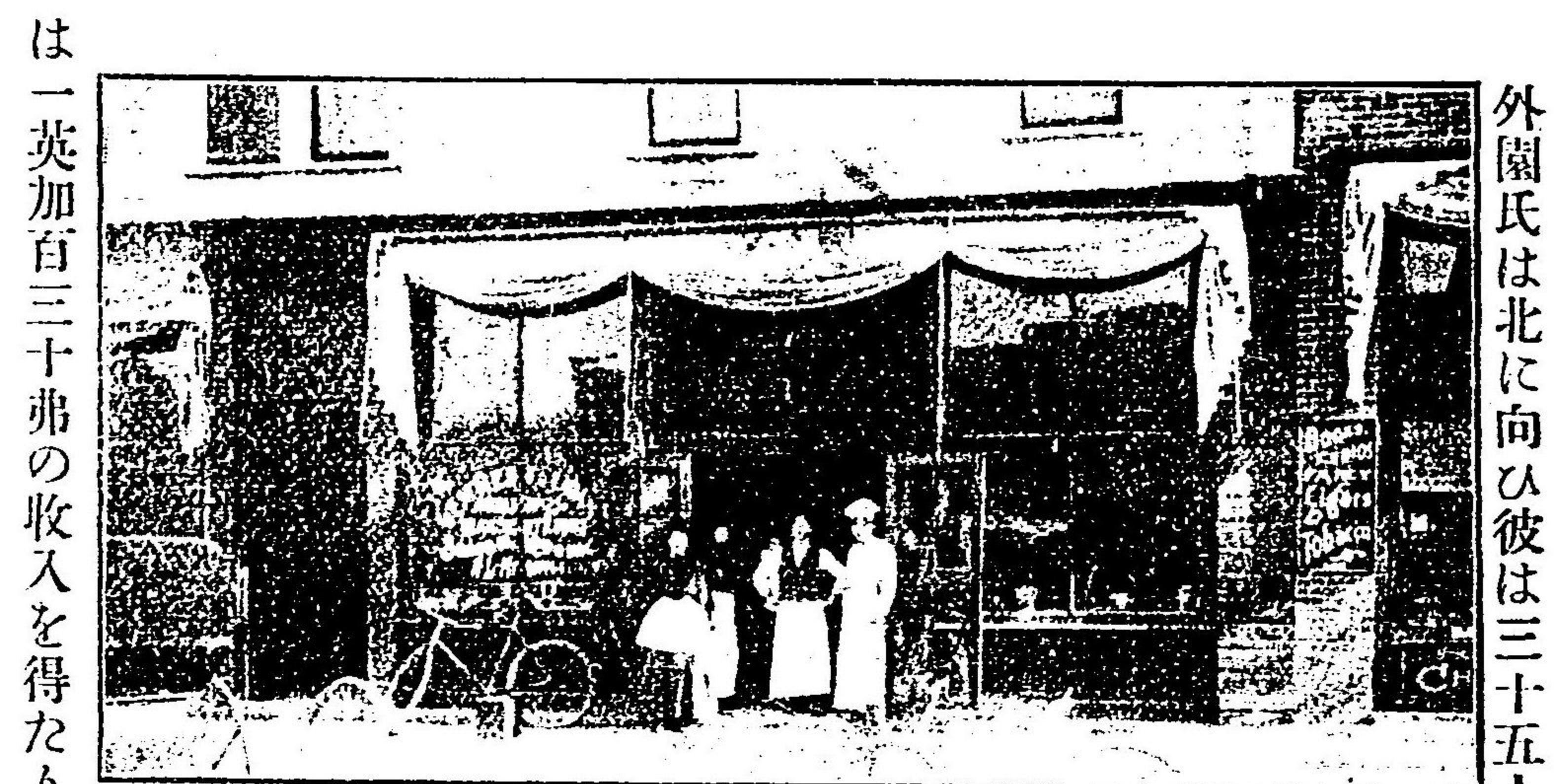
氏は廣島縣阿佐郡祇園村の人なり、明治二十六年七月英領晚香坡に上陸しシヤトルを経て、ポトランドに到着せるは翌二十七年なりき、恰も伴新三郎氏が鐵道受負業を創むるの時なりしが聘せられて氏の事務員となり、翌二十八年九月現時の支配人下村眞鋤氏を後任者に推して辭職し加州羅府に至り、レッドランド及びサンビドロにてレストランを營むこと四年に及びしも事志と違ひ皆失敗に歸しぬ、則ち方向を轉じ商業を視察せんが爲めデンバーに來れるは實に明治三十三年九月なりき。

當時傳馬市に於ける日本人は寂寥たるものにて市中にはローレンス街にて十四街近くに大野



西村才次郎

洋食店あり、支那街に竹細工せる新田某あり、第十五街のコートハウスの近傍に井出歌吉氏が竹細工店を開くに過ぎず、家内の勞働者としては前田某夫婦其他二三人ありしのみ、外園氏がコック働きの掛合に行きしに日本人の料理人は不用なりとて拒絶せんとせられたるに徴しても、當地方の米國人が日本人を解せざりしを知るを得べし、デンバーに着するや外園直一氏と會ひ互に相知るに至り、相共同してローレンスとラリマー街の間にロックアイランドなるレストランを開き拮据經營すると一ケ年に及びしも利あらず、寧ろ農業の有望なるを悟り、身を農業に投じ將來大に爲すあらんとを誓ひ、店を白人に譲りて互に惜き袂を別ちしは三十五年五



西村洋食店

外園氏は北に向ひ彼は三十五人の健兒を率ゐて南ロッキ、フォードに趣き、將來農業經營の準備として、自ら彼等のフォアマンとなりアメリカン、ビーツ、シュガー會社の大根園に働き、同地の土壤、營農法等を研究し且つボークの監督其宜しきを得たるを以て同會社及び同地附近の農夫の信用を博したり、益々同地の有望なるを認め、三十六年始めて四十五英町の土地を借り受け砂糖大根(二十五英加)キャンドロップ(十英加)アルファルファ(十英加)の耕作に従事せり、同年は大根は一英加に付僅かに三噸乃至四噸の收穫に過ぎざりしが、キャンドロップは一英加に付き平均百弗の純益を得たり、三十七年も亦前年の如く繼續し作物は昨年と正反對にしてキャンドロップは漸く費用を償ふに過ぎざりしも、砂糖大根は非常の豊作にて一英加に付十七噸を産出せり、三十八年は四十九英加に増加し砂糖大根(三十五英加)及びキャンドロップ(十四英加)を耕作せり、共に大豊作にして大根は一英加十噸を産しキャンドロップは一英加百三十弗の收入を得たり、而して夫人をシャトル埠頭に迎へ新家庭を作りたるは本年

八月の事なりき。

三十九年は更に英加數を増加し大根(四十英加)キャンドロップ(十四英町)を合せて五十四英加を耕作せり、亦可なりの豊作にして平均十噸の大根とキャンドロップは英加に付百弗の收入を得たり、本年七月十五日を以て長女米子を擧げぬ、四十年に及び農事を擧げて横山菊松氏に讓渡し、一月廿四日を以て現今のゼムレストラントを買受け傍らルーミンクハウス業、雜貨及び日本食料品等を直輸入して販賣す、四十二年三十五英加のキャンドロップを作る。

苟もロッキ、フォードに在るものにして氏を知らざるものなく、内外人の信用日に厚さを加ふ亦宜べなりと謂ふべし。

久代義衛 中川勘捷

郵函三四三

久代義衛氏は山口縣玖珂郡愛宕村の人なり、明治十三年一月三日を以て生る、世々岩國藩士にして録百石を食む、父を傳と稱し御座殿士なり、明治二十九年五月シャトルに上陸し漁期晚香坡に至りて鮭獵に従事するを常とせり、三十年ワシントン州マウンツ、ヴァーノンに至りて屋根板製造の契約をなし一時盛大を極めしも水害の爲めに失敗の不幸を見るに至れり、卅二年モンタナ州ハーヴァーに至りギヤングを組織して大北鐵道に就働すると二ヶ年、解散後パーリンク鐵道に轉じセクション、フォアマンとして働くと九ヶ月次でモナーク炭坑に轉働し居ると一ヶ年相當の資本を貯蓄せるを以てコロラド州デンバー市に来れるは三十六年十月の事なり

き、富田耕馬氏と共同してブレキ街に玉突場を開き前途の計画をなす、翌三十七年二月同街



久代義隆

千九百二十六番にエクスプレスを開業せり蓋し
斯業の元祖なり、同胞の増加するに従ひ單獨業
に當る能はざるを以て三十九年八月岡正太郎及
び前田寛太郎の二氏を共同者となし、益々業を
勵み四十一年三月に及べり、次でマンザノラに
富田氏と再び共同してキャンドロップ百六十英
町を耕作するの計劃成り之がパートナーを辭し
専心農業に従事す、この岡氏の東洋運送及び前田氏の傳馬エクスプレスは即ち之が後身なり。
マンザノラのキャンドロップは土地の不適當なりしと、耕作其法を得ざりしと、近年稀なる



中川勘助

早魘の爲めに可惜失敗に歸せしも毫も屈する
なく、四十二年ロッキ、フォードに移り中川、
前田の兩氏と共に七十五英町を借地し、キャン
ドロップ(三十五英町)砂糖大根(三十英町)牧草
(十英町)を耕作す氏は公共の念に乏しからず四
十一年春撰ばれて傳馬實業同志會會計となる、
四十二年二月ロッキ、フォード在留同胞と計
り以て農業發達を計らんが爲め農業同志會を設立せしもキャンドロップ販賣の法宜しきを得ざ

りしたため却て衆怨の府となり、富田耕馬氏の失踪となれるは、吾人の遺憾とする所なり、好漢
自愛して更に後圖を劃せよ。

中川勘助氏は明治十七年七月十日を以て廣島縣佐伯郡大竹村大字大竹に生る、明治三十二年
十月布哇に渡航し、馬哇其他の耕地に就働し三十七年七月を以て桑港に轉航す、加州櫻府、フ
レスノの各地に轉働すると一年、三十八年十一月ユタ州オグデンに來り翌年十二月アイダホ州
アイダホ、フォールスに入り大根園に就働す、四十年三月コロラド州フォート、モイガンに進
み兄弟共同して八十英町の大根を耕作す、四十一年三月コロラド州サウザン鐵道のギヤング長と
なり次で南ハレーに大根園に働き終りてデンバーに來り、四十二年二月、久代、前田の兩氏と
共同して當地に農業を營む。

前田氏の傳はデンバー市の部にあるを以て重複を避けんが爲め茲に省略す。

西川吉之助 川本喜代楠

ロッキ、フォード 郵函三二五

西川氏は和歌山縣有田郡宮原南村の人なり、明治三十一年三月英領バンクイバに上陸し鮭
漁に従事すると四ヶ年轉じて加州桑港に來るは三十五年八月なりき、直にフレソノを経てワイ
オミング州ロツク、スプリングスに入り同年十二月まで就働せり、三十六年三月當地に入り爾
來キャンドロップの耕作に従事し、四十二年は川本氏と砂糖大根(二十英町)キャンドロップ
(四英町)を耕作するの外マーシヤル、ヤング會社の耕作せるメロン二百七十一英町に人夫を供

給して摘採をなせり、蓋し當地方に於ける古參者の一人なり。

川本氏の畧傳はニューメキシコ領ダーソンの部に掲げたるを以て之を略す。

城 戸 三 平

ロッキー、フォード 郵函三〇二

城戸三平氏は熊本縣玉名郡大野村字中土の人なり、明治三十二年十二月布哇に上陸し蔗糖耕作法を會得したる後請負耕作を試み相當の利益を得たるを以て三十五年六月加州桑港に至り、櫻府オーブン地方に赴き菓物の摘採に従事すると二ヶ年なりき、偶々コロラド州南部地方の炭礦が同胞坑夫を募集するに當り兄弟相携へてウォルソン炭坑に來りしは卅八年十月なりき、就働二年、四十年四月ロッキー、フォードに來り西村氏の農業を譲り享けたる廣島縣人横山菊松氏と共同し砂糖大根(三十英町)キャンドロップ(十七英町)アルファルファ(十三英町)を耕作せり、四十一年獨立してキャンドロップ(十七英町)アルファルファ(三英町)を耕作し、四十二年に至りては六十八英町の土地を租借してキャンドロップ、砂糖大根、アルファルファを耕作す人各得意あり、其得意とする業を執り、有無相通ずるは社會の常態なり、兄弟亦然りとす氏の如く其業を異にするも、互に相倚り相扶くるに至りては蓋し其道を得たるものなりといふべし。

萩野忠太郎 犬飼健三郎 川上實三郎

郵函二九四



萩野忠太郎

萩野氏は明治十二年二月を以て福井縣遠敷郡瓜生村字瓜生に生る、明治卅六年十月布哇に上陸し十二月加州桑港に轉航し、ニュービー鐵道工夫となりワイオンク州に入る、就働すると十ヶ月、コロラト州ビヤプロ鐵工所に轉働せるは三十七年十二月なりき、三十八年四月ロッキー、フォードに來り大根其他の農園に就働し營農法を會得し、四十二年二月を以て犬飼、川上の二氏と共同して農業に従事す。

犬飼氏は愛知縣海東郡七寶村字沖の島の人、明治十七年三月を以て生る、三十九年六月廿九日シヤトルに上陸し直ちにシカゴ市に至り家内勞働を爲す、十一月轉じてコロラド州スピンクに來り製糖所に就働し終りて翌四十年春ロッキー、フォードに入り、次でビヤプロ鐵工所及びピロックアイランド鐵道に入り、カンサス州の各地に轉働し四十一年四月再びロッキー、フォードに來り農園に就働し、四十二年二月共同農事に従事す。

川上氏は岡山縣阿哲郡野馳村字大野部の人、明治十一年十月を以て生る、明治卅九年七月十

五日布哇島に上陸し八月十一日加州桑港に轉航し、直ちにユイビー鐵道に工夫たり、十二月スキントに來り製糖所に就き翌四十年前半期は全地及びロッキ、フォードの農園に、後半期はピャプロ鐵工所に就働し、翌四十一年再びロッキ、フォードに來りて農園勞働に従事し、四十二年二月前記の兩氏と農事を經營するに至れり。

本年三氏が耕作せる土地反別は四十七英町にして其作物の種類はキャンドロップ(二十七英町)砂糖大根(六英町)牧草(十四英町)等なり。

菊池邦太郎

旅館業 郵函ロッキ、フォード五七一

氏は愛媛縣西宇和郡双岩村の人なり、明治三十七年一月ワシントン州タコマ港へ上陸し、加州羅府に至り轉じてコロラド州デンバー市に來れるは三十八年十二月なりき、卅九年度北部グワレーに至りて外國氏の契約にかゝる大根園に就働し四十年度は南部ロッキ、フォードに方向を轉じ、全地方の農園に働き四十一年三月同地方に於ける同胞出入の増加を豫想し旅館業を初め以て同胞の便宜を計る。

都 乙 作

ロッキ、フォード四二四

明治三十三年六月タコマへ上陸し直に桑港へ赴き、サンノゼ、フレズノ等に轉働し、三十五

年二月コロラト州メイトランド炭坑に至り稻垣氏の部下に従働し、四月ロッキ、フォードに入り西村氏の部下に大根、キャンドロップの業を執ると一年、三十六年爰に自ら農業を經營し大根、及びキャンタロップ三十五英町を耕作す、三十七年四月デラガに往き、八月バーウインドに旅館業を營むと三十八年四月に及び、罷めて又デラガを経て再びロッキ、フォードに來りしは三十八年八月なりき、ラ、ハンタ、ハーバーに働くと半年、三十九年四月復たロッキ、フォードにキャンドロップ三英町を耕作す、四十年二月ニュー、メキシコに到りコシユラー、マインに就働すると一年の後又ロッキ、フォードに歸來し、四十一年三月菊池氏と共に旅館業を營み、八月共同を離れて、四十二年三たび茲に農業を經營し、二十英町の土地キャンタロップ(八英町)大根(五英町)牧草(七英町)を耕作す。

氏は明治五年十一月の生にして島根縣那賀郡都野津村は其郷里なり。

山長延太郎

ロッキ、フォード二九四

氏は熊本縣八代郡谷山村宇西原の産なり、明治六年一月を以て生る、卅九年四月布哇より桑港に轉じ、直にコロラト州に入りヘステンクス、マインに來り、夏季は農園に出て、農夫となり、冬期は炭坑に坑夫となり、苦難三年多大の蓄財を獲たり、四十二年ロッキ、フォードに三十五英町を借地し茲に農事經營に着手す、現時小麥(八英町)甘瓜(七英町)大根(二十英町)を耕作せり。

谷 義 正

郵函ロッキ、フォード四一四

氏は明治十二年十一月二十八日和歌山縣西牟婁郡下芳養村に生る、郷に普通學を修了し、志を立て三十二年四月渡米の途に上る十五日英領ビクトリア港に上陸し、夫より米國ワシントン州沙港に到る、大北鐵道のギャングに長として就働すると五年、其後ワイオミング州バーリグ鐵道にギャング長たると三十八年十一月より三十九年三月に到る、五月コロラド州デンバー市に來り滞在すると四ヶ月又スキネクに到り福島太郎氏と共同砂糖大根の收獲請負契約を爲し、四十年ロッキ、フォードに轉じ茲に農業に着手し土地六十二英町を借地し砂糖大根十五英町、キャンドロップ二十九英町アルファ八十八英町を耕作す、四十一年より兼友氏と共同經營し前年同様の耕作を爲し、四十二年度は二十七英町の砂糖大根十九英町のキャンドロップ十六英町のアルファハを耕作す。



澤村 龜 吉

氏は廣島縣安佐郡可部町の人、明治三十一年五月米國ワシントン州タコマに上陸す、直にモ

ンタナ州ピリングスに到り鐵道に就働すると一ヶ月半其後ミゾラ、モンタナホテルに從働すると二ヶ年餘、夫よりノース、ダコタ州に趣きフロリンスホテルに又家内の勞働すると六ヶ月後加州羅府に出て、卅四年モネタにて農業に着手し則ち草莓園の栽培耕作に從事すると三ヶ年然れども大なる効果を收むる能はざりし、時インタマウンテンは開けて其有望は廣く傳へられて同胞の發達亦漸く盛んならむとす、氏も此に志し格州デンバー市に來りしは千九百四年今より五年前なりき、市に家内の勞働に從事し又田園に入りて農業に就働する等具に寒暑の辛酸を味ひ素意とする農業經營の資を得たり、四十年ロッキ、フォードに來り此所に復たび農業を經營するに到る當年甘瓜八英町を耕作し頗る豊收を得たり、四十一年築紫市藏氏と共同壹百英町を借地し甘瓜、甜菜、牧草等を栽培し、四十二年度地をスキネク方面に轉じ、獨力五十英町を借地し現時麥四十英町、甘瓜十英町の耕作に從事す。

兼 友 順 助

郵函四一四

氏は廣島縣豊田郡沼田東村末光の人なり、明治卅三年一月布哇に渡航し、布哇島ハマクワにて他の四名と共同にて珈琲の耕作を爲すこと四年精勵甚だ力めたるも其結果は竟に良好ならざりし、明治三十七年七月加州桑港に轉航す、時はロッキ地方の有望は傳播せり、仍て氏は格州に志しビヤプロ市に來り鐵工場に就働すると二年氏は初より農業を素志とすれば其經營の資を求むるべく鐵工場にある一日儉安なく精勤毫も怠るなく多大の蓄財を得たり、四十一年ロッキ



柳 虎之助

一、フオードに到り谷義正氏と共同農業を經營す斯年砂糖大根、甘瓜、苜蓿等六十二英町を借地耕作し、而して本四十二年は依然谷氏と共同に於て甜菜、甘瓜、苜蓿等にして耕作面積全じく六十二英町甘瓜の栽培を減じ甜菜を増加し、一致共力致々其業に奮勵せり、本年の收穫は已に近く好良の豫想なり、故に次年度より事業を擴張すべく其準備は着々として今進捗せり。

柳 虎之助

郵函二九四

和歌山縣和歌山市幡屋敷町の人、明治三十三年加州サンフランシスコに上陸し、爾來幾多辛酸を嘗て、今やコロラト州ロッキー、フオードに在りて甘瓜栽培に従事す、此地の風土甘瓜の栽培に適し其風味の佳好なる米國第一と稱せられ年々耕作せらるゝ者六百餘英町其産額巨大なるものなり其多くは東部諸州に輸出せらる、而して其三分の二は我同胞に仍りて耕作せらる、氏は此特産物たる甘瓜の栽培には其奥を極め、地方に甘瓜の神様と唱せらる、蓋し其意は「年豊凶あり市價に高低あり他の同業者は收支相償はざる時も甘瓜の神様は他に秀越せる物を産出し必ず相當の純益を收るを以てなり」と由來農作物の豊凶は素より地味の適否及び天候の順逆に因

ると雖も之を耕作するものにして其妙に達せば寧ろ此を利用するを得べし從て其成熟の早晚を自由にするに難からず要するに是學理的應用に俟たざる可らず、氏は甘瓜の栽培上這般の消息に通曉せるもの。



柳 虎之助

はざりしを以て南加羅州地方に赴き甜菜園の勞働に従ふと二年、三十五年八月方向を轉じコロラト州南部のブリメロ炭坑に來り、熱心宮内氏の部下に働き以て將來の資本を貯蓄せり、然れども農業に興味を有せる氏は炭坑に長く留るを欲せず、翌三十六年五月ロッキー、フオードに來りて甜菜仕事に従ひ、農業地として同地の有望なるに囑目せり、三十七年ヤングマーシャル會社が始めて同胞をして甘瓜を耕作せしむるに當り、西川氏等五名と謀り二十一英町を受負ひ之が耕作の經驗を得ると同時に不尠利益を得たり、之れ氏が甘瓜に多大の興味を有するに至れる初めなり、三十八年再び西川、久保、山本、酒井の諸氏と共にアメリカン製糖會社所有地百十八英町を借り受け大々の計劃を試み利益を得ると共に其興味を覺ゆると益々深し、三十九年より獨立經營にて二十五英町の耕作を試み、四十年には三十五英町、四十一年には二十七英

町、四十二年度は三十五英町の甘瓜及び十英町の牧草を耕作す、常に他の同業者に比し少くとも倍加の利益を得ざるとなし、氏が耕作に従事するや發芽期に到れば日出より日没まで畑にありて各株を點檢し、其葉色によりて是は灌溉し或は幼芽を踏み以て其發生を均一ならしむ、摘採期に及んでは自ら巡檢して怠るとなし、斯くの如くすると收穫を了るまで一日も怠るとなく、年々歳々亦變る事なし、斯の熱心にして始めて技熟し甘瓜の神たるを得べし、成效の途豈に他にあらんや。

氏人爲り温にして恭、而かも人の爲に忠、公共の念亦深し氏が其事業に於て一生面を開き、一頭角を擡んずるは決して遠きに非ざるを信ず。

久保捨吉

郵函二九四

氏は和歌山縣日高郡和田村入山の人なり、中年渡米を志して三十三年六月加奈太平洋漁船の便に乗じて英領ザイクトリア港に着す、時恰もフレサー河の鮭獵期に際し漁者の収入は短日月に驚くべき大なるものあり、氏は之に従事せんと一韋帶水バンクイーバーに至る、茲に二年漁業に従事し、三十五年九月海運にて米國ワシントン州タコマ港に上陸し、ワイオミング州に入りロック、スプリングス炭坑に就働すると二年にしてコロラド州デンバー市に來りしは三十七年の初めなりき、二月デラガに赴き炭山に苦役すると一年、三十八年四月ロッキーフォードに來りニューデールに農業に従事し、三十九年よりロッキィ、フォード製糖會社の土地を借地

し甜菜、甘瓜等の耕作に力め、爾來引續き之が經營に苦心し孜々精力を盡し、年々歳々好果を收む、説聞く次第よりは大々の擴張すべしと。

末本篤三

郵函五二五

氏も亦和歌山縣日高郡にして名田村字上野に生る、明治二十八年五月桑港に來り白人家庭に従働し傍ら學舎に通ずる一年餘其後ブランドンスタイン商店及び税關に勤むると又一年にして須市に到り煉瓦製造場に就働する一年半に迫り、復桑港に歸り、某製藥店にあると二ヶ月、又學僕となり通學七ヶ月、後ナイルスに到り植物苗木會社に働くと五ヶ月去りて田園に入り甜菜耕作の請負契約を爲すと二年間、三たび桑港に出て又學僕となり、聖公英學校及びユールデン、ゲート、スクールに通學すると一ヶ年にしてアラメダに到り食鹽製造場に四ヶ月を就働す、時にネブラスカ州エスベラ郡ロートマーシの山鹽製造所と初めて日本人を使用するに當り、氏はボスとして勞働者十人を引率して茲に到る、之れ三十六年十一月なりき、六ヶ月を経て再び加州に出て櫻府を過ぎりフリーポートに従働する一ヶ月又桑港に到りデー、オークを業とすること二ヶ月後ワツソンビルに到り百六十二英町の甜菜又サリナスに四百二十八英町の甜菜請負耕作を爲せしも結局歸する所は失敗に終りし。三十八年十月モントリールを経て羅府に往き白人家庭にクツクを爲して一ヶ月を過ぎ次て花卉商に働くこと二ヶ月、後徒歩してオックス、ナードに出て伐木の業に就く四ヶ月又ワイネームに至り甜菜の請負耕作二百英町、業を終りサンタ

マリアを経て再びワットゾンビルに到り草葎園三十英町を經營す、四十年に到り之を他に譲り桑港に出てワイオミング州シャイエンに來りコロラド州に入りイートンに甜菜耕作をなし、其八月デンバー市を経てピヤブルに到り鐵工場に在ること月餘にしてカンサス州ガーデン、シムに趣き甜菜收穫に従事し業終りてネブラスカ州マリアンスのラウントハウスに働く二ヶ月後ロッキ、フォードに來り甜菜耕作百六十英町を契約し尙自ら十二英町の甘瓜を栽培し本年は甘瓜十八英町を栽培せり。

熊野彌作

郵函三二四



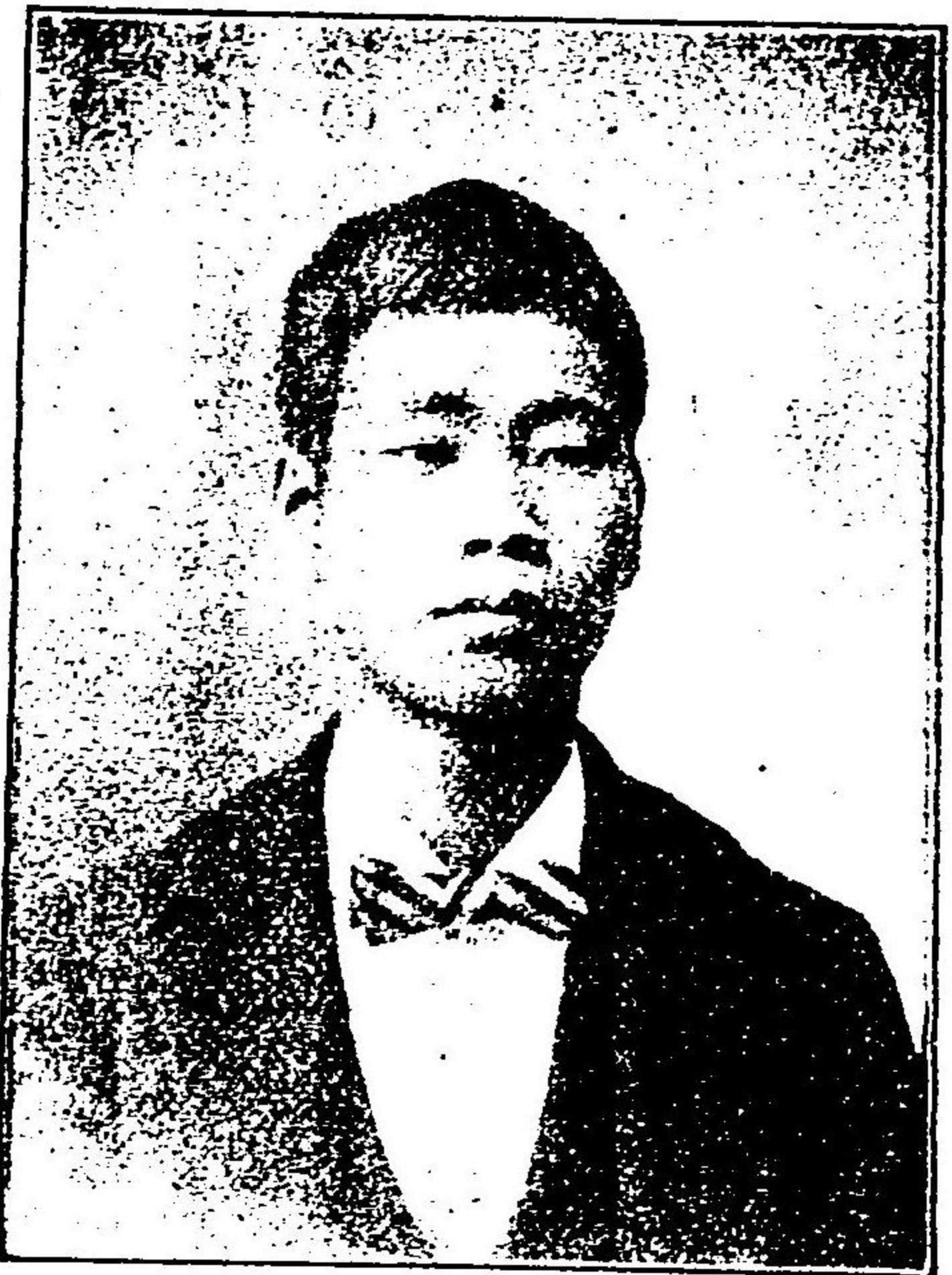
熊野彌作

氏は明治十二年九月廣島縣豊田郡沼田東村末光に生る、明治三十四年十二月布哇に渡航しホル、市附近に蔬菜園を經營せしが三十六年一月に及び加州桑港へ轉航し櫻府平原に至り農業を執ること四ヶ月、ユ、ビー鐵道を利してコロラド州デンバー市に來りしは其年の六月なりし、直に外園氏の契約に係るロッキ、マウント溝渠開穿に従事し、又グリーレーに下りて甜菜收穫に就働し、後ち木山、高塚の契約せるライオグラウンド線狹軌鐵道に就働し農業期に到りハレーに出て甜菜耕作に従事し、卅八年二月ロ

ス、アニマスに到り三人共同にて農業を經營し八十英町の甜菜を耕作し好結果を得たり卅九及四十年は業を擴張し百六十英町を耕作す、超へて四十二年一月現所ロッキ、フォードに來り令弟佐一氏と共に百〇三英町の土地をリースし甜菜廿七英町オーツ四十英町牧草廿三英町甘瓜十八英町等を耕作す。

村上秀次

郵函二九四



村上秀次

明治二十七年一月英領加奈太コロンピヤ州バンクアバーに上陸し、次て便船にイ米國オレゴン州の商港ポートランド市に來る附近の野に入りて伐木業に従事すること數旬にして加州に入りサンノゼ及バカビルに菓物の摘採を爲すこと二年アイダホ州にオレゴン、シヨート、ラインに鐵道工夫となりて寒暑の苦役八年の久しきに追ふ、三十七年二月コロラド州に入りデラガ炭坑に就働し、三十九年二月に到りロッキ、フォードに來り茲に資本を放ちて農業の經營に着手す則ち其年甘瓜三十七英町を耕作し四十年四十五英町を四十年甘瓜十二英町甜菜廿二英町を耕作す、本年度は氏の望む圃場を得る能はずして他の農業に従事し而して明年よりは事業を大に

し六十英町の土地は既にリースし甜菜五十英町甘瓜十英町を耕作するの豫定にして準備は今や完く就れり。

氏は熊本縣下益城郡西戸町清水の人、明治九年八月を以て生る、資性温順質朴にして其忍耐不撓の精神は在留同胞の模範者たり。

七海周次郎
村田庄作
宍戸仙助

郵南一六四



七海周次郎

七海氏は福島縣岩瀬郡白方村字今泉の人、明治五年一月生なり、三十八年の二月メキシコ國コハウイラ州ラセスベランパスに到り炭坑に在ると一年九ヶ月、三十九年エルバソを経て米國に入る、サンタ、フイー鐵道に倚りアンゾナ州に入り、ギブソン其他の炭坑に就働し、四十年五月コロラド州ラマーに來り甜菜シンニグの業を執り七月ロッキイ、フォードに來り又甜菜及甘瓜の業に従事し四十二年村田、宍戸の兩氏と共同七十二英町を借地し甘瓜、甜菜を耕作す。

村田氏は山口縣大島郡森野村字平野の人にして明治二十年四月生、明治三十六年十六才の時



村田庄作

布哇に航し、甘黍耕地に就働すると二年、三十八年五月桑港に轉航し、ユー、ヒー線及びライオ、グラント線に鐵道の業に従ひ、又ニュー、メキシコ、ダワソン炭坑に入る此間二年、四十年五月コロラド州ロス、アニマスに出で、甜菜耕作の業に就き、十二月ロッキイ、フォードに來り四十一年芳之内、佐伯の兩氏と共同して六十七英町を借地し三十七英町の甘瓜、甜菜を耕作し、四十二年度に於て宍戸、七海の兩氏と共同甘瓜三十七英町甜菜三十五英町の耕作を經營す。



宍戸仙助

宍戸氏は福島縣信夫郡の人、明治十三年一月水保村字土船に生る、明治三十六年三月布哇に航し一年甘黍耕地にあり、三十七年十月加州桑港に轉じユー、ヒー線に就働しつゝ格州に入りデンバーを経てピヤプロに到り、鐵工場に一ヶ月半を経過し、三十八年三月チブラスカ州オマハ鐵詰會社に働き六月に至り、熊坂、本田の兩氏と共にレキングトンにて甜菜耕作六百英町を契約し十二月ワイオミング州ハンナに到り下宿

し六十英町の土地は既にリースし甜菜五十英町甘瓜十英町を耕作するの豫定にして準備は今や完く就れり。

氏は熊本縣下益城郡西戸町清水の人、明治九年八月を以て生る、資性温順質朴にして其忍耐不撓の精神は在留同胞の模範者たり。

七海周次郎
村田庄作
宍戸仙助

郵函一六四



七海周次郎

七海氏は福島縣岩瀨郡白方村字今泉の人、明治五年一月生なり、三十八年の二月メキシコ國コハウイーラ州ラセスベランパスに到り炭坑に在ると一年九ヶ月、三十九年エルバソを経て米國に入る、サンタ、フイー鐵道に倚りアンゾナ州に入り、ギブソン其他の炭坑に就働し、四十一年五月コロラド州ラマーに來り甜菜シンニグの業を執り七月ロツキ、フォードに來り又甜菜及甘瓜の業に従事し四十二年村田、宍戸の兩氏と共同七十二英町を借地し甘瓜、甜菜を耕作す。

村田氏は山口縣大島郡森野村字平野の人にして明治二十年四月生、明治三十六年十六才の時



村田庄作

布哇に航し、甘黍耕地に就働すると二年、三十八年五月桑港に轉航し、ユー、ビー線及びフライオ、グラント線に鐵道の業に従ひ、又ニュー、メキシコ、ダワソン炭坑に入る此間二年、四十年五月コロラド州ロス、アニマスに出で、甜菜耕作の業に就き、十二月ロツキ、フォードに來り四十一年芳之内、佐伯の兩氏と共同して六十七英町を借地し三十七英町の甘瓜、甜菜耕作し、四十二年度に於て宍戸、七海の兩氏と共同甘瓜三十七英町甜菜三十五英町の耕作を経營す。



宍戸仙助

宍戸氏は福島縣信夫郡の人、明治十三年一月水保村字土船に生る、明治三十六年三月布哇に航し一年甘黍耕地にあり、三十七年十月加州桑港に轉じユー、ビー線に就働しつ、格州に入りデンバーを経てピャプロに到り、鐵工場に一ヶ月半を経過し、三十八年三月チブラスカ州オマハ鐵詰會社に働き六月に至り、熊坂、本田の兩氏と共にレキシントンにて甜菜耕作六百英町を契約し十二月ワイオミング州ハンナに到り下宿

業を營むと四十年七月まで繼續し、九月コロラド州イトンに於てアニオン、(ポテト、ピー
ツの採收に従事し、十二月ニュー、メキシコ州ベリアント炭山に就働し、四十一年五月に及び
ラマーを経てロッキ、フォードに來る、斯年甜菜耕作の業を執り本年に至り前記兩氏と共同
農業を經營するに至る。

築紫一藏

郵函三一五

氏は和歌山縣東牟婁郡新宮町字上熊野の人なり、明治丁丑の年三月を以て生れ今年正に卅又
竝、明治三十四年十二月六日加州桑港に來りメキシコ國に入り三ヶ月を経過し、三十五年四月
六日又米國に復りニュー、メキシコ州ギャロップ炭坑に就働し八月に及び加州に出て格州に入
りロッキ、フォートに來りしは三十六年九月なりき、甜菜及び甘瓜の業を執り、翌年に到り
久保氏と共同農業を經營し百英町の土地甘瓜、甜菜及び牧草等を耕作し、四十一年度は澤村氏
と共同甘瓜十英町、甜菜三十英町、牧草六十英町を耕作し、本年度に於ては單獨經營七十英町
を借地し、四十英町の牧草二十英町の甜菜及び五英町の甘瓜等を栽培せり。

オードウエー

附シユガセテ

オードウエーはコロラド州の東南部オテロ郡にあり、傳馬を去ること百十一哩ミヅリーバシ

フイツク鐵道線に沿ふ、人口七百、海拔四千五百呎なり、本地方は最も牧草、麥類、砂糖大根、
キャンタロープ及び林檎に適し好個の農業地なり。同胞が始めて移住せるは卅九年にして、熊
本縣人中川某が大根耕作労働者の供給を契約し、ビヤプロ市より、十二三人を引連れ來りて四
五百英加の大根園に就働せるにあり。四十年は塚本、白杵の二氏三百英加を契約し、四十一年
はビヤプロ市の佐藤公平氏が三百英加を契約し、白杵、前堀、塚本の三氏も亦労働者を供給し、
本年度はロッキ、フォードの持逃げボツス熊本縣人富田某氏シンニングにのみ、六七百英加
の大根園に人夫を供給せり、而して契約値段は年々下落の傾向を示す、之れ一は同胞が相互に
競争反噬する惡風の然らしむ所なり。

卅九年	自廿一弗 至廿二弗	シンニング	九弗	ホーイング	自九弗 至十弗
四十年	廿一弗				
四十一年	廿一弗				
四十二年	自十八弗 至二十弗		七弗		七弗

卅九年には一英加に付十九噸乃至二十噸てふ格外なる砂糖大根の收穫を得、又ロッキ、フォ
ードより僅かに十三哩南に當り、地質悉く同じからずと雖も稱や類似せるものあるを以て、オ
ドウエーキンタロープと稱する一種の風味と特色とを有する甜瓜類を産出するより、同胞農夫
の着目する所となりて移住せるもの少なからずと雖も、爾來大根は四十年は、六噸乃至十噸、
四十一年は出來作の尤も好き所にて十二噸甚きは三噸乃至五噸を産せるに過ぎず、キャンタ
ロープ亦時に消長ありしを以て未だ好結果と稱す可らず、しかも同胞が尤初の着手の尤簡便法な

る歩合耕作法は名義上折半といふも收穫の四分乃至五分の一の地代を、控除したる收穫の折半なるを以て收益甚だ少く、時には勞働賃金だも満足に支拂ふを得ざる事ありといふ、同地在留同胞は之れ同地方の慣例なりと雖も、編者が同地に在りし日は恰も日曜日なりしを以て白人地主と談るの機會を得ず、之を確むるに由なかりしも、吾人は聊か疑を挿むものなり、若しかゝる惡慣例ありとせば、在留同胞農業者は一致して、之を匡正し、本州各地方と同一ならしめ、以て白人小作人にも機會の均等を計り、日本人農夫の恩澤に浴せしむるを要す。

キャンタロープの耕作は多く現金借地法にして一英加十弗を以て普通とす、而して勞働賃金は業務の繁閑により一時間二十仙乃至十七仙五厘を普通とす、此地方の地質は前述せるが如く良好なるも灌漑料水多からず、砂糖大根及びキャンタロープ耕作には往々不自由を感ずる事あり、故に一般にいふ時は該地方はアルファアルファ及び麥類の耕作を以て有望なりとせざる可らず。

シュガアセラーはオードウエーを去る東六哩の處に在り、人口千五百、ナショナル製糖會社の製糖場(一日製出高五百噸)のある處なり、會社は我が同胞の大根耕作希望者を歓迎すと雖も、其規模小なるを以て同胞が他地方に於けるが如く大耕作を許さず、僅かに二三十英加を小作せしむるに過ぎざるを以て同胞は來りて耕作するを好まず、土地は會社の所有するものにして灌漑料水充分なり、地代として收穫大根三噸を會社に納付す、而して勞働賃金は年中一定し、十時間働き一日金壹弗五十仙なり、時に邦人勞働者なきにあらず、當地方の農夫は露西亞人及び墨西哥人を最も多しとす、然れ共同胞との交際は至つて圓滑なるが如し。

栗山一太郎 太神馬吉

R.F.K. BOX 7

百五十英町の土地を耕作し傍ら契約業者として當地の重鎮を以て目ざるものは、栗山一太郎氏と爲す、明治二十九年十月下浣布哇ホノル、に航し、布哇島に在ると三年、ホノル、市に出で一年八ヶ月の後耕地に趨り甘黍請負耕作を爲して卅五年三月に到り加州桑港に來り、アイダホ州に入りアイダホ、フォールスにて勸業社の契約に係る甜菜栽培の業を執り、其翌年に於ては自ら契約業を開始し繼續二年、三十九年三月ワイオミング州ロック、スプリングス及びスペリアを経てコロラド州に入り五月オートウエーに來り又甜菜耕作契約業を爲す、四十年自ら農業を經營し、三十英町の甜菜を耕作し、四十一年に到り太神、柚木、廣瀬の諸氏と共同四十二英町の甜菜二十三英町の甘瓜を耕作し、傍ら依然契約業を營み、四十二年度に於ては太神氏と共同經營に於てシュガー、シチー會社の土地百五十英町を借地し甜菜、甘瓜、を耕作し、而して契約業は之が副として事業愈々盛大なり、志想穩健着實なる人にして内外の勢望亦大なり、福岡縣糸島郡福吉村字吉井の人。

太神氏も亦福岡縣糸島郡の人、北崎村字宮浦に生る、明治三十八年四月桑港に上陸し、加州にエス、ビー線道ギャングに就働すると一年、三十九年五月コロラド州メリノに來り小野寺氏の下に甜菜耕作の業を執り、ビャプロに出で鐵道ギャングの工事に従ひ、四十年五月當オードウエーに來り、甜菜甘瓜の業に就き、四十一年栗山、柚木、廣瀬の諸氏と共同農業を經營し、

六十二英町の甘瓜、甜菜を耕作し、四十二年に到り栗山氏と二人共同に於て百五十英町の土地は甜菜、百三十英町、甘瓜二十英町を耕作に就業す、而して契約方面は栗山氏専ら之を司とり、耕作の事は太神氏之を主宰し兩者勤勉相俟て業益々大に地方に牛耳を執れり。

磯島乙松

郵函 九八

氏は岡山縣御津郡大野村字矢坂の人、明治十年十一月を以て生る、明治三十二年妻女を供ふて布哇に渡航し三十八年八月轉航桑港に上陸す、アイダホ州ボカテラに來り後ちフォールスにて甜菜仕事に就働し、三十九年農業に着手し馬鈴薯、小麦、甜菜等九十英町を耕作せしが其結果は失敗に歸しぬ、其年農業の終りユタ州に到りキャススル、グート炭山に苦役すること五ヶ月、四十年四月コロラド州デンバーを経てカンサス州ガーデン、シチーに到り、八月再びコロラド州に來りロッキー、フォードに甘瓜摘採に就事したり、此年當地の銀行破産し、氏等夫妻が粒々苦辛に得たる貯蓄百弗の損失を蒙りたり、四十一年一月現所に移り歩合耕作を以て農業を経營し、甜菜、甘瓜等を耕作す、四十二年度の經營農場三十七英町にして、此内二十二英町は現金借地にして甘瓜を栽培し、十五英町の甜菜は折半法耕作なり。

氏が海外に在る十年幾多の風雨に遭遇し、幾多の艱難も妻女と俱にして、茲に起業するや氏は外に精勵にして妻女内を佐け、中に一女子あり家庭平和に着々好果を藏めつゝあり。

高橋宇市 橘高治太郎

郵函 六七

高橋氏は廣島縣備後國の蘆品郡府中町の人、明治十五年十月九日を以て生る、經木眞田及び麥稈眞田は氏の生地の特産物たり。而して氏は普通學修了後長ずるに及んで、産物原料品貿易



商人なりし、明治三十九年十二月歐米の大勢を知らんと欲し商業視察として先づ米國に渡航す、四十年一月華州沙港に上陸し、後又直に桑港に來り茲に商業視察初歩として某商館に入り見習として就働すること一ヶ年餘にしてコロラド州デンバー市に來る、農産豐國たるアメリカに在りては、商業よりは寧農業の宜なるを悟り、志を變して農事に従ふ事となりぬ時四十二年四月上旬なりき、則ちラマーに於て甜菜の業に従事す、超へて四十二年一月オールドウェーに來り、橘高氏と共同五十英町を借地し歩合耕作を以て甜菜、甘瓜等を栽培す、而して尙傍ら耕作人夫供給の契約業をも營めり、本年の結果は頗る

良好にして漸次擴張の豫定なり温厚着實にして、早晚此域に於て其成效を見るならむ。

橘高治太郎氏は明治九年一月廣島縣芦田郡岩谷村字荒谷に生る、三十八年の初め中米墨國に到る、此地の風候我邦人に適せず、而已ならず勞銀比較的低くして好ましからず、一跨隣邦合

衆國に入らんと其八月エルバリを経てニュー、メキシコ州に入り、更にアリゾナ州に入りサンタ、フイー鐵道に就働す、十月末ユタ州キヤスル、ゲート炭坑に就働すると六ヶ月、四月四月アイダホ州のシユガー、シチーに勸業社の契約に係る甜菜の耕作に従事し四十一年五月當オードウエーに來り農家の業を執り、四十二年に到り高橋氏と共同し歩合耕作を以て甜菜四十英町、甘瓜十英町の農作を經營するに到る。

西村平太郎

氏は熊本縣飽託郡南部村字友合の人なり、明治三十二年布哇に航し、在布七年三十八年四月轉航して桑港に上陸す、夫より直にユタ州ガートラントとに到り甜菜の業に就くと壹年にして三十九年五月コロラド州ロッキー、フォードに來り鐵道のギヤングに働き又野に入りて甜菜收穫を爲し後ち當地オードウエーに入りしは四十一年四月なりき、茲に農事に着手し甘瓜七英町歩合耕作を爲せり年を超へて四十二年度は三十八英町を借地し甜菜、十八英町、甘瓜二十英町、の耕作を爲せり、本年經營の始めに當り宇士吉貝二氏の共同者ありしも、都合上目下單獨の事業となれり、氏は頗る精力主義の人近き將來に必ず大發展を期すべし。

三好光次

オードウエー

江崎久太郎

P.O. Box 73

三好氏は廣島縣加茂郡竹原村字大井田に生る、現籍は神奈川縣横濱市西戸部町二六八番地に

あり、夙に船員として大洋上の人たりしが、明治三十六年十一月桑港に上陸し此所に陸上生活を決心し在桑五ヶ月にして三十七年五月ワイオミング州ロックスプリングスに到り、第二マイルに就働すると一ヶ年、三十八年五月コロラド州ニュー、ウインザーに小野寺氏契約の甜菜に従事し、三十九年クックを業としてデンバー市に働き、四十年八月に及びカンサス州パークレーに轉働し四十一年三月オードウエーに來り農事に精進し、四十二年一月江崎氏と共同茲に農業を創興す。

江崎氏は福岡縣三池郡上内村上内の生、明治三十三年三月英領ビクトリアに上陸し、大北鐵道に依り米國シヤトルに入る夫よりワイオミング州に於てユービー線路ギヤングに就働し三十五年八月に至りロックス、スプリングスに來り第二炭坑に就働すると四十年二月に及びコロラド州パーウインド炭坑に轉じ後カンサス州エム、ビー線ギヤングに就業し、四十一年復コロラドに歸り、オードウエーに來りしは其四月なりき、斯年ビーツ耕作の業を執り、四十二年に到り三好氏と謀り共同茲に農業を興し百十四英町の土地ビーツ六十英町、オーツ三十六英町、キヤンタロップ十八英町を耕作せり。

柚木八百吉

オードウエー

山尾梅太郎

P.O. Box 7

柚木氏は明治三十六年一月布哇に航し滞在十五ヶ月にして三十七年四月加州桑港に來り對岸王府に到り附近に就働する八ヶ月ユー、ビー線路のギヤングに就働クックを業としてテブラス

カ、ワイオミング地方に三ヶ年を經過し、四十年五月コロラド州ベヤプロに來り鐵工場に居ると三ヶ月又エム、ビー線のギャングに就働四十一年二月オールドウエーに來り栗山、太神、廣瀬、等と共同農業を創め、甘瓜、甜菜六十英町を耕作し、四十二年現山尾氏と共同甘瓜、甜菜、蕃茄等五十英町を耕作す。

山尾氏は明治三十三年三月英領加奈太コロンビヤ州ウキクトリア港に來り居ると一年有半鮭漁に従事し、三十四年九月米國ワシントン州シャトルへ轉じ、モンタナ、ワイオミング州に鐵道に就働し四十年五月に到りコロラド州ベヤプロに來り鐵工場に入り後ちミズリー鐵道のギャングに工夫となり、四十一年初夏オールドウエーに來り農業に従事し四十二年に到り前氏と共同農業を經營す現時の耕作二十英町の甘瓜、二十七英町の甜菜及び六英町の蕃茄なり。

兩氏共に令息あり柚木氏息を次六と言ひ、後氏の息を次八郎と稱す、共に父氏等共同の業を輔けて一致共同精力を濫ぎ其實效を擧げつゝあり、福岡縣系島郡加布里村字加布里にして其郷里を同じくせり。

塚本 常吉
白杵仙太郎

郵函一二九

塚本氏は福岡縣系島郡今津村大原の人、明治二十九年四月加州桑港に上陸し、櫻府平野に菓物の摘採に従事し、三十五年ナツバにて農事を経營し、蕃茄、蔬菜類を耕作せしも失敗に歸したり、三十七年三月に及びアイダホ州アイダホ、フォールスに於て勸業社の下に甜菜耕作を爲

すと二年此所に白杵氏と相會ふて共に三十九年の初めコロラド州に入りハレー、スギンク等を経てオールドウエーに來り四十年共同農業に着手し、七十英町折半耕作を爲すと二ヶ年四十二年四十四英町を借地し、甘瓜二十四英町、甜菜二十英町の耕作に就事せり。

白杵氏も亦福岡縣系島郡にして櫻井村の産なり、明治三十三年四月加州サン、フランシスコに上陸す、加州、アリゾナ、ユタの諸州鐵道に寒暑の辛酸を味ふて三十七年アイダホ州アイダホ、フォールスに甜菜耕作に就働し茲に塚本氏と相會て爾來其行動始終を共にし以て今日に迄べり兩氏共に精力絶倫の人にして年々好果を收めつゝあり。

伊丹 銀一
岡本 富三

P.F. & Box 7.



伊丹氏は岡山縣津郡馬上村字三輪の人明治二十七年七月ワシントン州タコマに上陸し、ポ

イトランドに來り滞在三月にして加州に出てサ
ンノゼに到り白人農家に傭はれて在ると三年、
三十一年四月ワットソニルに轉じ百二十英町
を借地し、馬鈴薯を耕作すると二年、三十三年
ロス、アンゼルスに赴きキャタヂに於て鮑漁
の業に就業すると三年、三十七年四月にしてニ
ユーメキシコ州クラックピルの炭山走り翌年全

伊丹 銀一

州ギブソン炭山に移り、三十九年四月コロラド州ロス、アニマスに來り丸本氏の下に甜菜の業に就事し、四十年茲に百五十英町を借地し甜菜耕作を爲し四十一年オルチー、スプリングに趣き甘瓜二十英町を折半法を以て耕作を爲し四十二年二月オートウエーに來り岡本氏と共同キヤンタロップ十英町を耕作せり。

岡本氏は山口縣吉敷郡大蔵村字大原の人にして明治三十七年三月布哇に航し、耕地に就働すると二年、三十九年七月加州オークランドに來りユニオン、バシフィック鐵道にユタ、ワイオミング及びチブラスカの諸州に轉働し、四十年二月格州ビャプロに來り鐵工場に就働五月オードウエーに來り甘瓜及甜菜の仕事に従ひ精勵二年大に經驗を生み資本を生み、四十二年に至り伊丹氏と共同甘瓜十英町を耕作す、而して本年の結果は上乘にして次年よりは大々の擴張の豫定なり。

スウインク

甜瓜の産地として北米合衆國中第一の名あるロッキー、フォード(ロッキーフォード欄参照)の東五哩強に當り、オテロカントリーシートたるラハンタの西五哩の地にあるはスウインクなり、當タウンの創設は極めて近年の事に屬すれ共タウンとしての設備は先づ不足なく、殊に昨年三萬五千弗を投じてメチート療養院を北郊丘上に建てられ、又去る一九〇六年宏壯にして且つ新式なるスウインク製糖所の建築成るに及んで、スウインクの名、一時に世人の注目する所となり。

り、逐年他より移住し來る者多く昨の寒村即ち今のタウンと化し定住人口既に千を以て數ふるに至る、而して當地に於ける諸種の産業状態に關してはロッキーフォード及びラハンタ地方と大差無きを以て之を省き、左に當地に於ける同胞の來歴を略叙す可し。

當地に初めて日本人を見しは、卅八年にして熊本市人尾形某氏ハレーより卅餘名の同胞を引連れ來て農園勞働契約業を營めると嚆矢とすべしと雖、居を此所にトして一切の勞働請負業を開始せしは、卅九年製糖場の新設さるゝに際し、之れに八十餘名の人夫を供給せる和歌山縣人丸本捨松及び靜岡縣人福島太郎(現在傳馬市)氏を以て先驅となさん。而して氏等又農園に手を伸ばして大根其の他の耕作に従事せり。四十年度は福島縣人本田周助氏チブラスカ州より來り、製糖會社と契約して大根園人夫供給に従事し大々の活動を試みしが、或る事情の下に其結果を見るに至らずして、失踪せるは實に遺憾事なりと云はざる可らず。此年本田氏の後を繼ぎて中尾文之助氏及び佐藤利治(福島縣人)氏其衝に當りて拮据經營せしも、不幸にして一般農園の不作なりしと又山口組等の賃金撈帶逃亡ありて人氣を損せしと且つ此前後より、不潔粗食頗る低廉なる賃金に甘んずる、墨國勞働者の襲來夥だしく、我勞働區域に侵入するありし爲め、時に非境に陥りしも獨り殘疊を固守して、能く奮闘せる中尾氏の努力に依り、漸次同胞の知る所となり、着實なる耕作業に従事する者あるに至り、本年度に及びて左表の如き狀況を示すに至る。尙ほ中尾氏はスウインク製糖會社内において月俸六十五弗を給せられ、専ら製糖所及農園勞働者の供給に従事しつゝ有り、製糖所の賃金は一日十時間働さ一弗七十五仙以上を支拂ふといふ。

又當地方大根働きはシーニング六弗五十仙以上タツピング七弗以上の賃金にしてホイキングは年に依り、畑に依りて爲すありせざるありて一定せず、概して當地方の農作法及びレーパー契約法は北部コロラドと大差なきも亦多少の異なる所ありと稱せらる。

作物	英加數	姓名
キヤンローブ	四〇	井上哲次郎
オーツ	一〇	竹原熊三郎
キヤンローブ	二三	守田權三郎
オーツ	八	林友次郎
キヤンローブ及	五〇	藤森清吉
ヘー		中本初太郎
大根	五〇	田邊松造
キヤンローブ	二一五〇	田代國治
ヘー	二五〇	全末彦

中尾文之助

スィンク郵函一三六

氏は和歌山縣那賀郡南野上村字冷水の人、三十年八月桑港へ上陸し、バカビルに到り農業人夫供給者たると四年、スィスンに轉じ三ヶ年間果物の契約業者たり、三十九年ネブラスカ州レピングトンに來り相川氏の下にて、別院、安村氏等と共同にて大根五百英町の人夫供給を爲す、而して氏がスィンクへ來りしは四十年五月なりき、爾來今日に到るまで農業請負業者として倍々盛大をきはむ、氏年尚今三旬性沈着なり渡米以來毎に契約業者として起ち、十年來の經驗を



中尾文之助

有し、其配下の労働者を待つこと到底他人の及ぶ所にあらず、然れども氏は之が爲に、氏を知るものをして或は恠曲の手腕を弄するやを疑はしむ、之れ氏が沈着にして熟慮の深謀に失するものあるに依らずんばあらず、一得一失は免れざるものなるも、若し夫れ氏にして果斷の性を加へんか、蓋し圓滿なる好契約業者として範

を爲すに足らむか於處。

井上松次郎

郵函スィンク二六



井上松次郎

和歌山縣東牟婁郡古座丁村字中港に生る、明治三十三年三月華州の商都沙港に上陸し、直に大北鐵道のギヤングに就働すると九ヶ月、三十四年モンタナ、アイダホ、ネバタの諸州を鐵道に勞働し、九月加州桑港に出て偶々脚氣病に罹り茲に滞在保養す、數月後病癒て三十五年二月アラメダ鹽濱に赴き就働すると九ヶ月、十一月羅

府に來り、三十六年一月コロラド州ブレマース炭山に入り、宮岡丈太郎氏の下に働き十月に到り出て、ロッキーマン、フォードに來り大根の收穫に従働す、三十七年西川小島兩氏と共同農業を起し甘瓜廿五英町大根三十英町を耕作せしが一般凶作の爲め結局は大失敗に歸しぬ、三十八年は甘瓜三十五英町を耕作し、三十九年甘瓜三十英町大根二十英町、四十年は前年と同じく、四十一年は甘瓜二十英町大根十英町を耕作し、本年に到り甘瓜四十英町及びオーツ十英町は竹原守田兩氏と共同耕作に就事す。

守田權三郎

郵函 二六



守田權三郎

氏は明治十六年二月十四日新潟縣北蒲原郡木崎村に生る、三十年十二月布哇へ渡航し、レナハッタの某旅館に一週八弗の給料を得て働くと二ヶ年、オワフ島に到り甘黍の請負耕作を爲すこと三年、米國本土の有望を聞きて轉航を企て密に砂糖船に乗じ三十七年六月無事桑港に上陸したり、夫より鐵道に、或は果物園に就働し、又勸業社の鐵道乗車券を得てチブラスカの鐵道に従事し、次でデンバーに來れり、タワソンの炭山に働き又外園氏の契約に係るツリニダットの溝渠一萬呎を請負作業す、四十年八月ロッキーマン、フォードに來り井上氏方に働き本年に及びて井上守田の兩氏と共同農業を經營す。

林友次郎

郵函 スキンク 一八五



林友次郎

氏は三重縣南牟婁郡神志山村字志原の人なり、明治十四年六月を以て生る、志を立て米國に來りしは明治三十八年七月にしてタコマに上陸したり、アナコータ罐詰會社に就働すると二ヶ月餘にしてコロラト州ビヤプロ鐵工場に入り居ると一年有半スキンクに來り製糖所に就働す、四十一年ロッキーマンフォードに谷、金友氏等と共に同して農業を經營し、甘瓜二十八英町大根十五英町牧草七英町等を栽培す、四十二年甘瓜二十英町、オーツ八英町餘を耕作せり、經營藤森氏と共にす。

藤森清吉

郵函 スキンク 一八五

藤森氏は明治十八年三月南信の湖畔、長野縣諏訪郡湖南村字北真志野に生る、四十年三月華州シヤトル港に上陸し、直にコロラド州に入りビヤプロ鐵工場に就働すること一年、四十一年五



藤森清吉

月ロッキード、フォードに大根耕作の業を執り、四十二年二月スキネクに轉じ林氏と共同農事を創業す。

竹原熊次郎

郵函二六

大阪府泉南郡淡輪村四百五十七番地は氏の生地なり、明治三十三年三月一日英領晚香坡に上陸し、木材製造工場に就働すること八ヶ月間にして米國モンタナ州に入り、鐵道セクシヨンに就働し、三十七年二月コロラド州デラガ炭山に入り就働すること一年有半、三十八年七月ロッキード、フォードに來り農業に従事し、井上、守田の兩氏と共同。

田代國次 全末彦

熊本縣菊池郡清泉村字林原の人なり、氏等兄弟毎に相扶け業務に着實にして漸然として成効



田代國次 田代末彦

に途を辿りつゝあり、本年の耕作九十英町にして甜菜五十英町甘瓜十五英町牧草二十五英町を栽培す。

中本初太郎 田邊松造

兩氏共同にて現今牧草及甘瓜等五十英町を耕

作し精勵克一致共同の實効を收めつゝあり。

中本氏は廣島縣佐伯郡佐谷村字白砂河内原、

田邊氏も亦廣島縣の人比婆郡敷信村大字高門、

ラ、ハンタ (オテロ郡)

ラ、ハンタは格州の東南部オテロ郡にあり海拔四千呎氣候溫和なり、人口約六千五百を有し、郡の首都にして郡役所あり、地方裁判所あり、警察署あり、公立高等學校あり、一萬二千卷を藏むる圖書館あり、十の教會、二の銀行、一の信託社あり、劇場あり、水道及び電燈の設けあり、其他人事百般の要用機關は完全す、就中交通の至便サンタ、ファイ鐵道はアチソン、トッピーカー及びサンタファイに分岐する三接續點を爲す、デンバー市より東南百八十一哩、ベ

ヤプロ市より六十一哩東にあり、五百七十一哩東してカササス、シチーに至り、西南八十一哩にしてツリニグッドに達しニュー、メキシコに入る。

産業 一千八百九十四年サンタ、ファイー鐵道は五十萬弗を投じてラウント、ハウス及鐵工場を設けて諸機械の製造を爲せり、常滑煉瓦製造場あり、一日五萬餘個を製すと謂ふ、セメント製造場あり、製氷場あり、一大製粉所は廣く地方産出の小麥を集めて製粉日々二百五十樽（一樽は約二百斤）を産し各州に輸出す、以て其工業の盛んなるを見るべく從て亦商業繁なり、獨り農業に到りては太だ軒軒あるが如し、蓋し市外土地平坦を缺き比較的狭小なるが故なり、此の故に農業の多くは集約的のものにして則ち蔬菜の多くを産す、又菓物殊に苹果は本州の有名なるものを産出す。

日本人移住の由來 ラ、ハンタに我同胞の足跡を印せしは從今約十年以前にしてサンタ、ファイー鐵道のハーベハウスに就働せし者あるを以て初まる、而して日本人は頗る歓迎せられたりしも猶遅々として發展せざりしは當時本州在留同胞の僅少なりしに由ると雖も、其地方附近に於ける農業の發達未だ洽ねからざりしに因る、晩近に到りスキנק、ロス、アニマス、ハーレー等に製糖會社の設立と共に地方の農業大に啓け、交通の又點にある當地は自然的日本人の彙集を得て茲に漸く發達の端を作すに到る、三十九年十二月九本某なるものサンタ、ファイーのラウンド、ハハスの日本人労働者供給の契約を爲し、二十餘名の就働者を見、又ハーベハウスにも外數の就働者を見るに臻れり、此の如く發達したる我同胞労働者諸氏は皆眞面目にして重視せられたり、而して四十年長田氏、丸本氏の後を繼承して現今に達べり、同じく四十年の末

岩谷某なるもの當市に下宿業の傍ら雜貨店を開業し、四十一年全氏は亦別院某なるものと共同しスターラントを開業したりしが、彼等が不正行爲及びヌーヅル、ハウスの末路は端しなく白人間に曝露せられ、其影響は惹て如上同胞労働者全般の上に被び四十一年十月頃ハ排日の騒動をさへ見るに至りたり、嘆ずべきとならずや、幸に事なきを得て現時猶長田氏のラウンド、ハウスに二十名内外の就働者ありハーベハウスには熊本縣人にして名取薫なる人は既に四年間餘を勤續して至りて信用あり。

將來のラ、ハンタ 市内は今や巨資を投じて水道、電燈の改築に就事し廣く市の東方に及び、漸然市區の擴張に備へり、而して市部の東なる一萬英町歩の空地に移住者を得れば市は五年の後に正に二倍大を見るに到るべし、斯の如く迅速なる勢を以て發達を逞ふする當市日本人の發達も亦之に従ふを得べし、然れども一度以前記岩谷、別院等の如き企業者の失敗に依りて同胞の信用を失ふたる所、容易に手を染むべからず、要は唯だ現在在留の諸氏の勤勉を俟つて後ち然るべきのみ、乞ふ在留諸氏努力せよ。

ロスアニマス

ロスアニマス市は、ベント郡々役所々在地にして人口約三千を有し、傳馬市を東南に去る二百哩、ビヤプロ市より同じく八十三哩を隔て、サンタファイ鐵道に沿ひたる一驛なり。海拔三千六百呎の高さに在るも平均温度五十乃至五十五度にして氣候の良好なる、合衆國中第一の稱ある

は、當市を距百五哩の地に米國海軍療養院の設けあるを以て見るも瞭らかならむ。加之當市は所謂アーカンサス平原地方中將來尤も有望なる一市邑にして、灌漑の設備既に完成し、沃野遠く開けて農業頗る旺んに、畜産業亦隨つて隆盛を極む、殊に當市の一端に巍峨として聳ゆる大厦は則ちアメリカン製糖會社なり、其設備尤も新式にして建築費實に壹百萬弗を要せしと云ふ。

當地方に於ける同胞の率先者は先づ丸木捨松氏ならんか、氏は明治卅九年、當市に來りて洋食店を開業し、且つ農園勞働契約を試みしが、四十年に至り洋食店は江澤南洋氏に譲りてラハンタに移れり、之れより先き卅八年の交我が勞働者七八名當地に侵入して、既に各農園に就働せし形迹ありと雖も、其果して誰れなりしや知る能はず。而して四十年度は岡本熊吉氏來りて、大活動の下に農園勞働契約業を營めり、其當年前後より既に三四吾農業者の夙くも借地耕作に従事せるものあるを見たり。就中森川組及び虫明氏等を以て嚆矢となさん乎。如斯當地方に吾同胞を見しは尤近年なるに不拘、今日果して如何の狀態に在るか乞ふ之を左表に見よ。

作物	英加數	姓名
大根	四五	雨宮組
麥	六〇	
牧草	一〇〇	大東庄松
其他	一二〇	
大根	七五	
麥	六五	
牧草	二五	

作物	英加數	姓名
大根	七五	鈴木組
麥類	五五	
牧草	七〇	橋本留七
大根	二四	
麥	五〇	忠明三郎
甜瓜	七九	
牧草其他	七	濱岡三吉
甜瓜	七	
大根	三五	森川、中山組
麥	八〇	
牧草	七〇	
大根	二五	
麥	七五	
甜瓜	二五	
大根	五	
牧草	四五	
甜瓜	三〇	
大根	一〇	

雨宮兼安
中川松次郎
若杉四郎

ロシアニマス、アール、エフ、デーニ番 郵函一一、

苦を分ち、樂を一にし、相倚り相扶けて五ヶ年一日の如く、具さに世路の辛酸を味ひ、協力

一致事業に志して以來二ヶ年、共に勇み、互に勵まし以て本年三百二十英加の農業を營むに美りしもの、之れ即ち當地に於ける雨宮組ならずや。而して其主腦たる雨宮兼安氏は、山梨縣東八代郡一ノ宮村一八九番地の人にして、明治十二年十一月を以て生れ、少時郷里に於て普通學を修め、又農事補習學校に入りて之を卒業し、十八歳より家業を佐け以て卅八年に至る、時に日露の戦雲未だ收まらず捷報至る毎に血湧き肉躍れる、氏は空しく滿韓の野に思を馳せんよ



雨宮兼安

り、若かず此際海外に航して、我が志しの萬一を盡さんと欲し、決然渡米の途に上りしは、同年四月、海上無事布哇に着し後轉航して桑港に上陸せしは同五月廿六日なりき、斯くて直ちに勸業社の募集に應じ、アイダホ州に來りて大根園に就働し、其有利の事業に驚き、翌卅九年遠くチブラスカ州レキシントンに行きて、相川組の下に又大根を働き、四十年に入りてサウスダゴタ州に轉じ鐵道に就働すること約五ヶ月、始めて本州に入り來りしは、同年五月十日當地に着し、同伴者中川若杉の二氏と共に百卅英加の大根耕作を請負ひて之に働き、同年十一月廿八日ラマーに移り、昨年五月に至りて初めて事業の端著を啓き、約壹百餘英加を借地し六名共同にて大根及び牧草を耕作し本年二月四日再び當地に來りて共同事業を起すに至る。

中川氏亦雨宮氏と同郡にして錦村百五十一番地戸主吉右衛門氏の次男にして、明治十一年十

二月卅日を以て生る、幼より學を好み普通學を卒へて後、同村字二ノ宮なる私塾に入りて業を修めしも、故ありて希望の途に安んずる能はず、己むなく犁鋤に親しむ身となりしも、敢爲の



中川松太郎

氣性は氏をして徒らに田圃の間に踟躕するを許さず、再考三思斷乎として志を決し、明治卅八年春四月遂に渡米の念を果たして以來、雨宮若杉の兩氏と始終其行動を共にし、又目的を同ふして精勵怠らず辛を忍び難に耐え來つて今日に及びしもの、又氏が力與つて大なりとせざる可らず。

若杉四郎氏は本年尙ほ廿三歳の好青年にして、燃ゆるが如き青春の血を着實なる事業に漲ぎて敢て他を顧みず孜々として怠らず、勤勉克く苦難を排して着々前途の光明に向つて歩武を進



若杉四郎

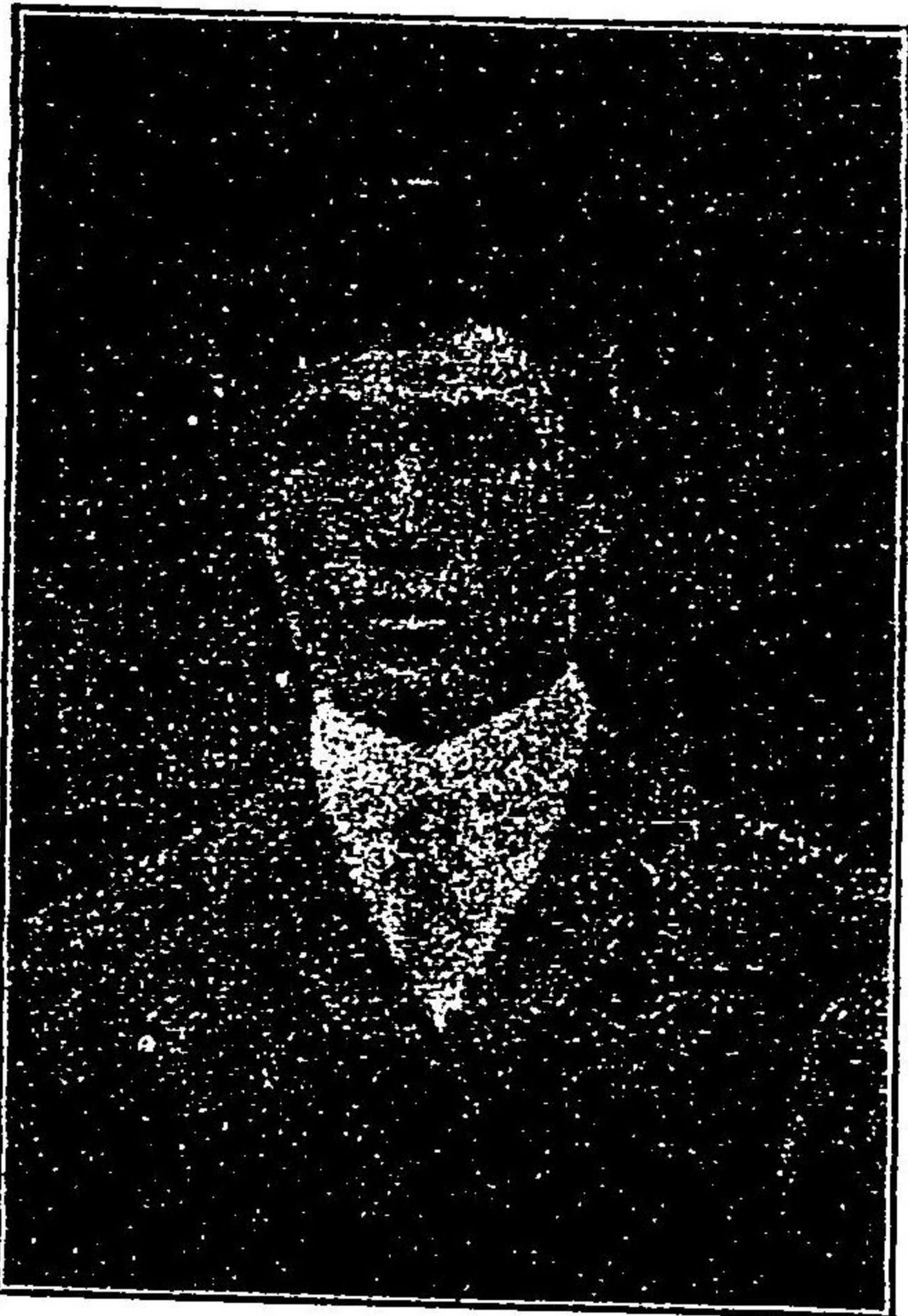
めつゝあるは又賞するにあまりありと言はざる可らず、氏も亦山梨縣東山梨郡岡部村百七十七番地戸主和作氏の嫡子にして普通學を修め又養徳會に入り、日は家業に従事し夜は學事に精勵して専念修養に懈りなかりしが、偶々前二氏と共に渡米して以來茲に五星霜、影の形に添ふ如く、去らず離れず、遂に其所志の緒に就くを得

たり。惟ふに氏等の事業や前途尙遠遠ならん、或は將來幾多の風雨に際會せん、左りながら又之れ氏等の期する所ならん、庶幾くは屈せず撓まず以て事業の大成を待たれん事を。

大東庄松

ロスアニマス郵便一四一

氏は廣島縣安藝郡仁保島村二四七九番地戸主庄五郎氏の令孫にして明治十六年六月一日の生なり。氏や素と郷里に於て漁業に従事し、風光明媚なる瀬戸内海の潮風に面を曝らす事年有り



大東庄松

しと雖も目に一丁字無き一般漁夫と伍して終生魚介の右たるを欲せざりし氏は茲に海外發展の希望を起て、明治卅六年十一月三日遂に布哇に上陸する身となり、ホノル、港及び布哇島各耕地に於て甘蔗の栽培或は諸種の事業に就働すると約半ケ年、再び便船に搭じて桑港に轉航せしは卅七年二月五日なり、夫より早速サンピトロ

鐵道工夫となりて、各地に働くと二ケ月餘、後本州ビヤプロ市に來りて鐵工所に就働し、卅八年始めて大根園に働き、其有利なるを知り直ちに農業に志せしも資本の不足を如何共する能はず卅九年南部ハーレに行きて製糖會社に働き而して蓄財し、全年各當地に來り翌四十年一月に及び同縣人住田某と共に百六十英加を借地し、始めて事業に着手す、斯て昨年都合ありて住田氏共

同を辭す事となりて以來氏は獨力事業を經營し刻苦黽勉些の遺算なきを期し以て今年に至り、大根七十五英加、麥六十五英加、牧草二十五英加を耕作し、馬匹十二頭及び農具に約三千弗を投じて尙餘裕あり、家禽一百養豚十五を飼育して専ら將來の發展を企圖しつゝあり、實に氏の如きは之れ自助的健闘家、今にして往年音頭の瀬戸の汐風に嘯きつゝ、丈五の櫓を擁して急潮に向ひし當年の漁夫を思ひ出てなば、氏たる者果して如何の感慨かある、好漢夫れ自愛せよ。

渡中留吉 鈴木熊吉 鷺野鑛太郎

ロスアニマス、アール、エフ、デー二番郵便五二

未來は知らず、在米三千六百有餘日間、皆其志を同ふし、肝膽相照らして互に勵み勵まされ、以て其目的を達す可く行動と共にして來りしもの、當地の兩宮組の如く又鈴木組の如きは實に其比を見ざる可く全く嘆賞す可きものならずや。大小の別こそあれ、骨肉の縁こそ無けれ、之を古へ毛利公の訓言に違へる三偉人が關係に較ぶるも亦敢て遜色なきの美談とし傳ふるに憚らざる可き乎。

鈴木組三氏は同郷にして靜岡縣志太郡燒津なり、而して三氏各戸主なる點に於て又皆普通の教育ある點に於て共に譲らずと雖も、鈴木(明治五年生)氏は其年長者にして素と染職を業とし渡中(全八年生)氏之れに次ぎて諸種の仲買を業とし、鷺野(全十一年生)氏尤も年少者にして煙草販賣を業とせしは異なる點にして又興味ある對照ならずや。然かも各自其志望を同ふして海外

に驥足を伸べんと欲し、明治卅三年五月英領バンクーバーに上陸して加州に入り以來前後六個年、各地に於て共に各種の農園に就働し、競ふて貯蓄を勵行し勤勉一日の懈怠なかりしが、偶ま絡機以東の地の有望なるを耳にし、議忽ち一決して本州に來りしは卅九年一月なり。斯くてラマーに留まり、甜菜園に就働し、翌四十年二月ビヤップロ市に出で合資して球戯場を營業すると約八ヶ月、後之を人に譲りて九月當地に來り、二百英加の、土地を借りて農業に着手し以て今年に及び七十五英加の大根、五十五英加の麥類及び七十英加のアルファルファを耕作して農馬十頭を有し、養豚十、家禽七十を飼育するに至る。又織んなりと云ふ可し。元來我同胞が共同事業に失敗多き所以のもの、漫りに私慾を逞ふし且つ猜疑の愈深くして容易に人を信ぜざるに基因せずんばならず、世の所謂共同事業に挫折せるもの又之を快からずとするもの或は骨肉にして相反するもの、如きは宜しく、鈴木、兩宮兩組の事業振りを見て以て摸範とせざる可からざるなり。

橋本留七

ロスアニマス、アールエフ、デー一番

橋本氏は和歌山縣東牟婁郡下里村字下里の人にして本年當さに廿七歳、血氣旺盛にして頗る企業心に富む、少時より他家に養はれて人と爲り、初等教育を了るや、帆船乗組員となり各地に航行して大に濶達の氣を養ふとを得、卅三年三月春風未だ寒き頃英領ビクトリア港に上陸して直ちに晚香坡市に移り、漁業に携はる事二ヶ年、又桑港に轉じて約三ヶ年間家内の勞働に従



橋本留七

事する傍ら専念英會話を研究して得る所少なからず、後サンピトロ鐵道工夫たる事僅かに三ヶ月にして本州の有望なるを聞くや早速デンバー市に來る之れ卅八年五月なり、斯くて北部近郊に於て始めて大根園に働き又南部に行きハレー製糖會社に働く事五ヶ月多少の貯蓄あるに及び、翌卅九年三月グラナダに移りて借地農業を試み四十年又當地に移りて借地耕作に着手し以て今日に至る。氏は尤初兩三名と共同經營を企てたりしも、昨年より獨立して個人經營となり今年に及びて擴張し百六十英加の借地にキヤンドロップ、大根、麥類及び牧草等を耕作せり、是の如くにして益々事業に熱心し拮据奮勉勤めて倦まずんば氏が大なる成功又近きにあらん。

城山丈作

ロスアニマス郵函四七五、エ、ビ、エス會社内

凡そ勞働者として我日本人の如く多能なるもの他に多く其比を見ざる可し。如何なる種類の勞働をも辭せず又如何なる至難の業務をも試みて、克く耐え克く忍び、以て幾多の經驗を積み境遇に應じて能く其身を處し行く者蓋し我同胞の右に出づるもの有らざる可し。之れ然し我勞働者の短所たると同時に又其長所たるや論なからん。

城山氏が経路の如き即ち最も能く此間の消息を示せるものにして氏は初め郷里に在るや、農業に従事し、卅年布哇に渡りて約七年間甘蔗の栽培に従かひ又製糖所に就働し、三十七年五月桑港に轉航し來りて船員となり、米國汽船に乗込みて各地に航海すると一ヶ年、後之を罷めて當州に來りしは卅八年五月なり。爾後ラハレタ附近に於て各種の農園に働き或は鐵道に又勞働請負業に携はると二ヶ年有餘にして當地に移り、又製糖場に入りて就働せしは四十年十一月にして以來三年刻苦精勵の結果漸次會社の信用を得て、我勞働者の供給を囑せられ、目下十數名の同胞に長として、親しく其勞を執られつゝ有り、則ち知る可し氏は其境遇の變化に應じて能く其身を處し且つ之れに依りて益々其長所を發揮し來りたる事を。

氏は廣島縣安佐郡福木村字福田三九番地戸主丈平氏の二男にして明治十四年二月を以て生れし人、目下當市のエー、ビー、エス會社内において月俸六十五弗を給せらる、又一の成功たりと云はざる可らず。

虫明 三郎

ロスアニマス郵函三四五、

氏は明治十二年、岡山縣御津郡大野村二十五番地に生る、普通教育を受けて後家業を佐けて、農事に餘念なかりしも、一旦米國事情を知るに及んで渡航の念禁ずる能はず、北清事件前一年遂に英領ビクトリア港に上陸する事となりぬ。夫れよりポートランド港を経て加州に入り、各地の農園に就働し、居る事約三年にして本州に歸る。斯くて三年有餘日間各地の甜菜園に働

き、卅九年三月本州南部ハーレーに於て二十五英加を借地し始めて農業に着手し四十年當地に轉じて八十英加の借地耕作に従事せし以來拮据經營又寧日なく、逐年擴張し來りて今年は大根卅五英加麥八十英加及び三十七英加の牧草とを獨力耕作するに至る。出ては五頭の耕馬を友とし入りては百羽の家禽と親しみつゝ、夙夜事業の發展をのみ之れ念とする氏の如きは實に之れ敬す可き好農業家と云はざる可らず、況んや情に厚く義に壁く實直にして苟しくも人と争ひを好まず千有餘日自から薪水の勞を取り、朝は星を戴いて野に出て、夕は月を踏んで家に歸り孜孜として怠らざる勤勉家にして且つ熱心家なるに於てをや。氏たるもの庶幾くは更に奮勵して、より大なる未來に向つて邁進せられん事を。

荒城 三郎 土井 代吉

ロスアニマス郵函四一八
モデル咖啡店

ロスアニマスに於て始めて邦人經營の洋食店を見しは卅九年にして、丸本氏の開業に係るものなりしが四十年に及びて江澤南洋氏之を譲り受け、江澤氏故人となられし後吉野代つて其經營たりしも不幸にして白人の手に歸せし以來又當地に邦人の該營業者を見る能はず。少なからぬ不便を感せしが、本年九月に至り、荒城、土井の兩氏モデルカツイしを開始せるに及び對白人の信用を復し又聊か同胞間の意を強ふするに足るものあり、之れ全く氏等兩名の賜と云はざる可らず。

荒木氏は東京府下豊多摩郡東大保村四三番地戸主卓爾氏の令弟にして明治十六年七月二日の生なり、卅三年八月沙港に上陸し南下して加州桑港に來り、家内勞働に従事する傍ら英會話の研究をなす事三年餘、後約七ヶ年各地に於て各種の事業に携はり或は諸種の勞働に従ひて臭さに世路の辛酸を味ひ又能く人情の表裏如何を咀嚼し得て獲る所尠ならず、遂に絡機連峯を東に超えて本州に入り、本年九月十七日當地に來りて土井氏と共に洋食店を開業するに至る。

土井代吉氏は慶應二年三月の生れにして、廣島縣安佐郡三篠村大字新庄は其郷里にして又戸主たり。明治卅九年十二英領ビクトリヤ港に上陸して以來、我が多くの勞働者と略ぼ同一軌道を辿りて時に或は農園に又或は鐵道に工場に將た家内の勞働に従事しつゝ本州に入り、當地に於て荒城氏と共同し、始めて營業に着手せらる、氏は頗る實直なる勤勉家にして、寸毫の利も苟且にせず、軀軀又頑健精力恰も壯者の如く日夜汲々として、稼業に勉勵せらる、思ふに氏等が前途や洋々たるものあらん、乞ふ益々奮勵努力せよ。

森川吉松

ロシアニマヌ郵函六七五、

中井音松

森川氏は和歌山東牟婁郡下里の人、初等教育を卒るや帆船に乗込むと數年、明治二十三年十二月吳海兵團に入營し七ヶ年の服役中廿七八年には一等機關兵曹として松島艦の乗込み、日清の戰役に參加し、三十年除隊となり、後沿岸汽船の機關士を務め三十三年三月に至りて、ビク

トリヤへ上陸し一ヶ年間晚香坡附近なるフレザー河の鮭漁に従ひ、翌年加州に轉じて大根其他の農園に働く事四ヶ年、偶まコロラド州に於ける農業の有望なるを聞き、卅八年三月本州に來り、甜瓜の名産地たるロッキーフオードの農園に一ヶ年を送り、營農方法等に就て考究する所ありしが、獨立自營せんには、未だ資の不足を感じ、先づ合資營業の得策なるを想ひ、即ち濱岡及び中山の二氏と共に卅九年二月當地に來り共同にて借地農業を爲し、四十一年より濱岡氏は他に分立し、氏は中山氏と共に繼續擴張して今日に至る、氏や資性寔に濃厚にして事に當つて用意周密なるの人、基礎の益々鞏固ならんとする亦故なきにあらざるなり。

中山氏亦同縣同郡姫川村の人、明治十六年に生る、郷里に於て高等小學卒業後家業を補けて農事に耽めしが、三十三年春四月故山の花を見捨て、シヤアトル港に上陸する事となりぬ、斯くて東洋貿易會社の下に屬して鐵道人夫となりて以來五ヶ年、モンタナ州にワイヨミング州に到る處寒暑に耐え苦難と闘ひて一意貯蓄に志し、精勵怠る無かりしも、卅七年ワイヨミング州ロックスプリング炭山に行きて坑夫を勤むる事滿一ヶ年後本州農園業の旺んるを耳にして、直ちに本州に來り南部ロッキーフオードを経て當地に足を留め、同郷の人森川氏等と共に先づ八十英加を借地して農業に着手せし以來茲に四ヶ年、時に消長ありと雖も堅實なる氏は能く森川氏と共に刻苦し奮闘して、専ら事業の發展に努め、日夜汲々懈るなかりし効空しからず、今年に及びて約三千弗の耕馬及び農具を整ふを得、三十英加の牧草及び十英加の麥、四十五英加の大根亦凡て大豐作を見るに至りしと云ふ、蓋し氏等が一致協力克く圖り能く力めし結果に外ならずんばならず、實に氏等の如きは當地在留同胞中有數の好事業家と稱す可きなり。

ブラワース、カウンティシートたるラマーは、傳馬市の南東二百三十五哩餘、ラハンタの東五十三哩、ハーレーの西二十七哩の地點に當り、海拔三千五百呎ありて、所謂アーカンサス平原中尤も有望なる且つ繁華なる一驛なり、サンタファイ鐵道に沿ひ、人口四千五百を有し、銀行あり、寺院あり圖書館あり市立學校あり、合衆國有土地拂下げ局あり新聞雜誌社あり旅館あり、壯麗なる裁判所あり、宏大なる警察署及市役所あり又劇場あり、水道夙に完成し、電燈輝き、交通運輸の便尤も好し、而して町の一端に屹立するアメリカン製糖會社の製糖場は建築費實に七十萬弗を要せしと云ふ。

當地の産業は農を以て主とし、畜産之れに次ぎ、約四十萬頭の放牧し得る土地四百餘萬英町を有し、合計延長百七哩ある十二本のデッチは十八萬英加を濕ふして砂糖大根麥類及び牧草（アルファアルファ）等を産出す。昨年度當市より輸送せる荷車數は二千四百の多きに達し、中、食牛馬羊七三〇、牧草三百二十、砂糖大根五〇〇、グリーン八五〇荷車ありしと云ふ、以て如何に生産業の旺盛なるかを、知るに足らむ。

是の如く有望なる當地に始めて足跡を印したる邦人は即ち外園直市氏にして、卅九年氏は當地を訪ひ製糖會社の聘に應じ、約一時間に渉る英語演説を試み、而して邦人労働者の優勝なるを辨じ、間崎會次郎、水口百助、高橋安太郎氏等の雄將を督して大々的運動の下に大根園一英加に付二十二弗五十仙にて労働を契約し、我労働者八十餘名を供給せり。翌年宮城縣人目黒、熊

組代りて農園労働契約業を營み、百有餘名の同胞入來りて一時大に盛況を呈し御座本某及向山甚内氏等の農業家起り、深川、中島、佐藤三氏の洋食店をも見しが皆暫時にして失敗に了り或は閉店し又昨四十一年に至り、目黒熊合組及びケイ田村氏等の事業家全然失敗に終りし爲め、當地に留まる同胞日に少なく、又前年の盛況を見る能はず、今年度は春季に於て外岡日置組専ら斯業に奔走し又秋季に入りて外岡氏只一人尙繼續して努力健闘五十餘名の同胞を使役せしも、滔々として侵入し來る墨國労働者の爲め、遂に衆寡敵せず遺憾ながら敗亡の體爲たりと云はざる可らず。

然れ共邦人にして又着實有利なる農業に志し、既に疾く從事せる者あるに至れるは、之れ慶ぶ可き現象にして即ち名を後にし實を先きにするの意に適せるものか。又當地を去る西北十哩のワイレーに於て農業を營む二三の同胞あり、當地は人口三百、海拔三千六百尺氣候好く、灌漑の便既に開け、尤も農業に適して將來頗る有望なる地方なりと云ふ。今ラマー及びワイレーに於て農業に従事する諸氏を左に紹介せん。

水 口 組

ラマー、アール、エル、デー、一番

ラマーに於て尤も盛大に農業を營む水口組は、山梨縣人より成り水口百助、渡邊半十郎、杉原伴作、内藤榮吉、山田正作、山下三郎、若杉榮吉、の七氏なり。以上の諸氏は在加州以來共同一致農業に従事せるものにして、當地に來り初めて農事に着手せしは千九百六年十二月な

り。而して本年の耕作借地は三百二十英加にして内譯左の如し。

ビ ー ツ 二百五十英加

アルファルファ

井ニコト、ホイト

七十英加

地代收獲の五分の一、

地代收獲の二分の一、

尚ほ氏等農業着手の當年即ち一九〇七年當地一體大洪水ありしも水口組は何等の損害なかりしと云ふ

又水口組のプロバタイとして馬十八頭乳牛一匹豚十頭鶏七十羽七面鳥十五羽食牛三頭羊二匹、其他多くの農具類あり、南部格州農業家中隆々たる勢望ある組合として知らる。

水口百助



庭家及助百口水

山梨縣西山梨郡甲運村の人、向山甚内氏の弟也、氏六歳の頃水口家に養子となる、明治卅二年三月香港にて桑港上陸以來家内労働に就き儉勤の甲斐ありて多少の貯蓄を得、九ヶ月の後同縣人廣瀬守令、増田嘉六同藤作の諸氏と合同して東洋商會を組織し食料雜貨等を販賣す。卅四年一月同商會を小林彦次郎氏に譲り加州プレサントンなる安孫子久太郎氏の下に來り、新米渡

者の爲め周旋の勞を取る、三十六年二月再び出桑して富士山館を設立し、館内に貸間、西洋風呂、散髪床等を設置し同胞の爲め大に便宜を興へたり。卅七年十一月鈴木宇兵衛氏に同館を譲り渡し、翌年五月アイダホ州リュスヰイルに來りて大根耕作に従事せしも不慮の禍に罹りて失敗に終る、其損害高實に二千餘弗なりしといふ。三十九年五月格州傳馬を経て當地に來り、再び農業に従事す、失敗は即ち、成功の基にて、撓まず勵みたれば遂ひに今日の結果を見るに至れり、氏は明治元年十月十一日生なり。

渡邊半十郎



郎十半邊渡

山梨縣東山梨郡中牧村の人、文久二年十月一日生なり、郷里に於ては製糸家として其名聲高かりしも天魔の致す處となりて不幸失敗に終れり、故に斷然意を決して渡米す、時に明治卅四年なりき桑港に上陸後直ちにスタクトンに來り峰島氏の部下となりて馬鈴薯栽培に従事し數年の後、同家を辭しユタ州ガラランドに轉じ同縣人中島氏と共同して大根耕作を營みしも、又失敗に終りたれば、同州に於て水口氏を尋ね相提携し本州に來たり以て今日に及べり。

杉原伴作



杉原伴作

滞在の上共に格州に來りたり。

山梨縣東八代郡石和村字中島の人、十四年四月一日を以て生る、長じて農業に従事す、卅五年渡米桑港に上陸し加州コンコードに來り農國に働く二ヶ月の後プレサントンに水口氏を訪へ共に大根耕作に従事す、然れ共其結果あまり薫ばしからず、水口氏より一年前ユタ州に出て農況視察の結果多少得る處ありたれば一應加州に戻り、水口氏と携えてアイダホ州に入り、暫時

山下三郎

山梨縣東八代郡石和驛の人なり、明治六年十二月十日に生る、氏は水口百助氏の義弟なり、故國にありて農業に従事す、卅四年五月渡米、ブレサントンに到り義兄水口氏と共に農業に就く、二年後水口氏若杉氏と合同して在留同胞の便宜を計らん爲め桑港に富士山館を設立するに際し氏亦伴ふて桑港に出て、一年後同館を人手に渡すに及びて桑港を去り、以來義兄と共に其行

動を同ふし、ユタ、アイダホ州を経て本州に入りたり。

若杉榮吉



若杉榮吉

氏は杉原山下氏等と同郷にして十三年六月廿八日を以て生る、明治卅五年五月渡米桑港上陸早速同縣人水口氏をブレサントンに尋ね農園に働く事一年水口氏により富士山館設立の議起るやに賛同し、共同者の一人に加はり、營業開始するに及び、氏は常に四方に奔走して能く同館の完整を計りたり、其盡力や又大なりとす可し。經營一年にして之を人に譲り、後水口氏と共に本州に來り相倚り共に相扶けて今日の事業を經營するに至る。

内藤榮吉

山梨縣東山梨郡岡部村の人、明治五年一月元旦に生る、郷里に在りて専心農業に従ひつゝありしが偶々新歸朝者より在米同胞の福音を聽きて渡米の念頻りに動きて禁ずる能はず、遂に志を



山田正作

決して米國に渡る時に卅五年五月なりき、而して桑港に上陸するや直ちに水口氏をプレサントンに尋ね、氏の幹旋に依りて暫時農園に働さ、夫れより同氏と共にユタ州に入りしも或る事故の爲め一度加州に戻り又再び同氏の後を追ふてアイダホ州に來り、爾後相提携して以て今日に至る。



寺尾末雄

山梨縣東八代郡英村の人、明治七年六月生る、卅六年五月渡米し、桑港を経て、故國より紹介されし同縣人水口氏を尋ねてプレサントンに行き、氏の部下となりて農事に従ふ。爾後同縣人苦樂を共にしユタ、アイダホの兩州に大根耕作を試みしも面白からず又歩を本州に進めて當地に來り協力一致過去の經驗に照らして再び農業を經營し、遂ひに今日の水口組を成すに至る。

實に氏等七名の堅忍なる將た終始不易なる精神の下に渾然融和して共に事業に熱心なる洵に異數と云はざる可らず、諸氏乞ふ蓋し奮闘努力せられん事を。

寺尾、池谷、丸山組

アール、エフ、デー七番

山口縣人寺尾氏山梨縣人池田、丸山の兩氏とに依りて、經營さるゝ三人組の事業は着實勤勉を以て白人間に非常なる信用を有す。ラマー在當邦人農業家中又評判好き組合なりと云ふ、本年度は六十五英加の借地に大根を耕作せり。

寺尾末雄



寺尾末雄

山口縣熊毛郡室津村字新町の人、明治廿年一月十九日に生る、故國にありて農業に従事す、卅八年二月十九日渡米し桑港に上陸して市内見物に數日を費やし後ソートレキなる橋本大五郎氏の入夫募集に應じてサンピトロ鐵道に就働する事一ヶ年更に本州北部に來りヒールローズに於て大根園に働く卅九年九月パワソングトン

鐵道工夫となりてテプスカ州に入りて勞に服し、四十年四月再び格州に戻りて當地に來り大根園に就働せしが勤勉にして着實なる氏は白人より信用を受け、四十一年度より借地契約して大根耕作に従事す、又同地在留同胞間に於ても將來有望の青年として矚目せらる、幸ひに奮勵せよ。

池谷 種次

山梨縣甲府市櫻町の下駄商なり明治六年十一月十五日の生にして卅七年渡米して桑港に上陸す。夫れより加州サンノゼ附近の農園に働き又桑港に戻り、邦人營業の洗濯屋に就働す、數月後辭して同縣人水口氏と共にアイダホ州に入り、メニテにて谷越氏の下に大根ボーイとなり、四十年本州ラマーに來り經驗ある大根園に働く、四十一年度より三人共同して大根耕作に従事す。

丸山 正邦

山梨縣山梨郡八幡村字大工の人、明治十六年十月十一日に生る、郷里にて農業を營む、卅九年四月渡米し桑港に上陸するや直ちに加州リビンダストンに向ひ同地相川氏の下に農夫となり、働く事數ヶ月間の後本州に來りロスアニマスに於て暫らく農園に働く、四十年十二月當地に移り、同縣人水口氏を訪ね、種々觀察の上、昨年より同縣人池谷氏及山口縣人寺尾氏と共同して大根耕作に着手し以て今年に及ぶ。庶幾くは努力せよ。

外岡 善太郎

氏は現今攝州神戸市の人にして、駿州賀茂郡三坂村は其出生地なり、明治十五年十月廿五日に生れ、卅七年十一月四日、渡米桑港上陸、同市に在りて種々事業を起したれ共餘り面白からず、依つて卅八年ユタ州ソートレキ市に來たる、同市に於ても亦同胞の爲め能く盡力し、機



外岡善太郎

あらば事業を興さんと努めしも果たさず荏苒二星霜を送れり、後格州同胞の發展の至大なるを聞き、突然本州に轉ずる事となり、四十年四月中旬ラマーに來る。先づ卅五英加の大根耕作を請負ひて働き、翌年再び大根耕作に従事し好成績を得て益々白人側の信用を博するに至り、今年度に入りては更らに擴張して九十餘名の我勞働者を周旋就働せしめ又同地製糖會社と談判を遂げて遂に同胞を雇ふに至らしむ、之れ一に氏が幹旋盡力に依るものとして又同胞の深く感銘する所ならずんばあらず。氏たる者益々奮闘以て終局の美を濟されんとを

曩きにラマーに於て、農園労働契約業に従事せし目黒熊谷組は同縣人緒方、半澤、庄司、猪野の四氏を合はせて昨年來より當ワイレーに移りて、農業に着手し、本年更らに擴張して、六百英加を現金借地し、アメリカン製糖會社及びハーレー製糖會社と契約して、大根八十英加、小麦百二十五英加、燕麥六十英加、コーン二十五英加、キャフコーン二十五英、ビンス五英加、アルファルファ二百八十五英加を耕作するに馬匹二十一頭及び三千余弗の農具を有し、外に養豚一百、乳牛一頭を所有す。之を現ラマーに於ける農業家水口組と比して些の遜色なかる可く、又彼れの山梨縣揃ひなると此の宮城縣揃ひなるとは、實に興味ある好對照ならずや。



目黒熊治

目黒熊治氏は宮城縣伊具郡西根村の人にして、明治十一年生なり、初め移民として布哇に渡航せしは卅三年二月にして居る事五ヶ年、各島耕地に就働して、或は栽培に従事し又勞力請負を業として得る處尠ならず。卅七年に及び新たに望を北米の野に囑して、同三月遂に桑港に轉航上陸す、夫れより加州バカビル及びフレノ氏附近に在りて各種の農園に就働し又労働供

給を營みて、卅九年二月ユービー鐵道人夫となり、更らに本州傳馬市に入りて同四月、ラマーに來たり間崎氏の下に大根園を働さ、翌四十年以來熊谷氏と共同して農園労働契約業を營み、時は百有餘名の同胞を使役せしも、彼の有名なる大恐慌の爲め、該營業に一頓挫を來たせると、



猪野宇太郎

且つは耕作の實利あるを知りて、昨年より當地に其本據を移して農業を開始せり氏や元來客氣に富み又頗る血性の人、故に往々人の爲めに誤らる、蓋し氏の未だ聲望なき所以か修養に積むに修養を以てし而して世に處し事に當らば其成功や期して待つ可きのみ。



半澤運七

猪野宇太郎氏は明治十年西南戦争當さに耐はなるの時宮城縣柴田郡金ヶ瀬村に生る、郷里に在りて農業に従事せしも、志を立て、一旦布哇に渡りしは目黒氏と同年にして、爾後其行動を一にし來り以て今日其所志の緒に就くを得たる極めて温順なる人なり。

半澤運七(十六年生)は柴田郡沼邊村の人にして緒方今朝藏(七年生)庄司今朝の助(十六年生)の二氏は共に猪野氏と同郷なり、而して半



庄司今朝之助

澤緒方庄司の三氏は明治卅一年移民として布哇に來たり、約八ヶ年間各島に渡りて各耕地に就働し、後轉航を思ひ立ちて桑港に來りしは卅九年五月にして、加州スーソン或はサクラメント地方に於て、暫時農園に働き、漸次歩を東に向けて絡機連峯を東に超え、目黒熊谷氏等を尋ねし本州ラマーに來り同氏等の下にありて農園に働き、而して今日に及ぶ、其一致協力終始行動

を共にし以て事業を起せる基礎を築きしは又稱するに足る可し。

熊谷千萬次郎氏は妻帯者にして又一女兒あり、尙田郡福岡村の人、明治十二年二月七日を以



熊谷千萬次郎

て生まる、性着實勤勉にして、能く人を遇し、能く事を處理す、氏等組合の事業は目黒及び氏が中心となりて活動する其反影にして同組合の成否如何は天災の有無を除かば、一切の責任は懸つて氏等二人の兩肩にあり。氏も亦目黒氏と同時に最初布哇に渡りて各耕地に働き、卅六年二月十八日桑港に上陸し、バカビル、フレスノを経て羅府に來り、該地方に於て苺園の勞働請

負に従事し三ヶ年を経て、コロラド地方の有望なるを聞き、直ちに當州傳馬市に來りしは、卅九年八月にして、約二ヶ月渡邊旅館の厨房に補助をなし、同十月末ラマーに來りて、目黒氏と共に契約業を開始せし以來、常に拮据勉勵、惡戰苦闘を繼續して以て今日に及ぶ。亦努めたりと云ふ可し。思ふに氏等組合事業の前途や當さに洋々たるものあらん。諸氏夫れ奮勵せよ至囑。

遠藤村上組

R, F, D, 二番

同組合は始め遠藤兄弟村上酒井の諸氏に依りて明治四十年に組織せらるる在ワイレ同胞農業者中の模範的組合なり同組合は馬十二頭、豚八十頭を有し同年二百五十英加の農園を耕作す、四十一年度に至り酒井氏は組合より或事故の爲めに脱す爾來三名にて其の事業を繼續し以て今日に及べり過去の三年間の農産物統計を掲げ併せて組合員諸氏の履歷に就き左に記さん。
四十年（組合員四名）耕地貳百四十英加、大根、七十英加（一英加より九噸九噸半の收穫）、アルファルファ五十五英加、麥二十英加、牧場九十九英加、四十一年度組合三名耕地百五十英加、大根七十五英加（一英加より十噸の收穫）麥七十五英加、アルファルファ三十英加、四十二年耕地百六十英加、大根六十英加（一英加より十四噸の收穫）麥四十英加、アルファルファ三十英加、黍畑二十英加、牧場十英加、以上。

村上龜藏

香川縣小豆郡草壁村の人、明治四十年六月生る、本國にありて農業を營む、卅八年九月渡米桑港に上陸數日にアイダホ州に入りオレゴン、シヨウトラインに鐵道工夫として五ヶ月間働く又同州にて大根働をも爲す卅九年三月本州ラマーに來たる再び大根働をなす一ヶ年後多少の貯蓄もなりたれば靜岡縣人酒井氏及同縣人遠藤氏と共同して農業を營む、又馬十二頭豚八十頭を買入れ牧畜をも副業とす。

遠藤丑藏

靜岡縣安倍郡三保村の人明治十年四月生なり農業目的を以て三十二年十二月渡米し同月廿三日沙港に上陸以來勤儉貯蓄に心掛或は鐵道工夫となり或は農夫となりモンタナ州アイダホ州等に勞働す三十九年四月本州ラマーに入り大根仕事を成す翌年酒井、村上の諸氏と共同して大根



遠藤村上農園

耕作に従事せり氏は篤實温厚を以て白人間に名聲高し。

遠藤金太郎

靜岡縣安倍郡三保村丑藏氏の弟なり明治廿年六月に生る、故國にありて農業に従事す三十八年十月渡米桑港に上陸し市内見物に數日を費せし後加州各地の農園に働き、三十九年四月令兄丑藏氏をたより本州ラマーに來たり暫時大根園に働き翌年令兄其他二三の人と共同して今の組合を起す前途有望なる青年なりと言ふ可し。

酒井久藏

靜岡縣安倍郡不二見村駒越の人(明治廿年九月生)幼少の頃より渡米の念を懷き遂に三十七年十二月志を立て、郷關を出て同十二月廿五日桑港に上陸し友人の周旋によりてユタ州オレゴンシヨウトラインに鐵道工夫として就働す一年後本州ラマーに來りて大根仕事を爲し、四十年當地にて遠藤村上の兩氏と共同し農業を營む翌年都合上同組合より脱して以後獨立して大根耕作に従事する事となれり好漢幸ひに自愛せよ。

同地は本州の東南部アラワース郡の東部に於てアルカンサス平原に屬し、東方へ傾斜してカンサス州に注ぐアルカンサス河の流域にして土壤肥沃且つ曠茫たる原野なるを以て農業及牧畜に名あり、本州中最も氣候温暖にして農産物の牧獲亦尠ならず、殊にキャンタロープ(甘瓜)の如きは本州の特産地と稱せらるゝロッキンフォードの産物と比較して毫も遜色なく、多少の霜害を被むる場合ある可しと雖ども而かも他地方に比せば營農費に於て大に節約するを得べく従て利益亦大なるが如し、加ふるに近時に至りては將來有望なる農業地として一般に矚目せられ、隣接ベント郡の如きに州内第一の大規模なる灌漑工事を施こし、浩大なる面積に給水するの設備已に整ひたり、同地方亦近時灌漑の便、大に開け農業の發展實に著しきものあり、ハーレーには六百五十萬弗の資本を投じたる製糖會社あり、三百の人を役使し、一日砂糖大根六百噸を精製し得る設備を有す、兩地ともサンタフェ鐵道ありカンサス州へ通ず、デンバー市へは二百六十九哩にしてグラナダよりは二百六十一哩なりとす、前者は人口千貳百を有し、後者は四百五十名なりとす、兩者とも海拔約三千三百呎なり。

今同地方に於ける邦人の跡を見るにハーレーに於て最初に耕作したるもの奥村氏及び福岡縣人富永時太郎にして千九百五年即ち明治三十八年百六十英町の胡瓜、九英町のキャンタロープ廿五英町の甜菜を耕作し、次年度に於てはグラナダに移り末永一登氏之に加はり共同して十五英町のアルファルファ、五十英町のキャンタロープ、百三十五英町の甜菜を耕作したり、三十

九年ハーレーに於て熊本縣人栗原輪平なる者甜菜の契約を爲し百人の勞働者を供給し、翌四十年には八十人を供したるも彼れは其支拂を爲さず、勞働者の勞銀を拐帶し逃亡したるを以て、勞働者が白人商店に支拂ふの止むなきに至れり、之が爲め白人間の感情を害したるに昨年前掲富田時太郎は栗原の後を繼ぎたるも之れ亦栗原の如き惡漢にして同胞の信用、地を拂ふて皆無なるに至れり、如斯き状態なるを以て昨年廣瀬守令、森田徳次郎の二氏契約せるも失敗に歸し、本年は遂に契約者を見ざるに至れり、先是三十九、四十年には田村橋本組、森口野入組等ありしも何れも失敗に終れり。

要之同地方邦人の全盛なりしは三十九、四十の兩年度にして、惡徳なる契約者が信用を傷けたる、是れ同地方發展を沮害したる最大の原因にして吾人は斯の如き破廉耻なる不徳漢に對しては須らく鼓を鳴らして攻めざる可らず、然れども年移ると共に現時に於ては末永、奥村等諸氏に依て漸次信用を恢復しつつあるを以てアルカンサス平原發達の潮勢に伴ひて次第に基礎を固むるに至るべきなり。

同地方に於ける重要な農産物たる甜菜及キャンタロープの收支概算を擧ぐれば左の如し。
キャンタロープ(甘瓜)小作費(但シ一人十英町)

創業費

一 參	馬二頭及馬具
一 拾	アラウ一挺(ウオキング)
一 拾	ハロー一組(碎土器)
一 拾	レベル

一 參 弗
 一 八 弗
 一 七 拾 五 弗
 一 五 十 一 弗

計 四 百 三 拾 弗

甘瓜カルチベーター一挺
 スレイド(加よりベツキン)
 運搬車
 雜費

營 農 費

一 貳 拾 五 弗 ○
 一 十 弗 ○ ○
 一 十 弗 ○ ○
 一 五 弗 ○ ○
 一 拾 弗 ○ ○
 一 拾 五 弗 ○ ○
 一 拾 弗 ○ ○
 一 百 五 十 弗 ○ ○
 一 貳 百 弗 ○ ○
 一 四 拾 弗 ○ ○

計 四 百 七 拾 五 弗

ブラウ代
 ハロー代(二回)
 地均シ代
 溝付用マーク代及溝付
 種蒔代
 水引代(四回)
 カルチ
 ベーター(縦横二回宛)
 摘採費及箱詰代(一箱)
 箱代(壹個十仙)及箱打代
 運搬代(壹箱二仙半)
 運搬代(一哩乃至二哩)

損 益

一 收 入 (壹 箱 七 拾 五 仙) 千 三 百 貳 拾 五 弗
 一 支 出 地 代 (五 分 の 一) 貳 百 六 十 五 弗
 創 業 及 營 農 費 九 百 〇 五 弗
 差 引 純 益 百 五 拾 五 弗

△△ 備考 右は全部人手に依り耕作する豫算にして自身働くとせば前表○印は利益となる事勿論なり、而して二年目よりは創業費の必要なきを以て従て利益も多くなる譯なり。

二 年 目 損 益

右 收 入 の 七 十 五 仙 は 手 數 料 を 控 除 し た る も の な り。

一 收 入 (前 年 同 斷) 千 三 百 貳 拾 五 弗
 一 支 出 (地 代、營 農 費) 七 百 四 十 弗
 差 引 純 益 五 百 八 十 五 弗

前表○印を自身働くを常とするを以て猶ほ二年にて二百五十弗を挙げ得べく合計八百三十五弗の利益を得る事となる。

創 業 費

砂糖大根小作費(一人分四十英町の見積)

一 七 百 弗
 一 參 拾 五 弗
 一 拾 五 弗
 一 拾 弗
 一 五 拾 弗
 一 四 拾 五 弗
 一 貳 拾 弗
 一 百 五 拾 弗
 一 七 拾 五 弗

馬四頭及馬具
 ブラウ一台(ライディング)
 ハロー一組(碎土器)
 レベル(地均用器木製)
 種蒔器械
 カルチベーター(ライディング)四筋の分
 ビーツブラウ(犁器)
 運搬用荷車
 雜費

營 農 費

一 百 四 十 弗 ○
 一 二 十 弗 ○ ○
 一 二 十 弗 ○ ○
 一 三 十 弗 ○ ○

計 壹 千 百 弗

ブラウ代
 ハロー二回
 地均シ代
 種蒔代

一六	十	弗	種代
一八	十	弗	掘作り代(水引用)
一六	十	弗	水引き代四回
一六	十	弗	カルチペーター六回
一六	十	弗	間引代
一六	十	弗	草取二回
一六	十	弗	犁起シ代
一六	十	弗	タツピング代
一六	十	弗	食料
一六	十	弗	雑費
一六	十	弗	借地代(收穫五分一)
一六	十	弗	計 千七百拾貳弗

△△ 飼料は馬一匹に付一ヶ年牧草六噸コーン一噸と見積るを常とす、相場は毎年高低あると又各自耕作するを以て之を除きたり。

損益

一收入(一英町拾貳噸平均)	貳千〇六拾弗
一支出(創業及營農費)	貳千八百拾貳弗
差引損失	七百五拾貳弗
二年目損益	
一收入(前全斷)	貳千〇六十弗
一營農費(前全斷)	壹千七百十貳弗
一前年度損失	七百五十貳弗
差引損失	四百〇四弗
三年目損益	

一收入(前全斷)	貳千〇六十弗
一營農費(前全斷)	壹千七百拾貳弗
一前年度損失	四百〇四弗

△△ 備考 右三年度之表に依れば毎年損失ある様なるも以後一ヶ年毎に利益を増加するものと知る可し、別に多少の維持費を要するも營農費中〇印ある分は自身にて爲し得るを以て收支決算を爲せば左の如し。

創業費 壹千一百弗
三年間勞銀(〇印) 壹千百十弗
純益 貳千餘弗となる割合なり

猶ほ北部地方と氣候異なるを以て自ら其期節相違あるが故に参考の爲め摘記せんに
 大 時付 四月十五日より五月下旬迄
 根 間引 (六月上旬より七月十日頃迄次いで草取り)
 タツプ (九月廿日頃より十月下旬迄に始め十二月末迄)
 時付 (四月十五日より五月十日迄降霜の如何に依りて多少の遅速あり)
 摘採 (八月十五日より一ヶ月乃至一ヶ月半)

末永一登 郵函一

艱難汝を玉にす、とは蓋し千古の至言なり、而して吾人は其實例を末永氏に於て適切に感ぜざるを得ず。

氏は廣島縣安藝郡吉浦村の人、明治十八年十二月を以て生る、助九郎氏の長男なり、高等小學を終るや笈を廣島市に負ひ、縣立職工學校に入り建築學を修む、益々其堂奥を究めんと欲し、



末永一登

明治三十六年（千九百二年）十一月渡米の途に就き直航加州桑港に上陸し、先づ語學に精通するの必要を感じ未だ弱冠に達せざるにも拘はらず、瓢然桑港を去りて同胞の足跡稀れなるニューメキシコ地方に慕進し來り、家内の勞働に従事するの傍らグランマースクールに通學し研讀怠ることなかりき、偶々叔父山中正雄が本州の南部ロッキーフォードに在りて農業を創むるに當り呼ばれて同地に至り、熱心事業を助けしも時、利あらず啻に失敗に歸したるのみならず翌年孟春日露交戦するに及び山中氏は身、軍籍に在るを以て召集の命に接し、其恢復を計る能はず蒼遑遂に歸朝の途に上れり。

山中氏をヘルプせる氏は米國に於ける農業の如何なるものなるかを知り、其趣味を解するに至れり、而かも一片の義心、叔父の失敗を憤慨し、之が恢復を見るにあらざれば已まざるの決心を爲し、明治三十八年十月地をグラナダに卜し、奥村菊太郎及嘉次郎の兩氏と共同し夙夜業を勵み、自ら馬を馭し鋤鋤を執り、以て業に従ふもの多年一日の如し、堅忍不拔の士に非ざるよりは焉んぞ能く斯くの如くなるを得んや、氏は或る意味に於て山中氏の志を繼ぎ之を成就したるものと云ふを得可し、猶ほ春秋に富むと共に米國に永住して以て百年の計を建つるの志あるが如し、益々勇往邁進以て在留同胞の爲めに盡されん事を希望して已まざる也。

奥村菊太郎 全



奥村菊太郎

氏は三重縣志摩郡片田村字大里の人、明治三十四年十一月十六日令弟嘉次郎氏と共に本國を發し、同年十二月四日墨國コワウイラ州シツビデヤへ着す、（桑港より五晝夜）夫れより十六日間炭鑛へ就働す、三十六年四月同地を出發し米國へ入り、ニューメキシコ領ガロップへ來り、永見氏の許にサンタフキ鐵道へ働く、後ち暫らく炭鑛の仕事を爲し、本州南部のロッキーフォードへ移り一ヶ年農業に従事し次いでメイトランドの炭鑛にて石炭の採掘を爲すこと一ヶ年半、已にして貯へ得たる金額尠ならず即ち農業に志して三十八年五月ハアリーへ來り、氏等兄弟にて富永と共同にて農業を營みしが三十九年よりは、末永氏と共に現在の所に農業を經營し引き續き以て今日に及ぶ、故國に在りては十六歳より船乗りとなり渡米の際まで其職に従ふ、年齒三十有六、資性溫厚熱心なるの人、宜なり三者鼎支して益々其基礎の鞏固を致しつつあることや。

奥村嘉次郎 全

氏は三重縣志摩郡片田村の人、明治十年五月を以て生る、郷里に在りては農業に従事せしが三十四年橋本大五郎が募集せる墨國移民に加はり八十餘人と共に來る、渡航費として米金七十



奥村 次郎

弗（墨金百四十弗）を十四ヶ月にて辨濟するこ
とを約し、三四ヶ月後炭鑛の仕事を始め、當時
十時間働き墨金壹弗廿五仙乃至一弗三十仙の日
給にして就職せる同胞の數和歌山縣人四十餘
名、三重縣人三十五六名なりき、炭鑛は二ヶ所
有ありスベランサーは炭層十尺シツビデヤは四
尺なりとす。彼等は四ヶ月餘同鑛に就働せるも

得る所僅かに貳弗五十仙なりければ在羅府奥村爲吉氏は奥村幸三郎氏を總代とし右の始末を墨
國公使館に電報す、依て同公使館より一等書記官信夫幸平氏は事件調査の爲め出張し會社と種
々交渉の結果、積立金參千五百弗ありしを以て十ヶ月後より日給壹弗五拾仙を支拂ふ可き約成
る、奥村達藏氏亦一書を載し、本國知事に向け墨國移民事情に就き陳述しければ故國より青木
椿吉氏調査の爲め墨國へ來航し又熊本移民會社副社長井上甚之助氏（在布哇）も同行して狀況
調査の結果、炭鑛に於て不便の際は飲水食事等自由行動を採る事、及渡航費は狀況相違せるを
以て四分を削り六分を償却する事とせり、如斯にして氏は本州南部ロッキンフォードへ來り令
兄菊太郎氏と行動を共にし三十九年より末永氏と共同して今日に至れり、今其耕作別を擧ぐれ
ば左の如し。

末永、奥村兄弟組（四十二年度）

キャンタロープ、四十英町、砂糖大根、百二十五英町、キャフコリン。アルファアルファ。三十
五英町。

高野 末藏

氏は宮城縣刈田郡宮村馬場の人、明治十四年九月の出生なり、三十三年布哇マウイ島に渡航
し、甘蔗の栽培耕作に従事して大に貯蓄を爲し、三十八年七月下旬桑港へ上陸して以來鐵道に
或は農園に就働せしが四年一年本州へ來りて地をグラナダに卜し、徳島縣人榎野幾平氏と共同
にて百六十英町を借地契約して農業に従事せしが偶々同年四月榎野氏は不慮の災難に斃れたる
を以て新たに永田友治氏と共同にて繼續し、本年に至りて勤勉なる氏は過去の經驗と相俟て益
々其事業の擴張を計り、再び百三十二英町を耕作す、大根七十五英町（地代收穫の五分の一）
アルファアルファ（英町現金五弗）麥廿二英町（收穫折半）キャンタロープ十英町（地代大根と
同じ）以上の如くにして熱心經營の任に當る。

永田 友治

氏は福岡縣三潯郡西牟田村の人、明治三十九年一月大陸移民會社の扱にて墨國マンザニヤン

港へ上陸し後ちアマバローミーングの金山に就働したりしも勞銀低廉にして到底貯蓄の見込なきより四十年三月に至りてエルバソを経て米國へ轉入し來り或は農業に或は鐵道に働きたりが四十一年四月中高野末藏氏のバートナー填野幾太氏が死亡した後ち高野氏と共同して精勵農耕に従事して今日に至る、耕作英町種別等は前段高野氏の部を参照あれ。

猶ほグラナダ附近なるアミユテリには昨四十一年より田尻、國坪、今本の三氏共同にて借地耕作を爲し居れり、百二十英町にして内甜菜六十英町其他は麥、アルファアルファ及キャンタロ
イブなりとす。

コロラド州南部(炭坑)地方

ウォルソンバーク

コロラド州南部に於ける一都邑なり、人口三千、ウォリアーノ郡のカウンティに於て、傳馬市を去ること南百七十五哩、デンバー、ライオグラッド及びコロラド、サウザインの兩線、之が交通機關たり。郡中未だ灌漑の便全からざるを以て土地充分に開拓せられず、牧畜稍見るに足るあるのみ。石炭は郡中至る所探掘せられ一ヶ年の産額貳百萬噸を下らず、本市の附近に散在する坑數十有七、以て如何に炭業の盛大なるかを知るに足る、左に同胞が就働する重なる炭坑を順次記述する所あらんとす。

タウン就働者一人(酒屋のポーター)

△マクナレイ炭坑

ウォルソンバークのタウンを去ること西北僅かに一哩半の所に在り、ウォリアーノ石炭會社に屬し規模小なりと雖も大に同胞を優待す、邦人坑夫の就業したるは、去る千九百四年(明治三十七年)十二月廣島縣人ヅョーヂ高尾力太郎が同會社と契約して二十名の坑夫を供給せるに始まる。去る千九百七年恐慌以前は五六十人の同胞就働せることありしも、現今は總員二十人、一日の働き高四弗前後を以て平均となす。高尾某去りてより共同合宿所組織となし、別にボツス即ち請負業者を戴かず自治制度に據る、川上梅昌、松本豊三郎及び高木定吉の諸氏は其古參なるもの常に在留者の牛耳を執り公共の事に奔走す。

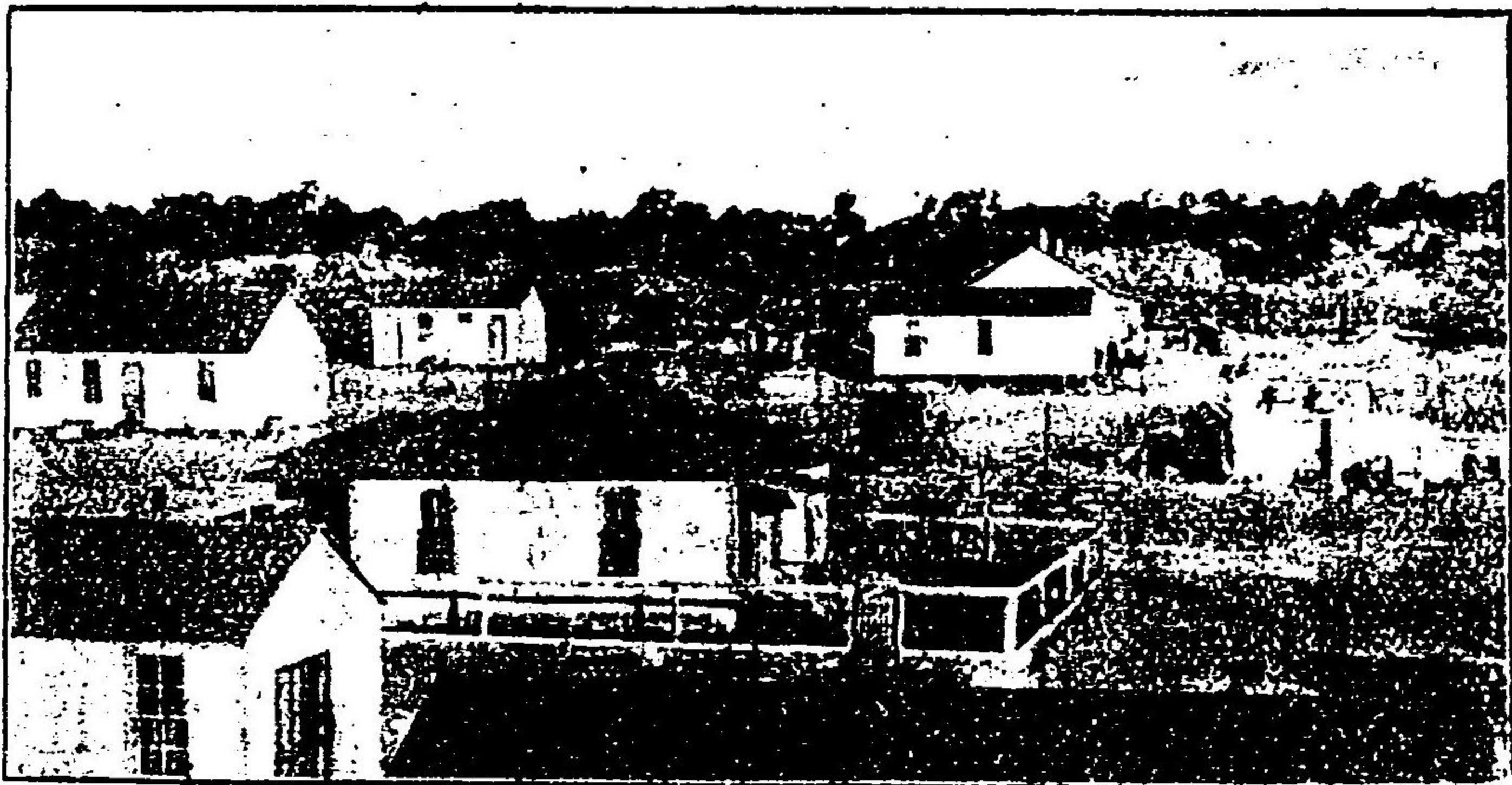
川上梅昌

ウオルソンバーグ郵便二九二
マクナレーマイン

四四六

言ふ勿れ炭坑夫と、我が國に在りては坑夫は或は最も下等なる職業として卑まれ、最も人の惡るきものとなさんも、米國に在りては一個の立派なる職業なり。殊に在留同胞間に在りては、危険之に伴ふと雖も、最も金儲けに速かにして大なるものと見做さるゝ也。

川上梅昌氏は長崎縣南高來郡北串山村の人なり、日清の戦役起るや、進んで身を海員の籍に投じ、先づ社外船に乗り込むこと五年、轉じて東洋汽船會社に入り、米國航路に従ふこと年あり、米國が同胞の好發展地たるを觀破し、志を決し明治三十六年二月シヤトル港に上陸し、直ちにクレイトノーザン鐵道のセクションに働くこと一ヶ月、更にワイオミング州シエリダンに至り勞働に従事すること三ヶ月、其當時同地出張所主任たりし岡嶋金彌が職を辭し、本州南部の炭坑に人夫供給を開始するに及び、同氏に従ひて同年七月當地ウオルソン炭坑に來り就働す、爾來七ヶ年の久しき時に他に移働せることありしも常に同一の業に従ひ大に採掘の妙技に達せりといふ。多年共同賄所の會計に推され管に其任に當るのみならず、同坑に就働する同胞の爲に計ること少からずといふ。



マクナレーマイン

松本豊三郎

ウオルソンバーグ郵便二九二
アクナレー炭坑

氏は廣島縣甲奴郡甲奴村の人なり、明治三十五年三月シヤトルに上陸し直ちに久我ギヤングに投じ大北鐵道に働くこと六ヶ月、ワシントン州スポーケンに至り聊か感ずる所あり家内の勞働に従事せり、明治三十六年四月偶々岡島金彌がコロラド州フォートコリンズ附近のロッキート山に水道開鑿工事を受負ふに會し、募に應じて之に就働す、同年九月業終りてワイオミング州シエリダン附近炭坑に轉ず、之れ氏が炭坑に就働するの始めなり、同年十一月再びコロラド州南部に白人坑夫が同盟罷工をなし、岡島氏が日本人坑夫供給契約をなすに當り、率ゐられてウオルソン炭坑に入る後當坑に轉じ亦た他に移轉せず、氏が同僚と交りて善からざるなさは氏が一徳なりと雖も性質の溫順なるに因らずんばあらず。

高木定吉

ウオルソンバーグ郵便二九二
マクナレー炭坑

高木氏は福井縣三方郡耳村河原市の人なり。其渡米したるは明治三十一年にして、桑港に上陸し直ちに櫻府に向ふ、會々伴新三郎配下の鐵道人夫募集員に逢ひ、從ひてポートランドに赴

四四七

きバーリントン鐵道工夫となりモンタナ州の各所に轉働すること多年、再びポートランドに入り方針を變じてワイオミング州ロックスプリングス炭坑に至り、石炭採掘の法を覚え、進んでニユーメキシコ領ギャロップ炭坑に至り居ること一年半、三十七年ウォルソンバーグに轉じ爾來引續き當坑に就働し當坑屈指の採掘手たり、而して實弟はシャトル市の附近サウスパークに土地を購入し蔬菜の栽培に従事す、東西相離るゝと雖も兄弟心を一にして業に勵まば成功亦邇きにあらん。

ウォルソン炭坑

ウォルソンバーグのタウンの南端に在り、コロラドアイアン、ファイエル會社に屬し、コロラド州南部に於ける著名の炭坑なり、千九百三年十一月白人坑夫同盟が罷工するや、會社は頻りに日本人坑夫を雇用し、更に岡島金彌を社員に登用し加州及び各地より日本人を募集し、安瀬清吉をして之が監督の任に當らしむ、爾來請負者は幾度か轉變せしも同胞坑夫は依然として就働す、現在員數十三人也。

城戸作平

ウォルソン炭坑
郵函九十六

氏は熊本縣玉名郡大野村字中土の人、ロッキーフオードに農業を經營する城戸三平氏の令弟なり、明治三十五年布哇に渡航し、岡島各所の甘蔗耕作地に就働し三十八年八月加州桑港に轉航し、慕進コロラド州ピクツ炭坑に入り、採掘の法を究むること二ヶ月、轉じて當坑に來り留まること一ヶ年、進んでマクナレー炭坑に就働し勤勉衆に超ゆ、而して當坑宿泊所前主人の後を襲ひたるは明治四十一年十一月なり、氏の今日ある、夫人内助の効少からざるが如し。

サンタクラ、炭坑

本坑はラウスの附近にあるを以て又ラウス炭坑と稱せれコロラドフウエルアイアン會の所有する所に係る、三十六年岡島金彌の下に草野某デランゴより來り坑夫を供給せしが間もなく沖繩縣人屋比久某に代り、四十年四月より高橋勇氏の契約する所となり以て現今に及ぶ、其盛なりしときは六十人の同胞坑夫就働せしも一昨年のバニツク以來頓に人數を減じたり、本年九月彌々財界の順潮に赴くを見るや、會社は坑内及び機械に大修繕を加へ十月より再び開坑せり目下同胞坑夫七人に過ぎざれども其數の漸次増加すべき火を暗るよりも明らかなり。

ラグビー炭坑

ラグビーの停車場を去ること約二哩の所にあり、ブリメロ、コール會社に屬す、本坑契約の條件は他の諸坑と趣を異にし採掘噸數を以て契約す、さればボツスが幾人の坑夫を使用するも會

社の毫も關知する所にあらず、會社は唯其採掘額に對して支拂のみ、此契約法は進歩したるや
り方にして又ビジネス的也、此方法によりて經營し成功せば眞に金儲けしたる也、ボーイ賃金
の頭を刎ね、コツミツシヨシと稱してカスリを取るとは全一の談にあらず始め荒川トム契約せ
しも或る事情の下に中廢するの已むを得ざるに至り本年七月九日より高橋勇氏之を譲り受け
り、然れども高橋氏は多くサンタクラ、炭坑に在るを以て、山口縣人吉本熊松氏共同者となり
て直接經營の任に當る、吉本氏は年齢弱冠を越ゆること僅かに四、昨年渡米し桑港に在る事一
ヶ年學窓の人たりしも感ずる所ありて本坑に來り高橋氏と意氣相投じ遂に氏を助くるに至れる
なりと云ふ、氏の前途や刮目して見るに足らん。

高橋 勇

ラグビー
郵四、



高橋 勇

氏が渡米の經歷を知らば何人も氏が今日ある
は怪しむを用ゐざるべし、今同氏の郷貫を尋ぬ
るに新潟縣南大沼郡西中三島村字舞子の人、明
治二十七年志を立て、横濱に出て同地の一大旅
館和田彦に仕ふる事七年、奮闘大に主家の爲め
に盡したりき、而も其間米國の天地に於て大に
爲す所あらんとし計畫する所ありき三十三年奮

然意を決し二月シヤトル港に上陸し直ちにグレートノッザン鐵道に投じ働く事二ヶ月再ビ「シ
ヤトル」に來り家內的勞働の傍ら好機の來るを待つこと一ヶ年翌三十四年アラスカに航じ同盟
の漁業を試み三十五年春ノーザンバシフィック鐵道にギャングを立て四ヶ月の後バトリング鐵
道に移りワイオミング州に至りドイツ炭坑に就働す翌三十六年十一月岡島氏の募に應じ三原、
川上、松本の諸氏と共に當地方に轉働し附近の各坑を研究し漸次會社の信用する所となり四十
年四月沖繩縣人屋比久某の後を繼ぎてサンタクラ、炭坑のボツスとなり本年七月荒川某がラグ
ビー炭坑を退くに及び吉本熊松氏等と共同し之が採掘を契約す、由來北越の人堅忽に富む、氏
の如き努めて倦むなくば他日大成を期するを得べし。

グリーンキヤニオン

本坑はグリーン、キヤニオン、コトル會社の炭坑にして同胞が單獨に來りて就働せると久しか
りき、而して正眞に坑夫の供給を契約したるは竹内關次氏を以て嚆矢とす、之れ千九百六年(明
治三十九年)十一月なり、本坑の石炭は家庭用として有名なるを以てパニックは多大の影響を
與へず休日なく採掘せるは獨り本坑のみにして昨年の如き會社は實に數多の同胞坑夫を得んが
爲め傳馬市の契約業者三浦喜太郎をして供給せしめたるも、同一坑内に異りたる供給者より供
給せる勞働は就働するを得ず且つ炭層低く高きも四呎を出でざるを以て三浦組は之に僻易し遂
に引上げたりと云ふ同胞坑夫は多きときは三十五人に達し平均二十五人位なりしも現今は僅か

に十二人に過ぎず長崎縣人廣瀬某之が帳簿方なり。

竹内 關次

グリーンキャニオン

氏は廣島縣安佐郡安村の人、アトウッドに於て農業に従事する同苗米吉氏の叔父なり、明治二十六年六月加奈陀晚香坡に着しグイクトリヤを経てユニオンマインに入り火薬のキャップス切りをなし後土井馬太郎氏と共に同地附近の山地を開拓し農業を試みたり九月十八日再びユニオンマインに來り人夫供給の契約をなし三十一年に至る同年六月廿五日晚香坡に出で鮭漁に従事し相應の貯蓄を得たるを以て九月十八日同地を發して歸朝せり、居ること半歲餘明治三十二年四月再び加奈陀晚香坡に渡航森兵衛のソーミルに就働すること二ヶ月満期に入りて晚香坡に出で鮭漁を畢りて米國に入り直ちに曾我五郎次大石某等十數名と共にワイオミング州ロックスプリングスのセントラル、コール會社に就働せり故ありて間もなくユニオンバシフィク्रीコール會社の炭坑に入り西山氏の配下に屬し大に氏の爲めに計りたりき、後同坑が勸業社の請負に屬せしも終始論ることなく同坑に就働し德望衆を壓したりき、明治三十九年六月コロラド州に



竹内 關次

移りヘステング炭坑人夫供給をなし九月進んでニューメキシコ州ガンハテン炭坑を契約し十一月グリーンキャニオン炭坑に坑夫の請負をなし引續き現今に及ぶ、ガンハウテン炭坑は竹内米吉氏をして經營の任に當らしめしも四十一年一月川本王次郎氏に譲り渡したり、氏の如きは斯界の元老と稱すべきなり。

デラガ炭坑

本坑はコロラド、アイアン、フヒール會社所有の炭坑中最も大なるものなり、日本人坑夫が就働したるは今を去ること六年前の事に屬す、而して之が請負者は本山高塚組にして一昨四十年末同組が破産するに及び奥村三郎之に代る今同組及同氏を代表してボッスの位置ありしものを擧ぐれば左の如し。

自三十七年二月	沖廣増吉
至三十九年十二月	
自四十年一月	虫明三郎
至四十年十一月	
自四十一年十一月	中野宗吾

本坑に於ける日本人坑夫の居住する建物は、木造三層樓にして優に百人を容るゝに足る、冬期は蒸氣を各室内に通じて暖氣を保つ、食堂あり大廣間あり又附屬建物として浴場あり鍛冶屋あり、浴場は中央に三十尺四方の温水槽に湯を沸かす其他萬般の設備之に適ひ盡さざる所なく同地白人ホテルの到底及ぶ所にあらず、實に全坑屈指の建物なるのみならず亦米國中日本勞働

者が住居する最善最大の家屋なりと云ふも決して過言にあらざるなり、以て同會社が同胞坑夫の技倆を認め如何に歓迎し、優待し、便宜を與ふるかを知るに餘りあるべし就働者は一時は百人に上りしも年々減少しバニックと移民禁止とは一層其傾向を甚しからしめ遂に近年は三十人を以て平均となるに至れり、現今就働者の數は三十人なり。

中野宗吉

デラガ炭坑
郵函一五〇

宏壯なるデラガ日本人キャンプの一隅に清楚なる一室あり壁間座右之銘を掲ぐ曰く
骨を折つて叱らるゝ傘屋の丁稚となるも遊んで褒めらるゝ貴族の若殿となる勿れ壯丹餅は
いつも棚にのみありと心得て世の中を何の絲瓜と侮らば天道條ち汝を殺すべし。

と如何に其主人公が勤儉主義にして且一種の奇骨ある人なるかを知るに足らん而して其主人公は誰ぞ當今のボツス中野宗吾其人なり、中野氏は一見貴公子然たる青年也、而かも此用意あり彼れ果して風人なるか、

氏は明治十六年十一月十三日を以て福岡縣八女郡横山村字下横山に生る、小學教育を経て久留米中學校に學ぶ、偶々感ずる所あり明治三十四年渡米の途に上り五月桑港に上陸し同地佛教青年會に止り英語を學ぶ三十五年ワッリンビルに苺の耕作を試み結果佳ならずサンノゼの菓物罐詰場に勤務すること二年大に白人の信用を得たり三十八年二月桑港に出て橋本大五郎の募集に應じてサンビドロ鐵道のギャングに入りてユタ州に來り六月進んでコロラド州に來りグリー



柴田範一 本田孫一 中野宗五郎

リーに於て外國氏契約の大根園に轉働し翌三十九年ブラッシエに移り中畑木本組契約の大根園に働き大に砂糖大根栽培法に關し得る所あり翌四十年は白人と直接契約して自ら就働せり、四十一年一月ワイオミング州ハンナ炭坑に轉じ石炭採掘の法を究め居ること九ヶ月傳馬市に來りしに會々奥村氏の知る所となり四十一年十一月拔擢せられて同坑主任となる、氏や性質溫順人と争ふを好まず制御に困難なる炭坑キャンプを營に平和に治むるのみならず彼等をして「よきボツス」なりと稱せしむるに至りては氏の手腕や尋常にあらず夫の氏が沿岸地方を去つて當地方に來れる、必ずや何等の期する所あるを知る尙ほ且つ春秋に富む、將來に於て觀るべきものあるや蓋し疑莫かるべき也。

柴田範一

デラガ炭坑
郵函一五〇

目下格州デラガに住する人、故國に在りて商業を營みしも逆潮に弄ばれし爲め失敗に終れり明治三十三年志を立て渡米す、同年四月二十三日英領カナダに上陸當地に暫時滞在せしも面白

からざれば合衆國に入る可く入國の途に着く、當時合衆國にては入國者に對し嚴重なる検査を行ひたり、氏は體軀強壯ならざりし爲め不幸にも上陸する事能はず再び英領カナダに送還せられたり、英領カナダに戻りて漁業に従事せしも失敗に終る、或知己の周旋によりモンタナ州に來たり鐵道工夫となる、數月にして當所を去りワイオミング州ロックスプリングスに到り炭坑夫として働き居りし處西山元氏は様々親切を盡し呉れ同氏の進めにより、格州デラガに來る、再び經驗ある炭坑夫となり奥村三郎氏の部下に働き今日迄繼續す、篤實温厚、儉勤貯蓄なる氏は早晚成功する事疑ひなし自愛せられよ。

ヘステング 炭坑

同坑はコロラド州南部に位し、コロラドサウザン鐵道ラドロイ驛を去る約二哩の所に在り人口約二千炭坑はコロラドフューエル、アイアン會社の所有なり明治卅六年十月部屋野某矢野原由太郎を後見として坑夫の供給を請負ひたるに會社待遇よく坑内の設備整ひたるを以て就働者は多大の貯蓄を得たるを以て一時は盛大を極め翌三十七年七月には其員數百人を超ゆるに至りたるも部屋野某の處置其宜しきを得ず加ふるにデラガ炭坑請負者たる高塚吉藏との間に紛紜を生じ遂に退引するの已むを得ざるに至れり是に於て就働者は當時デラガ炭坑に就働せる御座本勇太郎を聘してボツスたらしめ漸く事なきを得たり、蓋し御座本氏はデラガに行くの前ヘスチングスに就働し、正直を以て同胞の信用を博したるが故也三十九年六月竹内關次氏契約者と



坑 炭 ス ゲ ン テ ス

して來り御座本氏は大根耕作の爲ラマーに轉住せり一年ならずして竹内氏はグリーンキャニオンに移り四十年八月御座本氏再び歸坑し舊位に復す四十年一年歸朝し令閨を伴ふて再航し三たびボツスとなりしも四十二年五月より全然組織を變更し共同合宿所制度となし世話人二人を定め會計其他一切の庶務を處理せしむ現任の世話人を阿野渡邊の二氏とす、會社は四十二年六月ニューメキシコ州ギャロップ炭坑に人夫請負を爲せる中西氏を招きたるに數人の同胞坑夫共に來れるを以て別一家を給與して是に居らしむ邦人に對する會社の待遇は良好にして親切なり昨年四十一年會社は特に同胞坑夫の爲めに圖の如き家屋を新築(七月起上十月落成)し十一月を以て移轉せしむ、寢室十二、食堂大廣間及び臺所あり又浴室の設備ありて稀れに見る好きキャンプなり而して本キャンプの特色として一の特筆すべきことあり即ち各自申合せ賭博を嚴禁したること是れなり、若し犯す者あれば容赦なく追放するを以て皆勤勉業を務むるを以て會社の信用日を追ふて増すばかりなり、言ふ勿れ炭坑キャンプは賭博を禁ずる能はずと我はボツス一人にては之を禁ずるを得ざるべく或は官憲の手のみにては

之を根絶する得ざるべし、されども真面目に勞働せんとする者が相互に戒めて之を禁せんと欲せば決して不可能にあらず、要は勞働者の決心如何にあるのみ、他の同胞宜しく鑑むべきなり。同胞坑夫の従事する仕事は普通の採掘の外に夜間坑内のモーターメン（電氣車運轉手）を始め各種の業務に使用せらるる十時間働き貳弗九十五仙を給すといふ。

中西政友

ヘステンゲス炭坑
郵函一四一



中西政友

氏は大坂市の人明治十七年を以て渡米し、先づ米國に於て事業を爲さんと欲せば語學に通ぜざる可らざるを悟り熱心英語を學ぶ同廿三年迎妻し共にコロラド、アイダホ、ユタの各地にレストラント或は竹細工業を營み大に利益を得たり、然れども氏は單に自己の懷を肥すを本領とせざるを以て常に思を同胞全體の利益たる事業に致すの久しかりき明治卅八年本アメリカン、フイーエル會社と交渉しニューメキシコ州ギヤロツプ炭坑に人夫を供給するの契約を締結せり、其當時同坑に就働せる同胞は僅々十有四人に過ぎざりしかば氏は自費を投じて北はシャトルに南は南加州に至りて坑夫を募集すると百有餘名親切に世話せるを以てボーイは親の如く敬慕し

會社より多大の信用を博し卅年よりは管にカンタラターたるのみならずウエーボス（石炭秤量人）の重任を托せらるるに至りぬ三十二年の交には就働するもの三百餘名の多きに達し二三名の代理人を置きて氏を補助せしめ以てボーイ及び會社に満足を與へ大に同胞の眞價を發揮せしめしは、一に氏が十年一日の如く盡したるの功に由らざればならず、一昨年バニック以來非常の打撃を蒙り會社は一般に減員するの已むを得ざるに至りしも氏は事業を繼續せり本年會社は當坑に轉任を命じたるを以て、残れる同胞に惜しき別れを告げ轉任せるは六月の事なり原來引續きアウトサイドボツスとウエーボツスを兼務す、忍耐なるにあらずんば焉んぞ能く此の如くなるを得んや、氏の令聞活潑にして男勝りの稱あり、其内助の功や没す可らざる也。

バーウインド（炭坑）

郵函百〇九

本坑亦コロラドアイアンフューエル會社に屬し人口五百と稱す、同胞坑夫が始めて本坑に就働せしは千九百四年（明治三十七年）四月岡島金稱が桑港より募集し來れる五十名にして今日に至るまで繼續就働するは生田富太郎及び伊保橋庄之助の二氏とす、時恰かも白人坑夫が同盟罷在して最も猖獗を極めたる時なれば桑港より應募の條件は四ヶ月間就働したるのには會社は旅費を支給すべしといふに在りき然れども應募者の多くは炭坑の經驗あるものなく其何たるを知らず、或は坑内の暗黒に恐れ、或は仕事の困難に僻易し、又坑内への往返には武装せる巡査及兵卒の護衛を受け夜間は山上に焚火をなして白人の襲來を警戒せしかば恐怖の念を抱くもの

を生ずるに至り何日とはなく逃げ失せて残り少数になりぬ、後三ヶ月にして同盟罷工の事已み後一ヶ月を経て岡島亦會社と關係を絶つに至りしかば、生田、伊保橋の兩氏止まり獨立してボツスを戴かず共同宿所の自治制となし、かば同胞坑夫の漸次集り來るもの多く三十八年一月には六十人を以て算ふるに至り旅順陥落の祝報に接しては盛に白人を饗應して人氣を博したり同年四月よりは日本人に限り一人に付ルーム一個（坑内の一採掘區域にして通常二人働くべきもの）を會社支配人の承諾を経たるを以て働高頓に増加しバニツク以來不景氣も他坑に比して好成绩なりしと云ふ會社は大に同胞坑夫を厚遇し且つ白人坑夫との交際は圓滑なり同胞坑夫は初め第二坑及第三坑の二坑に就働せしも現今は便宜上第三坑にのみ就働す、採掘の方法は所謂スカシマインにして坑夫は出坑の際火薬を裝置し點火係は夜間一齊に點火爆發せしめ翌朝硝煙の坑内に止るを防ぐ現今同胞就働者十九名なり。



向テ左ヨリ

泉 隈 文 吉
大 崎 太 郎
伊 保 橋 太 郎
生 田 富 太 郎

生田富太郎

鳥取縣日野郡黒坂村の人なり三十六年七月桑港に上陸し翌年三月までサンタフェ及びエスビ
ー鐵道に就働し四月岡島氏の募に應じて當坑に來り引續き就働す辛抱一方の人にして坑夫の好
模範なり。

伊保橋 庄之助

新潟縣北蒲原郡小船渡村の人なり明治三十二年八月二日布哇に上陸し同島蔗糖耕地に就働し
三十七年三月桑港に轉航し直ちに當坑に來り他に轉働することなく又他を顧みず會社は特に坑
内大工の助手となし日給二弗十仙を給す日本人にしてデウォークを働くは氏一人のみ也。

コロクデール炭坑

コロラド州南端の一都會なるトリニダッド市より約廿哩の處にあり人口二百五十と稱す、電
氣カーありて交通の便宜に供す。

本坑はカーボン、コール、コークス會社の所有に係り採掘せる石炭は悉く之を骸炭となす、
其規模の大なる州内稀に見る所なり其始めて同胞坑夫行森某外一人を試用せるは千九百〇六年

十二月にして其結果良好なりしかば、會社は冲廣増吉をして坑夫供給をなさしむるの約を結び茲に數多勞働者の就働を見るに至れり冲廣氏は最も其人撰に意を用ひ石井喜代藏氏を推して經營の任に當らしめ益好成績を得會社の信用を博し諸種の便宜を與ふるに至れり、殊にバニツク以來會社は坑夫の増員を禁ずると同時に他坑の如く毫も減員し又は一日も休坑したることなし而かも貨銀の支拂には常に新鑄の金貨を以てし坑夫はバニツクの何たるを知らざりき、之れ本會社の資本の充實なるに基くと雖も亦就働者を愛するの餘に出づるにあらずして何ぞ坑内の設備は最も完全にしてモーターは勿論ニヶ所に電話を据付け以て就業の便に供す、天井よく炭坑として危険の度割合に少く炭層の高さ七八呎に達し、只六吋乃至十吋のボーンあるのみなりと云ふ、キャンプの廣さは一哩四方にも亘るべし設計其宜しきを得會社事務所附層商店、ホテルは勿論坑夫に給與する家屋に至るまでセメントを以て造り美觀を添ふ區劃整然、街路亦清潔にして日本人キャンプは最も便利なる位置を占む就働者の最も多きは冬期にして之を一ヶ年に平均せば四十人なり現在員二十四名なり。

石井喜代藏

コロクデル
郵函三八

人を率ゐんとするものは己れ自ら立ちて嚮導せざる可らず、若し獨り安きに居りて他を動かさんとするものあらば失敗に歸すべきなり、石井氏は廣島縣高田郡新田村笹井の人、明治三十三年二月を以て布哇に渡航し三十六年十二月三十日ホノル、港を出帆して翌年一月七日桑港に轉じ直ちにワイオミング州ラミィ鐵道に就働し九月傳馬市に出て續いて外國氏の契約に係る。

ツキーマウンのデッチ仕事に轉じ終りてマデユスチック炭坑に入りたるは同年の冬なり、居る

こと一年大いに得る處あり、轉じてボーン炭坑に至り勤勉業を勵むもの二年四十年九月冲廣氏の認むる所となり撰ばれてボツスとなり當坑に入り今日に及ぶ、氏の事務を處する當に精勵なるのみならず、自ら炭坑に入りて業に就き衆に先ちて働入りては家計一切を總ぶるを以て氏と就働者との關係は恰も一家族の觀あり、蓋し好ボツスと謂ふべし。

モーレー炭坑

コロラド州最南端に在る新小炭坑地にしてコロラド、フエーエル、アイアン會社の經營する所なり人口僅かに百同胞坑夫供給契約者は福岡縣人岩谷文治氏なり。

同胞の初めて就働したるは本年一月廿六日にして岩谷氏三人の同胞と共に來りキャンプを開きたり現在人員十六人漸次五十人を以て定員とする豫定なり、炭坑五個、同胞の就働するものは多く第一、第二、第四、第五の四坑は八呎より十二呎第四は六呎より八



四六四
呎第五坑は十呎なり以上は皆横坑なれども獨り第三坑は堅坑なり孰れも天井なく瓦斯發生の虞
れなしと云へば蓋し將來有望の炭坑なるべし。

岩谷文治



岩谷文治

一見優さ男なり辯論に長じ、外觀勞働に堪えざるもの、如きも而かも能く働き届する能はざ
るの意氣を有するは岩谷文治氏なり氏は福岡縣企救郡東柴村大志井の人明治三十八年八月加州
桑港に上陸し直ちにユニオンバシイフイック鐵道に入りセクションに働き傍ら眼を米國に於け
る同胞事業界に注ぎて機會を待てり、三十九年
ネブラスカ州レキシントンに於てスタンダー
ド製糖會社と契約して砂糖大根を耕作せり之れ
氏が本田周輔を知るの始めなり翌四十年本田
氏がスウインク及ハレーに人夫供給の契約をな
すに及び抜かれて氏の助手となり同年製糖期に
入りてハレー製糖所の日本入部長を命ぜられ同
所に就働する同胞を監督せり四十一年ラハンタ
附近に於て大根耕作の傍ら別院徳太郎氏と共同にてレストラントを經營せしも悉く失敗に歸し
たり、茲に於て乎大に意を決し直ちにコークデールに奔り石井喜代藏氏の許に至りて坑夫とな

り石炭採掘の法を學ぶこと二月大に得る所ありき則ち忽ち出て、本坑に人夫供給の契約をな
し捲土重來の勢を蓄えて大に爲すあらんとするもの、如し、而かも同郷の人山田信太郎氏は氏
が志のある所を知り、恰かも共同者の如く氏を助けんとす亦九州男子なる哉。

トリニダッド

コロラド州の南端に於ける都會にして同州南部及びニューメキシコ北部炭坑の中心點たり、
されば其發達著しく人口今や一萬五千と稱せらるラスアニマス郡のカウンティシートにして市
は山麓に位すと雖も西方は遙かに四時雪を戴く高山に連り南方にはマヂユステック、フイツヤ
ー山（高サ一萬二百呎）は雲表に聳え大に風光を添ひ、アーカーサス河は市中を横流して市を
東西に別つ、南部に於ける「ロッキーマウンテンの入口」と稱せらる宜なる哉サンタフェ線コロラド
サウザン線及デンバー、ライオグラド線の三鐵道の要路に當り各停車場を有しコロラドワイ
オミング鐵道は本市を起點としてコロラド、ニューエルアイアン會社所有のセンガン、プリ
ノロ及トリイ等の各炭坑及骸炭製造所に通ず、電車は市中を往復するのみならずソプリス、ス
タークヴェイル、コークデールの各地に通ずカーチギン圖書館劇場は好建築物にして郵便局は現
今新築中なり、州立師範學校ありハイスクールあり小學校ありて教育の便大に備ふ實に將來多望
の都會なるが如し同胞の在留するもの多からず旅館商店、レストラントの外家庭勞働者を合せ
て常に二三十人を出でず然れども附近の炭坑より往來するもの常に絶えず現今の定住者を擧ぐ

れば左

商店	一、	二人
蕎麥屋	一、	一人
白人向料理店	一、	三人
旅館	一、	三人
家屋労働者		五人
ブライツエートハウス		三人
其他		七人
計二十四人		

冲 廣 增 吉

トリニゲト市東
第一街一四一六

圓轉滑脱而かも世俗の所謂世話好きなるものを冲廣増吉氏となす、氏は廣島縣安佐郡三入村字南原の人、明治二十六年七月を以て加奈陀グイクトリヤに上陸し常にはナ、エモン、ユニオン炭坑に働き鮭期節には晚香坡に出て、漁獵に従事するもの二年二十八六月轉じて米國に入り桑港に來り家内の労働に従事すること五ヶ年多少資本を貯蓄したり三十四年地をスタックトンにト、熱心トメト（蕃茄）及びセロリの耕作に従ひしも全然失敗に歸しぬ、然れども彼は一敗して地に塗る底の男子にあらず再び桑港に出て更に道を北にしてポートランドに至り家内の労働をなし旅装を整ひ方向を轉じてワイオミング州ロックスプリングに足を止め暫らくレストランドを開きて來るべき機会を待てり翌年二月在コロラド州デンヴァー市木山高塚組かデラ

ガメインと人夫供給を契約するに當り擇ばれて管理者となり二十五名の坑夫と共に同地に來り同胞の代理人となし居ること三年本市の將來有望たるべきを觀破して此に移り契約業に従事するの傍ら旅館業を營み日本食料を販賣し同胞労働者の便益を計ること一日の如し、而して四十年中セントルイス、ロッキーマウンテン鐵道會社がニューメキシコ州ラトンよりドージンに向けたる百六十哩間の鐵道を新設するに當り同胞労働者約五十人を供給して之がグレイデング（地均ウー）をなしたる最も大なる工事にして此期間中殊に労働者募集の爲めにビヤプロ市に旅館を開きたりき、其他同州ケラーを始め當市附近の炭坑に坑夫供給を契約し盛に同胞坑夫をして就働せしむ、同州南部の炭坑夫をして就働せしむ、同州南部の炭坑にして直接と間接とを問はず氏が多少の關係せざるものなしと云ふ蓋し過言にあらず四十二年四月夫人ちせ子を故國より迎ふ琴瑟相和し本年十月一女子を擧ぐ氏の如きはコロラド州南部の一人物たるを失はず。

大 和 商 會

トリニゲト市東
メイン街四〇六番

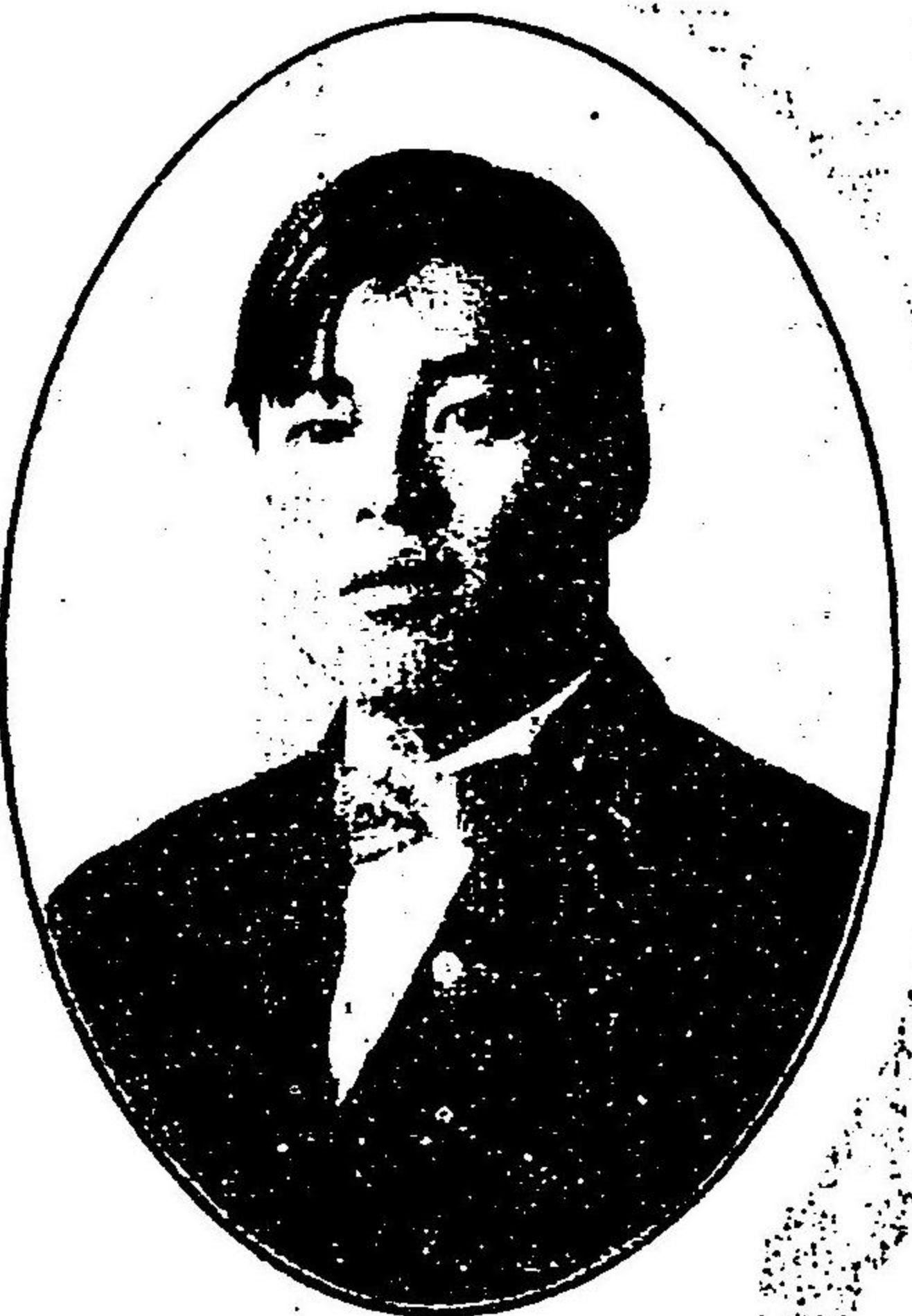
現今の大和商會は元富士商會と稱し千九百八年八月十五日村上靜男稻村三男兩氏が創立したるものなり、四十二年四月大和商會と改め稻村氏に代りて山梨縣人木村一氏入社せしも八月三日全然組織を變更し翌四日より村上靜男氏の獨立經營に係る日本食料品美術品及び雜貨類の卸少賣をなし食料品は重もにワオルソンバーグよりニューメキシコ北部一體の各炭坑又びスキ

ク、ラマー及ロッキンフォードの農業家に供給す、今や經濟界は順潮に入り本市は著大なる發達をなさんとす務めて倦まずんば本商會の繁榮や期して俟つべきなり。

村上 靜 男

大和商會支配人

男子志なければ則ち已む苟くも一度志を立てんか、須らく全力を擧げて猛進すべし、村上氏は静岡市新通り三丁目村上定吉氏の長男明治十五年四月十五日を以て生る、家輸出雜貨販賣を業とす、而かも氏が相當の教育を受け聊か宇内の大勢を窮知するに至りて渡米の志を立て大に爲す所あらんとす、則ち意を決して明治三十七年



村上 靜 男

父母の膝下を去りて上京し或は商店の手代となり或は横濱に來りて船員となり千辛萬苦遂に三十九年一月桑港に無事上陸し居ること二ヶ月、ユニオンバシフィック鐵道のギヤングニを投じツイオミング、ネブラスカの兩州を轉働すること五ヶ月次でコロラド州スターリングスにて砂糖大根園に就働せり、後沖廣氏の募集に應じニューヨークメキシコ州のセントルイス、ロッキーマウンテン鐵道會社の鐵道敷設工事に従ひ翌四十年三月工事を終り後沖廣氏の支配人となり同氏を助けると同時に在留同胞の事情を學ぶ四十二年五月辭職し八月稻村氏と謀り大和商會の前身となる富士商會を設立し爾來幾度遷すと雖も其中心は常に村上氏に在り蓋し氏の志や僅かに食料品の販賣を以て満足するに非らず其最後の目的は在留同胞の公益を計り日本貿易に貢献せんとするに在るが如しドリニダット市の將來を察し地を茲に卜したる所以のもの亦之に基かずんばあらず、好個の青年克己自省勉めて怠ることなく以て事に當らば成功汝が頭上に臨まん。

荒木 次三 郎

大和商會簿記方

氏は明治二十年六月三十日を以て京都市本町二丁目六十九番地に生る荒木宗兵衛の次男なり、同市商業學校を卒るや直ちに渡米の志を抱き四十年二月シヤトルに上陸し同地滞在すること一ヶ月直ちに長兄の勤務せるワイヲミング州シヤイアン市大陸供給商會に入り實務に従事する事二年餘大に得る處あり四十二年八月大和商會に入り簿記を擔當し村上氏を戮せて以て銳意業に従ふ性温順にして寡言未だ齡弱冠を過ぐるること二三なるに一個商店の簿記を按排す亦未來の一大商員なるに足るべし。

マンハツタンカフェ

トリニダッド市北コム
マーシャル街三〇二

ドリニダットの市最も繁華にして往來の多き所を北コムマーシャル街となす、即ち其昔白人

が土人を追撃し來れる道を其儘に灣曲せしめ以て街路となす所なり、而して其メーン街を去る一角マツハツタンカフェーなる一大レストランあり市中に於けるハイトン（高尚）なる大レストランの一要す、單に其名稱を見れば誰れか我が同胞の手になるを知らんや、之れ加藤春谷兩氏の經營にかゝるもの、加藤氏は専ら主厨となりて四人の料理番を督して自ら包厨を管し春谷氏は食堂に四人のウエーターを指揮して顧客に満足を與ふ、客席四十有八、時に消長ありと雖も一ヶ年の收入平均一萬五千弗乃至二萬弗に及ぶといふ而して此レストランが如何にして今日の隆盛を見るに至りしか其由來を知らんと欲せば左の二氏を知らざるべからず。

加藤 一夫

加藤一夫氏本性は加來氏福岡縣築上郡葛城村の人なり明治三十二年四月シヤトルに上陸し家内的勞働に従事して語學及び料理法を學ぶ新天地をもとめて大に技倆を揮はんと欲するの志あり則ちグレートノーザン、タコマアイースタン、ユニオンバツファイクの諸鐵道にブックマンとして就働し三十六年七月外園直一の契約に係るモフエツト鐵道に入り次てグリーリーの大根園のタツピングに轉じ終つてマジエステツク炭坑に入る恰かも白人坑夫同盟が同盟罷工をなし最も暴勢を逞ふしたる時なり翌三十七年一月外園氏の勸誘に依りドリニダットの將來有望なるを認め春谷、石橋の兩氏と共同者とし全月廿二日を以て北コムマーシャル街百十八番にビーブルス、レストランを開業す之れ邦人がトリニダッドに定住しレストランを營むの始めなりき

當時レストラン同盟なるものありき、非常に其開店に反對し外ボーイコツトをなし入りて食ふものは二弗の料りに處し内各種商品の糧道を絶ち或は家主をして強迫的に立退きなさせしめんとて非常の運動をす事三ヶ月に及びしも氏等の忍耐にして業務に熱心なる、家主及び白人顧客の認むる所となり却て一般の同情を博し遂に之を敗り凱歌を奏し白人レストラン同盟は茲に瓦解し其跡を絶つと共にレストランに革命を起すに至りぬ、快事ならずとせんや、して好評噴々顧客日に増し四十年九月同街二百〇二番ニートレストランを買収するの好況を呈せり之れ今日のマンハツタンカフェーなり四十一年八月家屋改築に加ふるに共同者の一人なる石橋氏及び箕を傳馬齒科大學に負ふに及びビーブルレストランを閉ぢ力を専らにし益々好評を博す若し夫れトリニダットに至りフレッド、カトと問はゞ内外人信用の厚さに一驚を喫すべし艱難汝を玉にす眞に千古の金言なり。

春 谷 健 治

氏は山口縣都濃郡須々萬村の人なり、明治三十一年九月廿八日幼にしてタコマに上陸しグラムマースクールの通學の傍ら家内勞働に服し苦學する事二年偶々暑中休暇に當り學資を得んと欲して華聖頓州ポイントロバートの鮭罐詰工場に就働して加藤氏に邂逅し意氣相投じ一見舊知己の如し時に明治三十六年七月なりき爾來加藤氏の行く所春谷氏あらざるなく恰も影の形に添ふが如し然れども若年にして勞働に堪えざるを以て常に通學修業に力を致さしめグラムマース

クルの科程を卒ふ、其英語に堪能ある白人ウエーター間に伍して毫も遜色あるなし、氏猶春秋に富む將來加藤氏の片腕となりて事業をなさしむるものは氏にあらざして誰ぞ。

コロラド州南部の炭坑は、北はウォルソンバーグより南ウットンに至る約六十哩の間に在り、即ち以上に掲げたるは即ち其の重なるものなり、而して其の沿革に至りては轉變窮りなく其の真相を得るに難し、今本州請負業者のバイオニアたりし岡島金彌氏と共同してコロラド、フューエル、アイアン會社に坑夫を供給せる安瀬清吉氏の談話を左に掲げて以て其の概要を知らん。

明治三十六年三月の末の方であつた、僕が華聖頓州のスポーケンで樋口新平といふ人のレストラントでミートカッターをやつて居つた時に岡島金彌君は伴新三郎氏の事務所を愈々辭職して獨立でコロラド州フォート、コリンズの大根園を受負ふ事になつた、が岡島君は金がない、充分に資本金を持つて居らぬ、ソコで話を持ち込んだ所が僕の雇主であつた樋口新平君であつた、樋口君は大分縣の人で聊か任侠の風のある方であつた、ドリーフ譯か伴君をは多少相反目して互に負けず劣らず事毎に反對して居つたので、イツか伴に負けぬ程の事業を企てたいとは樋口君の素望であつたらしい、ソレにスポーケンで大根の手労働者には纔かに一英加に付十貳弗しか出さいのに、フォートコリンズでは何しろ貳十弗に多少のトランスポートーションを會社が補助するのだから、ボーイに十四弗拂つても一英加が六弗の収益がある、實にグッドチャンス（好機會）である、ソレに岡島君の伴に對する反抗心などを加へて相談を持ち込んだ譯でも

あるまいが樋口君もヨロシイで快諾して現金參千五百弗を資本金として出資するといふ事になつて、日本へ送つて置いた金を態々取り寄せた、サテ其現金は誰れに持たしてやろうか、樋口君自身はレストラントを經營して居るから離れる譯にはいかぬといふので僕が其現金を委託されてフォートコリンズへ來て岡島君に手渡をしたソレカラ引續いて樋口君の代理人となつて岡島君と相携ひてやつたのである。

其の時岡島君が受負つた英加數は總計千英加ワシントン州の方から現金で流車賃を立替へて樋口君が送つてよこしたボーイが五十人其内には遠藤房太、ボツスをして居る川田、川上、松本、今セントルイスに居るといふ影山の諸君が居つた、併し漸く五十人では千英加といふ廣い大根園は既に數に於てやりきれぬものでないソウコウする内に岡島君が會社から受負つた賃金がボーイに判つて來る、ボーイは働かないで現金を借り放しにして出るといふ様な工合になり其他色々な事情で此受負事業は全然失敗に歸してしまつた、次に着手した契約した仕事は即ちコロラド州南部に於ける坑夫供給である。

日本人がコロラド州南部の炭坑に働いた歴史を僕の知る所を御話しをすれば、三十二三年頃より廣島縣人の高尾力太郎といふて白人間にジョージといはれた人が、ボツ／＼這入いつて來た日本人をコロラド、フューエル、アイアン會社所有の各炭坑に供給して居つたが、其數は残らず三四十人もあつたらうかと思ふが、兎に角氏が元祖である併し好結果を得ないので氏に代つて受負つたのが多年米國軍々艦へ水夫で乗り込んで居つた安武、朽木縣から養鶏業視察に渡米した池田、アラスカユーコンテリトリで砂金採取で成功して居る岩手縣人の山崎安次郎の

三人が、組合って供給して居ったが、時恰かもウエスターン、フエドレーション、オプ、マイ
 ナー（西部鑛夫同盟）が各炭坑會社に賃銀上のことから争って同盟罷工を宣告し兩々相下らず
 互に鎬を削って争ふて居ったので、會社も示威的運動旁々金錢を惜まずに運動費を支出し、あ
 らゆる便宜を與へて日本人坑夫を歓迎した、ソシテ坑夫には武装した巡査及び兵卒の護衛をつ
 けて仕事せしめ夜は山上に焚火をして見張番をせしめ、疑しいものはドン／＼放逐してしまつ
 た、實に激烈極るものであつた、此戰時的狀態の最も甚しかつたのは千九百五年（明治三十六
 年）十一月から翌年三月頃まで、あつて六月には媾和談判でも成立したものが平穩に局を結ん
 だ、ソレで岡島君は會社から通辨として百弗の月俸を受け、僕はウオルソン炭坑のボーゼンダ
 本陣として大に活動を試み、岡島君は加州まで態々出張してボーイを募集し井木、鬼源組三十
 人を筆頭に八十人餘を連れて戻り、北部からは四十人も連れ込んで、ウオルソン、ラオス、イン
 グルサイド、バーウインド及びメイトランドの各炭坑に供給した、其時の條件は會社が瀛車賃
 を前金で支拂ひ、一ヶ月以上働けば其瀛車賃は會社で支辨するし、コールは一噸多分一弗であ
 つたと思ふ。

其の他同胞の就働する炭坑の名稱、請負者及び現在員數を擧ぐれば左の如し

マゼステック	中山 鶴松	六人
プリメロ	高橋 千代吉	八人
ラウンドオーク	出 千 某	八人
グレイクリーキ	渡ノ子常藏	四人
ミドウエー	土屋 清之助	五人
メイトランド	不 詳	七人
ブライヤノ	藤 本 某	六人
メーシ	不 詳	六人
ロッキーマウンテン	全	不詳
サツフィールト	藤田 元次郎	十六人
ボーン	全	四人
トローラー	猪川 九市	六人

就中ラウンドオーク炭坑が高さ二呎乃至二呎半にして實に珍らしき低き炭層なるを以て、採掘
 炭一噸に付壹弗を支拂ふの外、他は低きも五六呎以上十二三呎に及び一噸五十仙なり、堀り方
 はペキスカシ及びオトシ堀り法による、而してグリーン、キャニオンの石炭が俗に花形と稱せ
 られ、臺所及びストロブ用として賞用さるゝの外は、大子バリと云ひコークスに製造し又は製
 造所の燃料に供して好評あり。

コロラド州西部地方

ロッキー山脈の西麓、ユタ州に接するガンニソン河及グランド河の流域は、氣候温和にして霜害稀れに降雪又鮮なく、土壤肥沃にして、灌漑頗る容易なるが故に農業の好發展地なるに拘はず、比較的閑却せられたる觀あるは洵に遺憾なりと謂はざる可らず、然れども果物類の栽培は遠くより行はれたるを以て、夙より有名なる果物産地として目せられ、殊に林檎及び桃類は遠く東部の市場へ出荷せられて、他州産のものに其聲價を争ふの盛況に達し、今や其栽培面積は益々擴大せられ、年々産出高を増加するに至れり、從て之に要する摘採者の需要は莫大なるものあり、されど邦人にして未だ之に應ずる者なかりしは場所の遠隔にして不便なりしが故に外ならず。

然るに本年夏期デンヴァー市の外園直一、立川直三郎、福島太郎の三氏合同して園主と契約を爲し、ハッチキスに八十名の同胞を果物摘採者として供給（日給貳弗五拾仙）したるに非常なる好成績を得たり、邦人が果物摘採者として優勝なるは加州に於て已に定評ある所なるが、今ハッチキスに於て發行するノース、フォーク、タイムス紙上に於て邦人を批評したる一節を見るに「日本人二名と白人三名と其技倆及び速度に於て匹敵す」と賞揚し、而して園主は悉く邦人の優良なるを欣び、來年度に於ても同胞の來園を希望し居るを以て見れば邦人の價値は充分に認められたるものと云ふ可し、果して然らば之に依りて同胞發展の緒を開かれたるものと云ふを得べし。



格州西部ハッチキスの林檎園

日本人は白人商店より物品を購置せず、土地に金錢を散ぜず、とは加州に於ける日本人排斥論者の常套語なれども、本年ハッチキスの某商店主が福島氏に語りし所を聞くに「日本人は能く買物を爲して土地に金錢を散ぜず、現に我店にては日本人のみに八百餘弗の賣上げを爲したり、若し夫れ日本人が全町に散じたる金額は蓋し大なるものあらん、隣町ベオニアにては現に果物摘採の爲め多數の希臘人居れど彼等が購ふものは僅かに肉及粉類にて其他の日用品は總べてデンヴァー市の同國人商店より求むるが故に同市居住者は彼等を嫌惡し次年度よりは日本人を迎ふる計劃あり」と園主は邦人を歓迎し、實業家の歡待如斯んば、同胞排斥の影だに認むる能はず、是れ豈我同胞の發展すべき機にあらずや、吾人勞働者は此信用を毀損せざるやう努むるのみならず尙ほ進んで吾人の眞價を知らしむるに務めざる可らず、之れ頓がてロッキー西麓の彼の龍大なる果物園が邦人の勢力範圍に歸する所以の捷徑なればなり。

紹介せん、茲に西部地方と稱するは主としてメサ、デルタ、モントロースの三郡に於けるグラ

ンド河ガンニソン河の流域を指すものとす。

メサ郡にはグラランド、ガンニソン式川横はり、西方へ傾斜する東亞部の平地をグラランド平原と稱せらる、グラランド、ジャンクシオン市は前二川の合する所、郡の中央に位し、メサ郡役所々在地に於ける西部地方に於ける第一の都會なりとす、人口約壹萬を有し、市街整然として商業般んに電車の設備あり、傳馬、鹽湖市間の中心點にしてデンブライオ、グラランド、コロラド、ミドランド線通じ、其他デルタ、モントローズ等へ通ずる支線あり、傳馬市へは三百廿三哩にて達す、海拔四千五百呎、同市附近及東部は悉く果樹園にして其重なるものは林檎、梨子、桃、葡萄、苺類にして、其三分の二は稚木にして未だ産出せざるに拘らず、千九百七年に出荷したる果物は千貳百貨車を算したりと云ふ、以て其一般を推知するに足る可し、同市の西北部には大根其他の耕作に従事する者あり、之れ又、爰數年間に長足の進歩を爲し、數年前に製糖會社設立せられ一昨年度に取扱ひたる甜菜は殆んど七萬五千噸に達したり、同市に於ける同胞は白人と共同にて洋食店を經營する者前田氏、ホテルのポーター、クック等五六人。

同市の東北部凡そ三十哩の平野の開拓せられたるものは殆んど三分の一強に過ぎざるも灌漑至便なるが爲め近時の發展實に著しきものの如し、同市より六哩の處に三十英町の甜菜を耕作する中村喜三郎氏あり、次の停車場フルータ町(同市より十二哩)附近には甜菜其他の耕作を爲す兒玉某、宮某あり、宮城島兄弟は甜菜七十五英町キャンタロープ十英町を折半法にて耕作し昨年は失敗を招きたるも本年は非常なる好結果にして約三千弗の純益ありしと云

ふ、猶ほ此他三人共同にて製糖會社所屬地七十五英町を折半法にて耕作する者あり。隣町五哩なるローマにはレアル、エステートに野村作平氏ボスとして十三人の同胞雇はる、何れも新開拓地の灌漑用堀作り及フェンス扱を爲す、本年山本某は甜菜の契約を爲せり。バリセード町は同市より東十二哩にして桃を第一の産物とす、昨年及一昨年は州内第一の出荷なり

デルタ郡は概して平地にしてノース、フォーク平原と稱せらる、此平原地方は最も成功したる果物栽培區域として目せらる、デルタ町は郡役所々在地に於けるグラランド、ジャンクシオンへは西北五十一哩、モントローズへは南廿一哩にて達すべく、ガンニソン河に沿ふてライオグラランド支線通ず、同町を中心として桃、葡萄、油挑を最も多く産出す、同地方の地價は六七年前までは僅かに五弗乃至十弗に過ぎざりしが今日にては優等地二百弗を超ゆ、人口亦五六年前には纔かに三百に足らざりしが、果樹園の盛大となれる結果は俄然膨脹して本年度は三千餘人と註せらるゝに至れり豈旺んならずや、海拔四千五百呎、本年三四月頃福岡縣人前田某は支那人と共同にてデルタ停車場前に洋食店及雜貨店を開き、岡本条次氏は十八哩の山中にデッチ堀り(日給二弗五十仙)を契約して二十人を供給し、福岡縣人辰野某七八人を率ひて契約するあり、其他現金借地或は折半法に依りて甜菜の耕作に従事するもの數名あるが如し、ハッチキス町はデルタより二十五哩東方に位し、海拔四千八百呎、人口一千二百人を有し、ノース、フォーク平原の中心點にして産出する果物は林檎を第一とし品質の善良を以て勝る、隣町ベオニヤ亦之に劣らざるものゝ如し。

モントローズ郡^{△△△△△}は中央よりアンコンバギー高原に依て東西兩部に遮断せられ、東部はアンコンバギー平原と稱せらる、之れ又優等なる果樹栽培地にして、郡役所々在地モントローズ町は實に此中心點に在り、海拔五千七百八十呎にして人口四千五百を有し、果物産出の他に家畜の出荷又般にして地方樞要の市街なりとす。

ネブラスカ州

廣袤七萬七千五百余方哩の地概ね平野多く、交通運輸の機關既に完成を告げんとし至る所地味豊肥にして農業、畜産、製造業の殷盛を見るは之れネブラスカ州より、本州は西コロラド、ワイオミングの兩州に境し南及東はキャンサス、アイオロの二州に接し北サウスダコタに隣し地勢南東部より漸次西に向ふに従つて高く平均海拔二千六百呎なりと云ふ、就中其最も高き所は實に海拔六千呎に達するスカチブラフ郡となす、而して西より東に本州を貫流するブラット河及其支流南北ブラット河の流域廣く灌漑の設備夙に整へて企業に便なるより逐年他州より移住する者頻繁を加へ北米合衆國中部以西に於ける尤も有望なるステートの一なりとす。

本州の産業として最も着目す可きは農業にしてコーン、ホキート、バレー、フルーツ、ビジテール、牧草等の諸種なりとす、而して馬、騾馬の名産に次ぐに牛、羊豚の産出多し、製造業としては種々の鐘詰業盛大にしてオマハ市其第一位を占めコーン乃至ホキートの製粉會社は殆んど到る處に設けられ製糖所亦各所に至りて何れも多大なる勞力を吸収しつゝ有り。

然り如斯進歩せる本州の我在留同胞一般の状態は今果して如何となす、之をコロラド州に比して同日の論に有らざるや吾人の贅を待たずして炳らかならむ、而して本州に於ける我同胞は概して農業に従事する者多く諸種の會社、工場等に就働する者之れに次ぎ商業或は其他の營業に携はる者至つて稀れなり、之れ即ち本州の農業地なる好證左にして又争はれぬ事實なり、今試みに本州在留我同胞の足跡を検せんに東部諸州より入り來れる者極めて尠なく西コロラド及

びワイロミングの兩州を経てユービー及びバーリントン線の兩線に沿ふて本州に移住せる者多く比々皆然りと云ふも敢て虚言ならざる可し、而して我等我同胞の多くは全くユービー線路契約者たる脇本西村兩氏及びバーリントン線路の請負者なる伴事務所に負ふ所實に多大なる可きを信じて疑はざると同時に此の有望なる本州の未だ多く我同胞に知られずして我在住者僅々一千に満たず微々として振はざるの觀あるを見て吾人は衷心より之を遺憾とするものなり。

然りと雖も本州西部各地に於ける我同胞の現在状態と目下ミヅリ河畔のオマハ市に於ける我労働者の盛況とに就ては之れ我同胞の多大なる注意を拂ふに値するもの無くんばならず、即ち以下項を別ちて記す可し。

スカッチブラフ

ネブラスカ川の西隅ワイロミング州に境する所スカッチブラフ郡なり、ノースプラット河郡中を貫流して灌漑の便最も開け、バーリントン線亦東西に走りて之れが交通機關たり、地味豊沃にして有らゆる作物に適する爲め移住者年を逐ふて多きを加へ今や到る所にニータウンの建設を見る、就中メニテア、スカッチブラフ、ミッチャロの諸市尤も殷賑を極む。

スカッチブラフは今を去る約九年前實に五十の人口に満たざる一寒村に過ぎざりしも今や人口約三千に達しポテト、及びビーシンの産地として著名のタウンと變じ加ふるに今又製糖所の新築に着手せるありて人氣頗る好く然かも我同胞に取りて關係淺からざる所なり、而してコロ

ラド州傳馬市より東北に二百二十五哩を距て、ワイロミング州シャイン市よりシンドニーを経て百六十三哩の地に位す。

抑も當地に始めて我同胞の足を入れしは明治三十七年山口縣人田仲新藏氏の來りて大根働きに従事せしを以て始めとす、次いで藤井實氏來るありしも尙其翌年迄は我同胞三四名を見るに過ぎざりき、而して三十九年に至り相川組の敏腕家谷越義一氏來りて當地に本據を据えミッチャロはメニテンに我労働者約二百名を分布してレーパー契約を開始しミッチャロに橋本氏を置き當地に熊坂、妻沼及び大槻の諸氏を置き又メニテアに某氏を置き何れも大々の活動を試みしが天災の然め不幸にして好結果を見る能はず四十年に及びて又スカッチブラフのシユガアビーツを顧みる者殆んど絶無の姿となりぬ。

然れ共當地の將來有望なるは論を俟たざる所にして我同胞中亦決して具眼者に乏しからず、昨年以來漸次相率えて再び當地に入り來り借地耕作にレーパー契約業に着手する者尠なからず今や我在留同胞約二百を超え確實なる他方面の事業家亦頗る多きを加へぬ、左に其主なる數氏を擧げん。

藤井實

スカッチブラフ郵便一五三

氏は備後國尾の道市の人なり、明治三十七年聖路易大博覽會見物の目的にて渡米しコロラド州傳馬市に來りて足を留む、三十八年ネブラスカ州に入りスカッチブラフに來りて當時尙當市

の建設中なりしを見、好機逸す可らずと直ちに建築業を始む。

氏は元來建築學を實習せし人にして父貞次郎氏は現に大藏省に職を奉じ技師として今や清國



實 井 藤

北京に赴任し正金銀行支店新築を監督されつゝ、
有りと云ふ、而して氏は實に濃厚謹直能く、職
に忠にして開業以來三年一日の如く精勤せられ
四十年八月に及びて一旦歸國し父を清國北京に
訪ふて滿韓各地を視察し大に得る所あり。

昨年再び渡米を企て四月沙港に上陸して加州
に出でフレズノ方面を遊歴してコロラド州に來
り轉じて當地に歸りしは本年四月なり、今や氏は當地にありて信用愈々厚く建築請負業者とし
て白人と競争し各地に其健腕を揮はれつゝ、傍ら後進を扶掖さる其勞や多とす可し乞ふ幸ひに自
重して益々向上發展せられん事を。

大隅爲三郎

スカッチチアラフ郵函八四

學有り識あり而して才あり行く所として可ならざるなく到る所其敏腕を認めらるゝは大隅氏
なり氏は廣島市北區竹屋町の人にして年齢當さに二十八歳將來有爲の人材なり、始め中學を卒
へて東都に遊學し米人教師に就きて語學を修む、氏の會話に堪能なる亦故有りと云ふ可し、而

して三十三年一月ダコマに上陸して僅かに半歳を出でざる中同地の雜話會社と交渉して人夫供
給の契約をなせしを活動の序幕として其翌年深堀某氏と提携しワシントン州アナコータに於て
十三個處のキャナリと交渉し殆んど五百の同胞を供給せるが如き其如何に大膽にして機を見る
に敏なるかを推するに足らん。

而して今年十月該事業一切を擧げて之を深堀氏に譲り氏は伴事務所の請負に係る鐵道ギャン
グの書記として居る事數月未だ素養の足らざるを自覺して一旦ポートランドに出で學校生活を
なせしは三十五年の交なりとなす、夫れよりアイダホ州に轉じクエザール市に於て家内の勞働に
従事し傍ら修學する事約壹ケ年、后奥殿市に出で、洋食店を開業せしは三十七年なり、而して
同洋食店を經營する事又一ケ年にして之を人に譲り氏はデンバーライオンズ鐵道に入りてセ
キシヨンホームマンたり且つギャング長たる事實に三ケ年克く努めたりと謂ふ可し、斯くて氏の
當地に來りしは昨年春にして在米九年始めて大根園に就働し同事業の全く我同胞に適當せるを
覺り本年意を決してレノボー契約業を開始し傍ら宏壯なる家屋を借り受け以て寄宿舎を設立し
我勞働者に至大なる便益を與へつゝあり、氏の如きは實に之れ活歴に富む好事業家にして勤め
て倦まずんば成功の榮冠を得る亦容易ならんのみ。

押野甚太郎

スカッチチアラフ郵函八三

不撓不屈の精神克く百難を排し細事に拘泥せずして、克く終局を統ぶるの明あり而して適才

を適處に用ひ清濁併せ呑むの襟度あるものに有らざれば之れ決して人に長たるの資格無きものと謂はざる可からず、吾人は此言を移して以て直ちに押野氏を議するの妥當ならざるを知ると雖も然かも氏が今述の徑路を見て又多少此感無き能はざるなり。

氏は宮城縣柴田郡金ヶ瀬村大字平の産にして過ぐる三十二年布哇に渡航し在留五個年、日露の大戦滿韓の野に闌とならんとする三十七年英領ビクトリア港に轉航し來る、而してリバーンゼットの漁業に行きしも面白からず歸りて教會に入り後晚香坡に移り又ノースリバーのキャナリに行きしも不運にして半途熱病に犯されて同所を罷め全快して後製材會社に就働す、而して沙港に出でしは全年冬十一月なり、夫れより半ヶ年學生生活を送り三十八年四月モンタナ州に來り大槻清藏の紹介にてアイダホ州に移り始めて大根耕作に従事し勤勉衆を超え厚く信用さる、爾後奥殿よりワイヲミング州酒園市に出て或は鐵道に又製糖所に或は農園に幾多の人の長としてヒールローズにスターリングに將たワイヲミングの各所に活動して信望益々多く昨年春再び酒園市に戻り春三月同志と共に當地に來り五百餘英加の大根耕作を請負ひてより今年に及び共同者四名と共に約壹千貳百英加のレイボー契約を營み目下盛んに奔走せられつゝあり。

氏は本年三十一歳温厚にして能く人の説を聞き又同情心に富みて能く人を扶く、而して昨年以來尤も白人間の信用恢復に盡力して今や従前に優る効果を收めつゝ有るもの之れ全く氏等の功勞と謂ふ可きなり。

渡邊寅太 全上

福島縣耶摩郡長瀬村字八幡の人にして去る三十八年六月桑港に上陸し直ちにチブラスカ州マックスウエルに行きて鐵道に働さ、三十九年ワイヲミング州酒園市に出て小笠原氏と共に同旅館を經營し傍ら家内の勞働に従事すると殆んど二個年、後鐵道に入りて同州ホイトランドに行き、又ユバに行き、且つダグラスに轉じ再びユバに戻りて居る事約九個月、而して昨年十月初旬當地に來りてピートのタツピングを働さ十二月に入りて三度ワイヲミングのユバに飯り今年再び當地に來りて押野氏と共にシーボー契約を營み且ツバーリングトレ線にギヤングを設けて其長となり月々精勤怠りなし、氏や尙ほ二十四年の青年にして既に此位置に有り進んで止まらずんば必ず大なる未來を現出し得ん乎。

大槻幸三郎 全上

氏は彼の東北養蠶の本場として有名なる宮城縣伊具郡角田町の在西根村の人なり性率直にして然かも利に敏く又敢て信義に悖らず克く人に盡くす徳あり、三十六年十一月桑港に上陸して其翌月初旬ワイヲミング州ロックスプリングの炭坑に來り力働義團に加盟す、三十七年アイダホ州シユガアセテの大地地に行きて働さ同年冬再びロックスプリングのメインに戻り酷寒を坑内に凌ぐの苦に堪えて彌々資金を得、翌年又アイダホ州に行きシユガアセテに於て三四の

同志と共に九十英加の大根歩合耕作を試み而して三十九年春熊坂代右工門氏紹介にてチブラスカ州に轉じ當地に居を卜して谷路氏の下に二百五十英加の大根耕作を請負ひ結果意の如くならず、進んでコロラド州に入りヒールローズに於て約百英加のレーボー契約をなし人夫と共に働きしは其翌年なり、されど不運なる氏は又面白からぬ終りを見しも更らに屈せず昨年再び當地に返りてピッツ耕作に従事せし以來大に同志を叫合して今年に及び押野氏と共に今や大々の活動をなしつつあり、氏は其齡當さに而立に達す周密なる志慮と果斷なる行動とに因りて益々奮勵するあらば其志を得る亦至難の事ならざるを信するなり。

早野重祐

全 上

一度信用を失墜して事業は勿論労働區域をも緊縮せられし地に於て更めて其信用を恢復し併せて事業の根底を据えんと欲せば勢ひ敏腕なる活動家と模範的労働者とを要するは勿論ならん、而して早野氏の如き有爲の材を抱いて甘んじて労働に従事しつつ有るは他日飛躍の基礎を固むると同時に範を労働界に胎さんとするの志に外ならんや。

氏は福島縣安達郡大山村字柗山の人なり初め布哇に渡航在留二ヶ年志を得ずして桑港に轉航し來りしは三十八年六月なり、而してチブラスカ州に入り來りて鐵道に働き屢々其労働者の苦を救せんとして脇本氏に迫り請負業者の非を鳴らして其弊を矯めしが如き以て氏の性行一般を推するに足らんか、而して三十九年四月十八日桑港大震災の當日始めて酒園市に出てピジチス

カレージに入學して具さに苦辛せしと云ふ、其翌年南部コロラド州なるスイシクに行き長谷川西三氏を補佐して約五百英加のレーボー契約をなし斡旋盡力至らざる無かりしも其甲斐なく遂ひ失敗に了りて又酒園市に戻る、而して昨年當地に來り押野、大槻其他の諸士と共に百方奔走して三十九年以來我同胞の不信用を全然恢復し以て今日の盛況を見るに至る、氏たる者尙此境遇に安んずる無く進んで其本領たる新天地開拓に盡瘁されん事を。

吉野甚五郎

全 上

氏は押野氏と其郷里を同ふし今全氏の許に有りて親しく補弼の任に當る、本年廿九歳頗る血性に富む、卅七年五月沙港に上陸して學僕となり居る事二年余、後アイダホ州に來りシユガアセラーに於て初めて大根園に就働せしは卅九年六月なり此冬レッキスパークに移りて又學生々活に入り次いでユタ州鹽湖市に轉じハイスクリルを卒業せしは去る四十年なり。

夫れより氏は卒業者着手の目的にて昨年酒園市に來り北部格州の各地を普ねく視察しイートンに足を留めて大根園に働き全冬又酒園市に歸り本年當地に來りて押野の下に在り實地に就きて事業經營の如何なるものなるかを研究さる、氏や語學に志して多年を費やし昨今漸やく事業の方面に籍を移せしもの未だ何等の云ふ可きもの無しと雖も氏の將來や必ず刮目して見るべきものあらむ。

容易に事業に投じ得る資本と其を經營する才腕とを兼備する者世に多くを見ず殊に在米十萬の同胞間に於て尤も尠なきを見る、資あるも才なく將た腕なく爲めに其目的實行に向つて踟蹰する者或は才あり腕あるも資に乏しくして有利の事業をも已むなく傍觀しつゝあるもの擧げて數ふ可からざる中に、自己の才能を知りて漫りに事業に着手せず其資本は凡て之を人に融通して資に乏しき信用ある事業家を活動せしむる雅量あるは之れ中村氏ならずや。

氏や温順朴直而して勤勉一個の勞働者にして且つ資本主なり、宮城縣柴田郡金ヶ瀬村字平の人にして本年卅二歳人と交る極めて着實に事を生ずや愈々綿密を加へ來る、明治卅五年布哇に渡航して在留三ヶ年各耕地に就働し卅八年二月桑港に轉航し來りて後チバタ州に入りウエヅスカに於て鐵道に従事せしも暫らくにして加州に歸りバカビルに行きて農園に就働す、夫れよりユタ州奥殿市に來り又鐵道に働さ全年十月アイダホ州に行きシユガアセテに於て初めてピロツ耕作に従事し全冬又々鐵道に働さ翌年五月再びアイダホ州に戻り四十年ユタ州スミス、フィルドに於て大根耕作を試みしも面白からず三度アイダホに歸る、而してワイオハング州酒園市に來りしは昨四十一年にして直ちにオブラスカ州に入り當地に來りて足を留めて以來能く衆を扶けて今日の盛況あらしむるを得たり中途ユビー線に轉ぜし事あるも本年五月再び當地に來りて押野氏始め他の諸氏に對し盡力する容易ならずと云ふ、氏の如きは眞に之れ模範的勞働者として吾人は推賞するに躊躇せざるものなり。

大津谷 萬次郎

スカッチアラフ 郵函二八五



大津谷萬次郎

熱誠以て事に當り千挫屈せず萬難恐れず益々勇を鼓して其志す處に邁進し來り而して今日や其成果を見るに至りし者これ吾人が此に敢て紹介せんとする大津谷萬次郎氏なり、氏は軀幹魁偉にして剛骨稜々一見直ちに平常人と異なるを知る、初め布哇に渡航せしも能く其の志を伸ぶる能はざる地なるを知り僅か一年ならずして桑港に轉航し來りしは卅六年十二月廿七日なり、上陸して早速ユビー線を取りワイオミング州を経てコロラド州に來り當時グリレイにありし外國氏を尋ねて同氏の請負に係るフォートコリンズの堀工事に行きて働さ其翌卅八年フオトランプトンに轉じて始めて大根園に働さ全事業の必ず有利なるを見て心に期する所あり四十年に及びて漸や八十英加の現金借地をなし同地に於て愈々農業に着手しヒーツを試作せしも結果面白からず、昨年四月當地に移りて先づ周圍の情況を知る可く田仲氏の下に働さ本年に至りて吉田氏と共に百三十英加のキャシュレントをなし大根百十英加及び牧草廿英加とを耕作して満足なる收穫を見るに至り前年の失敗を償ふて尙余りありと云ふ。

氏は廣島縣加茂郡竹原町の人にして當年尙廿八歳實に前途有望の好實業家なり。

吉田春一 全上

前記大津谷氏の共同者にして年齒漸やく廿四有極めて實着なる青年なり、山口縣熊毛上ノ關村の人にして卅六年布哇に渡航し次いで桑港に轉航せしは其翌年五月なりき、而してワシントン州沙港に移り暫らく家内の勞働に従事せる後上杉竹治郎氏と共同にてバズ及びステームランドリーを經營して具さに辛苦を嘗め漸やく世間學の初歩に入りしは卅八年なりき、而してインタアマウンチン地方の有望なるを耳にし伴氏請負のパーリングトン鐵道に入りしは其翌年にして全九月迄就働し後コロラド州ヒールローズに來りてピッツのタツピングに働き四十年同州アットウードに移り村木金次郎氏の下に在りて働き昨年小林義一氏の補助として夏季を送り全年九月當地に轉じて大根園に働き本年に及びて右大津谷氏と共同にて現事業を開始し其經營の衝に當り日夜孜孜として怠りなき氏の勤勉着實と大津谷氏の熱心とは聽て之れ今日の好成績を擧げ得し素因なるは世の認むる所なり、氏たる者今日の小成に安んぜず益々奮勵して未來の大發展に努力せられん事を至囑す。

田仲新藏

スカッチブラフ郵函二四四

氏は明治十五年の生にして山口縣熊毛野郡上の關村長嶋の人なり、卅二年布哇に渡航して在留四個年余、米國轉航熱の最中なりし卅六年九月桑港に上陸し直ちにユービー鐵道に入りてプラスカ州に來りサマランドに於て翌年三月迄就働し後ハーシーに移り幾干もなくして當地に移りしは今年七月なり。



田 中 新 藏

當時當地方全體に亘りてピッツの耕作未だ盛んならず僅々八百乃至九百英加に満たざる程にて重に露西亞人の手を藉りて試作されつゝ有りと云ふ、此時に際して氏は卒先して此等露西亞人と交渉を遂げ同胞兩三名と共に始めて大根園に就働せり之れ當地方に於ける我勞働者の第一先驅者にして且つ事業家の先輩たり、而して其翌卅八年に至るも未だ同胞の來るあらず僅々三四の同胞と共に大根園に働きつ大に悟る所あり卅九年に及び煉瓦製造所に入りて働き一意專念蓄財に志し苦辛を忍び艱難に耐え以て他日の發展を計畫せしも此の年谷越氏等の事業失敗に終りし爲め不幸にも氏の計畫は一時立消えとなるの非運に遭遇せし爲め四十年度はコロラド州に足を入れて勞働旁レメリノ及びスタアリングの方面を普ねく巡りて邦人事業家の經營振りを具さに視、十二月再び當地に飯りて内心私かに決する所あり、而して昨年一躍して七百英加の大根耕作を請負いて四十余名の同胞を使役するに至り本年に及びて更らに擴張せられ現に晝夜兼行營々として活動せらる。

氏や寡言にして果斷、且つ勤勉力行能く衆を率ゆるの器量あり而して又公共心に富み愁を別

ち、快を共にするの徳ある人なり、幸ひに自重加餐せられん事を。

橋本 藤吉

ミツチャロ
郵函一三二



橋本 藤吉

最良の地四十英加餘を現金借地しアニオン、
キヤベチ、ポテートを試作して好結果を見、更
らに來年度の擴張を企畫し着々其歩武を進めて
日夜事業に思を凝らしつゝ有る氏は之れミツチ
ヤロに於ける唯一の邦人事業家にして福島縣田
村郡高野村高桑の人なり、本年當さに卅一歳極
めて眞面目なる自助的事業家にして初め布哇に
渡りて居る事二個年有餘何等なす無き地なるを

厭ひて當米國に轉航せしは卅八年四月なり。

桑港上陸後加州フロリンに行きて莓摘採に従事し暫時にして同所を罷め全年夏七月アイダホ
州シユガアセターに行きて始めて大根地に就働せり、其翌卅九年四五の同志と共にピーツ一百
廿英加の耕作を請負ひて好果を得、冬コロラド州に來り傳馬市を経て四十年南部コロラドなる
スインクに行き夏季に於けるピーツの働きを終ると同時にワイヲミング州に轉じキーストンの
山中に在りて辛酸を嘗むる事約壹ヶ年漸やく多少の資金を得て再びコロラド州に出でしは昨年

八月なり、而して氏は在格州同胞の發展地として最も著名なる北部コロラドのブライントン、及
ラプトン、グリーレイの各地を仔細に踏査して大に得る所あり、後當地方の大に有望なるを聞
き直ちに當ミツチャロに來り農園に就働しつゝ詳しく土地人情を探ぐり、本年に及びて同縣人
佐藤春吉氏と共に前記の土地を借り農業に着手して漸やく多年希望の端緒を啓くを得、專念將
來發展の途を講じつゝ有り亦賞す可きかな。

佐藤 春吉

全 上

一昨四十年南部コロラド州スインクに於て殆んど滿三ヶ年間粒々苦辛の蓄積になる壹千有餘
金を一朝にして人の爲めに失ひ今年二月亦令弟清藏氏を病魔の爲めに鬼籍に入れし悲運に會し
て尙落膽せず且つ毫も悔むなく撓まず屈せず一難を経る毎に勇氣更らに加はりて奮闘又奮闘、
其志す所に向つて進み行く氏の如きは實に將來有爲の事業家なりと言ふを得可し、氏は福島縣
伊達郡湯ノ村の産にして年齢漸やく廿七、謹厚、率直、漫りに人に與せずと雖も一旦人を信ず
るあれば必ず全幅の熱誠を盡して之を扶くるの美性を備ふ。

卅五年布哇に航し轉じて桑港に上陸せしは卅七年二月なり、而して直ちにワイヲミング州に
入り酒園市に來りて鐵道に働き後ネブラスカ州に行きしキシントンに於て或は農家に就働し
或は大根耕作に従事する等刻苦奮勵克く努め以て幾多の經驗を積む事約二ヶ年、或る事情に因
りて同地を辭し四十年一月始めてコロラド州に來り南部スインクに行きて本田周助氏を輔けて

レボー契約業に従事し大に盡力する所ありしも全年秋期に及び或る一事の紛叫起りて突然本田氏の失踪となり爲めに一朝にして容易ならぬ損失を招きしも尙ほ期するが如く平然として事件の終結を見、直ちにチブラスカに轉ぜしは昨年春期なり、而して令弟清藏氏をニエトメキシコより呼寄せ共に當地の農園に就働し來り本年橋本氏と共に前記の事業に着手し一意之に熱中せられつゝ勤勉怠りなかりしが不幸なる氏は今年二月又其愛弟と幽明界を異にする事となりて一時は全く世の敢果なく頼み難きに失望せしが或は此の無限の悲嘆に因りて又深く悟る所やありけん、爾後増々事業に向つて精勵さるゝと云ふ好漢願はくは自愛せよ而して前途の展開に向つて努力せよ至囑。

右二氏の外尙ほ當地に福島縣人保坂佐四郡氏の大根分配耕作をなしつゝ有れ共吾人今其詳細なる材料なき爲め之を省略する事とせり

元來當地はノースプラット河に沿へる一帯の地峽にして海拔殆んど五千呎に達し極めて高燥なる地帯となす而して之れが交通機關としては唯バールリントン支線あるのみにてやゝ不便を感じるもの無きに有らずと雖もワイヲミング州境界點なるが故に本州に於ける他地方に比して我同胞の在住尤も多きを見るものならん乎。

ノースプラット

ノースプラットは南北プラットリバーの合してプラット河となるリンコン郡にありて其郡役所々在地なり、本州の大都會オマハ市の西二百九十一哩ワイヲミング州酒園市の東二百十六哩の所に當るユト、ビー線の一要點にして市街甚だ繁華ならずと雖も人口約五千を有し農業畜産尤も盛んに殊に製氷所の設けありて夙に其名を知らる。

初め當地に入り來れる、我同胞は皆臨本西村事務所の手を経ざるはなく概ね鐵道に就働せるもの而已にして、明治卅七年福岡縣人森光勘吉氏を始め税田、中垣、大神、中島氏等の一行十二名當地のセクションに足を留めしを以て漸次我同胞間に知らるゝ所となり同年九月に及びて又十餘名の邦人入り來り其翌年には既に卅名餘の多數となり卅九年度に至りて米山氏氷ギャングの労働口を取りしと同時に廣島縣人杉原氏亦ラウンドハウスの働さを貫ひし爲め我同胞の來つて之に就働する者俄かに其數を増し無慮九十餘名の多きに及びしと云ふ。

其後米山氏又ミシンショップの労働を引受くる事となりて以來邦人労働者の信用日を追ふて加はり其勢力亦優に他邦労働者を壓倒するに足るものあり爾後兩三年未滿にして當地在住の我同胞現に二百餘名の多きに達し其居住家屋既に十八軒を數ふるに至る、試みに今其家持連と稱する者を列擧すれば、

元岡夫婦、松永、山口、茶屋、吉村、石井、徳原、山田、鶴飼、成松、岸夫婦、三宅、福田夫婦、稻永、飯田、棚町夫婦、熊谷、

等の諸氏にして中鶴飼氏の洋食店あり、岸氏及び稻永氏等の寄宿舎あり且つ棚町氏の旗亭等有りて何れも多數の我労働者に満足なる慰藉を與へつゝあり、且つ又會社、銀行、商店等の信用實

に動かす可からざるもの有りて日白人間の關係の如き、殊に密接にして渾然融和し決して他地方に於て聞くが如き彼の忌はしき風説等は全く耳にする能はざるなり。

然りと雖も當地に於ける我在留同胞の多くは凡て勞働本位にして他方面を顧みる者の尠少なるは誠に遺憾なりと云ふ可く、何んぞ志有る者の率先して以て新方面の開拓に着手せざるや之れ實に吾人の切望に堪えざる所なり、當地に於ける有力家二三を左に紹介せん。

米山市太郎

ノースブラット
郵函二〇二



米山市太郎

明治卅七年秋當地に來りてより或はセキシヨ
ンに長となり或は旅館のクックとなり或は氷ギ
ヤングの人夫供給者となりて五ヶ年一日の如く
幹旋盡力能く、我同胞の紹介となり模範勞働者
となり今將た事業に着手する等百方奔走到らざ
るなきはこれ米山氏なり。

氏は明治八年其郷里伯耆國西伯郡成實村字美
吉に生る、幼より群童を制して必ず人後に立た
ざりし剛腹なる氏は長ずるに及びて増々其特性を發揮し來り遂に布哇に渡航し轉じて桑港に上
陸せしは去る卅七年七月なり、夫れより脇本、西村兩氏の請負にかゝるユービー鐵道に入り

ネブラスカ州に來り當地に足を留めて以て今日に至る、氏の克く辛に耐え苦に忍びて勤續抜群
なる其効果は今や當地在留の吾同胞間にも又白人側にも普ねく賞賛せられて製氷會社の信用益
々厚く約百名の我同胞を左右しつゝ有るは皆人の知る所にして一昨四十年秋頃よりドルソン
氏の土地貳拾餘英加を借り受けコーン及びポテートを試作せる傍養豚業に腐心しつゝ有る等を
以て氏の如何に旺盛なる精力を有するかを窺ふに足る可きか、氏たる者願はくば世路の艱難に
屈するなく自他の爲め今後益々其奮闘を繼續せられん事を。

稻永宇吉

ノースブラット
郵函二〇二

ノースブラットに於ける最年長者たるを以て又一切の世話役として能く監督の衝に當り指導
の任を盡くし調停の勞を辭せざるを以て多大の信用を受け且つ尊敬せられつゝ有るは即ち稻永
氏なり、由來ノースブラットの地たるや勞働者多くして事業家尠なく我在留同胞中亦語る可く
聞く可く意を注ぐに足る可き材料に乏しと雖も然かも幾多の粗暴なる可き吾勞働者を督して平
穩無事多年一日の如く送り來つて白人間の信用を鞏固ならしめたる氏の如き有るを以て吾人私
かに慰むる所無くんばあらず。

氏は福岡縣粕屋郡志免村南里の人にして彼の日清戦争前一年既に布哇島に渡りて在留十年或
はハカラウに又ブナに或はワイナカのカイビキに又椰子島に於て時に耕地に就働し又漁業に従
事し或は菜園業を經營する等具さに世路の辛酸を嘗め盡くして後初めて渡米せしは卅七年夏八

月、桑港に上陸し直ぐにソノマに行きてハツプス摘採に働さし以來ユータ、ワイヲミング、チ
ブラスカの各州を跋渉して諸方面の勞働に従事し卅八年春に到りて當チブラスカ州ハーシーに
於てシユガアピッツを働さ始めて其利得の大なるを知り在布哇同胞の現状を顧み同情に富む氏
は遂に之を默視する能はず同年冬態々布哇に渡りて同胞廿餘名を引連れ來り再び桑港に上陸せ
しは其翌年三月なり、而して早速當地に來り足を留めて既に四個年以て今日に及び氏の聲價の
高きもの亦故ありと謂ふ可きなり。

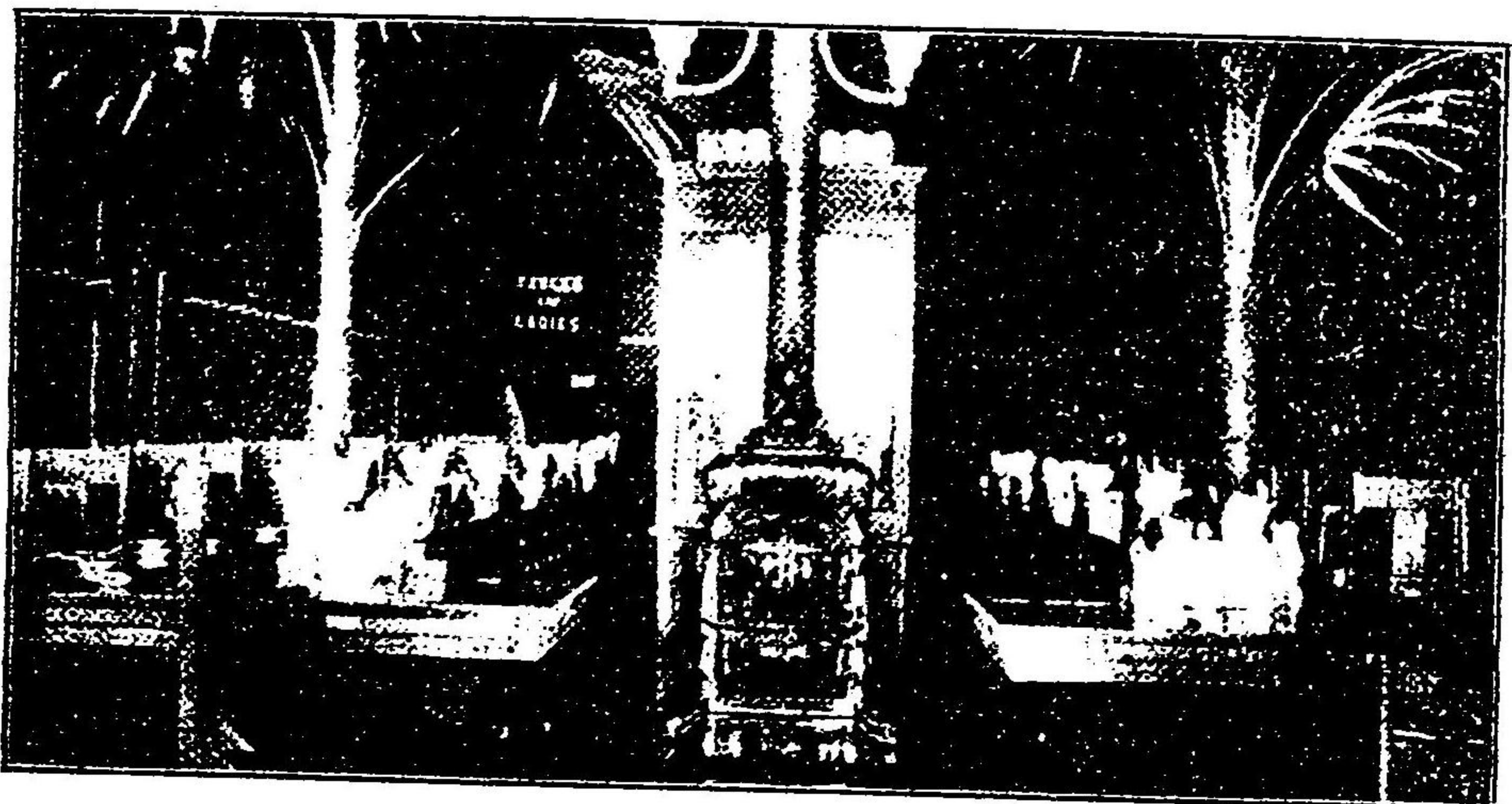
今や氏の後繼者として米山氏あり一切の肝煎役を同氏に譲りて停車場前の公園の手入れを擔
當して靜かに其務に服されつゝ有り、氏よ乞ふ幸ひに老後の計を誤る勿れ。

鵜飼理一

ノースプラット
パリス珈琲店

ノースプラット市ユニオン停車場近きフロント街に晝夜の別なく客足繁き大洋食店あり、電
燈煌たる看板の下、扉を排して中に入れば左側にカンタア有り其中に立ちて朝夕客の送迎に違
なく然かも温容以て不絶人に接しつゝ有るは之れ即ち我青年奮闘家鵜飼氏にして同市に於ける
唯一の邦人洋食店經營者なり。

氏は廣島縣豊田郡沼田東村未廣の人にして本年漸やく廿七歳、冷靜にして明晰なる頭腦と着
實にして勤勉なる其性行とは克く今日の成功を贏ち得たりと云ふとを得可し、氏は去る卅二年
布哇に渡航して約四ヶ年各地に就働し少なからぬ貯蓄ありしも適意の事業に着手する餘地なき



鵜飼 珈琲 店

を見て取り意を決して桑港に轉航し來りしは卅六年一月
なり夫れより早速ワイヲミング州に入りピツフォードに
於て鐵道に従事する事六ヶ月の後當地に來りて足を停め
ユニオン旅館にクツクとして精勵一日の怠りなく五年に
近き歳月を送りて昨年に及び始めて中島文之助氏と共同
にて現今の洋食店を買受け漸やく其宿志たりし事業の緒
に就くを得たり而して本年五月中島氏共同を辭して加州
に出でし以來獨力經營する事となり更らに二千餘弗を放
資して大に擴張する所あり、我同胞間の評價は勿論白人
側の人気最も良く日に盛大に赴きつゝ有るは之れ吾人の
親しく知る所なり、氏たる者願はくは現在に安んぜず更
らに進んで我同胞の爲め希望ある新天地を開拓せられん
事を。

岸 常三郎

ノースプラット西
フロント街七二〇

氏は廣島縣比婆郡帝釋村の人なり、卅九年桑港に上陸して直ちに加州も見ずネバタ、ユタの
二州を超えワイヲミングを経てネブラスカに入り早速當地に來り居を定めて以來約四個年或は

鐵道に又アイスキヤングに將たミシンショップに勤續して他に意を移さず甘んじて身を勞働に委ね幾多勞働者の模範となりて實力を養ひ以て他日の發展に志しつゝ有るが如き亦異とするに足らずとせんや、概して勞働者と云へば獨り我移民に限らず在米各國の勞働者一般を通じて一所不住各地に轉輾流浪して十年の歲月夢と過ぎ始めて目覺むるも既に及ばず日暮れて途餘りに遠きを啣つの弊あるを見るに反して氏は渡米最初より其覺悟を持し居を定めて一所に勤續する傍ら我勞働者の便宜を圖りて寄宿舎を設け以て其方向に迷ひ勝ちなる放浪生活の通弊に慣れざらしめんと努むるが如き既に一見地を有する者と言はざる可らず、之れ然し氏が畢竟妻子を養ふの已むなきに出でしものなりと云はゞ謂へ無味乾燥なる異郷の地に在りて且暮樂しき家庭に起臥して至大なる慰藉を得るは之れ凡て妻子の賜ものなりと云はざる可けんや、是に於てか吾人は在米幾萬の我同胞に向つて妻帯の必要なるを説くの急務なるを適切に感ずると同時に氏の如き眞面目なる人物を借り來つて之を事實に於て特に我勞働者諸君に範とせられん事を主張するものなり。

三宅利八

ノースブラット
郵函六九一

ノースブラットに於ける我同胞發展の生命は即ち勞働に有り、若し當市にして幾種の勞働無かりせば我二百の同胞は抑も何に依つて發展せんとかする、否寧ろ在留する餘地だに存せざるは明々白々の事情ならん、然らば即ち我同胞たる者一意此に注目して幾多の外國勞働者に先ん

じ一步を進めて以て會社或は事業家の充分信を措くに足る可き模範的最良勞働者として遇せらる可く勉めざる可らざるは必然の理なりとす可し、此點よりして吾人は當地に三宅利八氏在るを悦ぶものなり。

氏は廣島縣安佐郡狩小川村狩留家の人にして當年廿有八歳頗る血性に富む、卅六年八月桑港に上陸して間も無くユー、ビー線の工夫となりワイロミング州ラ、ミーに來りて居る事約壹年有らゆる辛苦を嘗めて鐵道に關する智識を略ぼ養ひて以來卅七、八の兩年はワイロミング、チラスカの二州に跨りて鐵道工事に就働し、卅九年以降はギャング長としてコロラド、ワイロミングの兩州到る所の工事に其技倆を磨かる、而して本年二月に及びギャングを罷め始めて當地に來りセキシオン、ホームンとして拮据電勉能く部下を率へ以て範を我勞働者に示すに至る實に氏の如きは我一般勞働界の勇將として推賞するに足る可き人と云はざる可らず、之れ吾人の敢て茲に紹介の勞を辭せざる所以なり。

レキシングトン

オマハ市より西百三十哩餘、ノースブラットより東六十哩の地をレキシングトン市となす、同市は人口約四千を有しダーソン郡役所々在地たり、官衙學校會社商店等の諸設備整へ街衢亦清潔一見活氣有る市邑にしてコーン、ポテト、及びビーツの産地として知らる、洋々たるブラット河郡中を東に流れて灌漑の便尤も好く交通機關としてユービー鐵道の縦貫する有り、純

然たるクリスチャンタウンなるが爲め頗る平穩にして人情厚く、借地料亦廉にして一英加に對する尤高額六弗を出でず、加ふるに夏季雨量多きを以て諸種の作物を濕し特に牧草の如きは殆んどエレグートの必要を認めずと云ふ。

而して當地に始めて我同胞を見しは卅七年の交にして福島縣人本田、熊坂等の一行相率へて來りレーボアー契約業を開始せしを以て嚆矢となす、其翌年宮城縣人相川組の一行來り當地を本據として又レーボアー契約に將た大根耕作に大々の活動を試み一時は當地方在留の我同胞約二百を超えし盛況を呈し邦人洋食店有り、又洗濯業者有りて隆々たる勢力容易に輕んず可らざるもの有りしと雖も不幸にして中途アメリカン製糖會社の衰微と共に我同胞の事業亦一頓挫を來たし爲めに已む無く他に移動する者頻々として多きを加へ今日に至るも尙ほ未だ有力なる我事業家の一人として當地を顧みる者なきは誠に遺憾に堪へざる所なり。

然りと雖も爾後全く我同胞の影を絶らしにあらざる其間僅かに一縷の希望を繋いで滿身の勇を鼓し堅く殘壘を守る者今や着々其素志を貫き光輝有る成功の榮冠を頂かんとしつゝ有る奮闘家の現存するあれば吾人は此等の人に依りて當地に於ける我同胞の復活を見んは決して難事に有らざるを信ぜずんばならず、然り而して其奮闘家とは果して誰ぞ。

神田 爲吉

R. F. D. レキ
シンケト

順風に掉せば必ず達し逆風に向ひば必ず覆るとは以て遽かに信ず能はざるの理なるは童蒙と

雖も尙能く知る所なり、然かも世には往々にして他人の成業を目するに此理を以てするものあり、何んぞ知らん人の見て以て順風に帆を揚げしとせしもの尤も苦心慘憺たる逆境當時たりしやも未だ遽かに知る可からざるなり、況んや順境に處し乍ら尙其希望を達し得ざる軟骨者流の多き今日彼の滔々として狂瀾怒濤を捲き來る逆風も意に介せず初一念を貫徹せんとして終始勇戰奮闘の結果漸やく目的の彼岸に達し得し者に對してをや、斯かる理を以て漫りに他人を上下するが如きは餘りに同情なく又常識を逸せるの言論ならずや。

而して今日神田氏の事業を見て過去の如何を云々する者ありと雖も氏が此事業を經營するに至れる從來の徑路を仔細に檢せば蓋し思半ばに過ぐるものあらん、氏は廣島縣廣島市左官町の人にして明治卅三年六月十三日タコマ港に上陸しポートランドを経てアイダホ州に入りシリシオンに於て暫時セキシオン及ギャングに働き後奧殿市に出て、又鐵道に就働する事となりクロイデンに行きしは卅五年始めなり、夫れより九個月同所に働き更らにワッサに移りて十九個月間具さに辛苦を嘗め又クロイデンに戻りて暫らく働き、卅七年に及びて遠くワイロミング州酒園市に來りオガラ、のセキシオンに有りしも事業着手の念切りにて其當時在ノースプラットなる進藤氏を尋ねて初めて大根地に働さしは全年五月なり、而して當地に來り白人農家に於てピットのタツピングを試み冬季はガアンパークに在りて又鐵道に従事し、卅八年三月再び當地に來りイーヴェル氏の土地六十英加を借り受けシュガア、ピーツの耕作に着手し愈々素志の端緒に就きて以來五ヶ年一切の艱難を斥け有らゆる厄運を排して刻苦經營以て今日に及び百八十五英加の現金借地をなし十頭の耕馬、百頭の養豚、八十英加のコーン五十英加のポテト四十

英加の牧草十英加の野菜とを令弟徳一氏と共に飼養し耕作し且暮倦むなく自から其勞に服しつゝあり、實に氏の如きは之れ不斷の勤勉と力行との賜として今日の成功を得し人、而かも年齒漸く而立に達したるのみなれば氏が眞個の活動は蓋し將來に於てなるや論なきなり。

中村 辰藏

R.F.D. 二番レ
キシングトン

氏は熊本縣上益城郡大島村上島の人にして年當さに卅歳温諄恭謙能く勤め能く働き而して今日の事業を經營するに至りしも實に故有るなり、明治卅六年布哇に渡航し在留二年四ヶ月何等の成果無くして米本土に轉航を思ひ立ち桑港に上陸せしは卅八年九月廿八日なり、而して直ちにチブラスカ州ポータアに來りてセキシヨンに働く事暫時にして渡邊氏のギャングに移り親しくキャンサス方面各地の情況を見て豁然悟る所あり卅九年三月オマハ市に戻りて掩留約一ヶ月更らにサイモンに來りて三名共同にて卅英加の大根耕作を始め茲に全く農業の利得多きを知りし氏は同志と共に之れが擴張の計畫を立て各地を踏査して着手せんと欲せしも適當の土地なく再び鐵道工夫の境涯に戻りて徐ろに時機の到來を待ちぬ、而して四十年五月に至り滿々たる氏が胸裡の希望は又氏を驅りてユルムクリキに於て廿英加の大根耕作を試みしめぬ。

斯くて愈々氏が目的たる事業の緒に就くを得しも同地の農業に不適當なるを觀破して其翌即ち、昨年春三月當地に移り河島藤九郎、立花大運、古野清の三氏と共に養豚業を主として傍ら農業に着手して以來朝は星を頂いて野に出て夕べは月を踏んで家路に急ぐの卒酸に耐え精勵怠

るなく以て漸やく基礎を築くに至りて立花、古野の兩氏或る事情の下に共同を辭する事となり、本年更めて吉武彌太郎氏加盟し約八十頭の養豚を有し傍ら八十英加の現金借地をなしコーン及びポテト各二十五英加牧草拾英加菜類拾貳英加餘を耕作して何れも孜孜暱勉事業に熱中せられつゝ有れば他日の發展亦期して待つ可き而已。

グラントアイランド

ユービー鐵道及びバリーングトン線の兩停車場を有し、製糖所あり、商業學校あり、郡役所あり、裁判所有り銀行、會社、商店等軒を並べ人口約壹萬、中其八分は獨逸人にして一大勢力を占めつゝ有るはグラントアイランド市なり、同市はホル郡第一の市邑にしてオマハ市より西百五十三哩、レキシングトンより東八十一哩の(主ニユービー線に依る)所に在りて農業畜産を以て夙に名あるの地なり。

當地に始めて日本人を見しは明治卅九年にしてアイダホ州よりレキシングトンに入り來れる宮城縣人相川氏當地に手を伸ばして農園レーポアー契約業を營みしより漸次我同胞の足を留めて或は農園に又鐵道に或は會社に工場に就働せし者多く一時は非常の盛況を見しも四十二、三の兩年度に亘りてアメリカン製糖會社の衰微と共に農園耕作請負業者の相踵いて失敗せしより我勞働者の需要頓に減退し今日に及ぶも尙ほ寥々として曉星を數ふるより尠なき觀あり。

而して現に當地在留の我同胞はセキシヨン及製糖所に就働する者の外進藤氏の洋食店に在る

者を併せて僅々四十名に足らざるも亦如何共する能はざるなり、然りと雖も當地に於ける我同胞の活動如何に依りては或は此類勢を挽回する事の敢て難事に有らざる可く吾人は切に斯かる希望を有する奮闘家の當地に來りて其敏腕を揮はれん事を望むと共に當市在留邦人中唯一の成功家たる進藤氏の如き有爲の人物の尙一層奮勵せられて我同胞發展策に就き更に努力せられんとを期待するや切なるものあり。

進藤 二郎

グランドアイランド、パリス珈琲店主

宛然貴公子の如き風姿自から人の顧眄を招ぐと雖も端嚴なる態度決して人を慣れしめず然かも能く二十の同胞と五名の白人とを使役して尙ほ慈父の如く渴仰せらるゝの徳自から備はるが如く當年卅歳の青年にして嶄然白人同業者を凌駕する敏腕を有し縦横の才既に巨額の資金を蓄積して以て徐ろに機の熟するを待ち一飛躍を試みんと雄志を抱き靜かに世の變遷を視つゝ有るは是れグランドアイランドに於ける邦人洋食店主進藤二郎ならずや。

氏は廣島縣安藝郡本庄村苗代の人にて明治卅三年ワシントン州タコマ港に上陸す、而して早速モンタナ州に入りリビングストンに於て鐵道に就働し後ワイオミング州エビングストンに轉じ一意貯蓄に志して資の足るを待ち直ちにグランド洋食店を開業せしも未だ經驗なき爲結果面白からず經營僅か一年にして同所を罷め酒園市に出て白人旅館のクックとなりて壹年三個月苦心慘憺漸やく斯道の研究を積み、更らに孤影飄然としてチブラスカ州に入りノースブラットに

來りてカベンタ、キヤムプのクックとなりて經驗を重ねると又壹年、獨立の希望燃ゆるが如きも薄資にて事業經營の危険を知悉する氏は茲に其方面を變へて農園レーゴア契約者となりレキシントン及ノースブラット地方の大根耕作を請負ひ一時其辣腕を揮はは卅七、八の兩年なりとす、而して卅九年に至り中島文之助氏の補助を得レキシントンに於て新らたに洋食店を開業し漸やく目的の緒に就きて以來二個年日夜の別無く拮据黽勉、苦心經營の効空しからず昨年一月に及びて中島氏はノースブラットに氏は當地に分離して獨立營業に着手する事となり約四千弗を投資してパリス珈琲店を開始して以後信用は日を追ふて加はり繁榮月と共に盛大に趣き以て今日に及び二十の同胞と五名の白人學生とを使役して尙ほ顧客の爲め忙殺せられつゝ有るは一日の收入零碎の金錢を扱ふに不拘如何に客足尠なき時にも優に百二十弗を下らずと云へば以て其一班を知るに足る可し。

實に氏の如きは徹頭徹尾其初一念を枉げず志す所に向つて邁進し來りし者全く己れを知るの明ある者にして始て此成果を收め得し者と云はざる可らず、然りと雖も氏が現今の事業は決して其本領に有らざる可く大なる目的は又他に存するならんも果して何れの方面に向つて飛躍を試みんとするか吾人今暫らく筆を擱いて氏が他日の發展を刮目して待たん哉。

オクニ

オマハ市より西約九十哩の地點に於て洋々たるブラット河の北岸近く瀟洒たる一市街を見

ん、之れプラット郡役所々在地なるコロムブス市なり、而して同地を發着點とせるユービー支線に依り更に九哩西北に走れば即ちオクニー村にして當地亦北ノーフォークに行き西フライトンに行く分岐點たり。

目下當地方に於ける重なる物産はコーン、麥類及び牧草にして、養豚業亦旺んるを見る、然りと雖も之れ多は農家の副業にして兩三年前にはシユガアビーツの耕作實に盛大を極めたりしがグラントアイランドに在る亞米利加製糖會社の衰運と共に當地のビーツを他に比して餘りに廉價に購買する事となりて以來甜菜栽培熱俄かに冷却し今日に及びては殆んど其耕作者皆無の有様となりし爲め卅九年以來萬難を排して當地の農園に入り來れる我同胞も全く悲境に陥るの已むなきに至れりと云ふ、而して最初當地に我労働者を引率し來りしは臨本西村事務所と關係淺からざる當時コロラド州イートンの我農業者なる黒木庄助及び目下其所在不明なる中馬某の兩氏なりしも複雑なる事情ありし爲めレノボア契約の結果面白からず遂に幾組の我労働者を殘せし儘當地を引上げしより邦人事業家の再び來りて活動する者なき姿となれり。

然れ共居残りたる我労働者中亦決して一隻眼を備へし者無きにあらず、即ち飢寒を忍び悲運に耐へ以て凡ての困苦を排して百方奔走漸やく一方の活路を拓きて農業に着手せる者兩三名、約四ヶ年有らゆる奮闘を繼續して今や純然たる植民と化し動かす可らざる根柢を有するも我同胞社會は多く之れを知らず吾人今秋始めて當地を訪ひ如上の趣味ある歴史を親しく耳にして一種痛快の感慨殊に深きものあり、今左に其諸氏を紹介せん。

平田直吉

オクニー郵函四五

氏は本年廿九歳春尙ほ淺く東風未だ蓄を破らず芬芳空しく雪裡に埋るの慨あり、明治三十五年布哇に渡航して居る事三年有半志を遂ぐる途なく意を決して轉航し來り桑港に上陸せしは卅



平田直吉

八年九月なり、夫れよりユービー鐵道に就働する事約半歳にして中馬氏の勧誘に依り其翌年五月に至り當地に來りて始めて大根耕作に従事せしも不運にして暴戾なる白人の農園に働さし爲め氏等一行の勞銀は其半額をも手にする能はず遂に黒白を法庭に争ふて首尾能く勝訴に歸せし

と雖も季は既に冬に入りボツス中馬氏多勢の労働者を連れて當地を去れる後なりしかば已むを得ず氏等一行のみ當地に足を留めて東西奔走し漸やく一白人の同情を得、居を定めて事業の計畫を爲す。

斯くて四十年に至り氏は他の四氏と共に百六十英加を現金借地して主としてシユガアビーツの耕作に従事せらる、而して昨年以來各自獨立の方針を取りて分離する事となり氏は更めてマダーク氏の土地六十英加を借りて専ら養豚業に腐心せしも不運にして豚兒の總てを流行病に斃して一大失敗を招きしも意とせず、本年又右白人より二十英加を追加借地してコーン卅英加麥類卅七英加及び六英加のピーツと外牧草とを獨力耕作し日夜孜孜として奮勵せられつゝ有り、

氏は福岡縣八女郡八幡村字平の人にして幼より師に就き大工職を習得せられ具さに世情の如何に精通す、而して今日尙ほ農業の餘暇副業として白人の需に應じ諸種の建築に従事しつゝ、有り好漢幸ひに風雪の難を凌ぎて以て花咲く春を期待せられん事を。

後藤善太郎

全上



後藤善太郎

福岡縣八女郡北山村字中川原の人にして明治卅五年布哇に渡航し卅八年五月桑港に轉航し來りて直ちにユービー鐵道の工夫となりレキシントンに於て秋永氏の下に就働する事約壹ケ年夫れより當地に移りて始めて大根耕作に働かしは其翌年五月なりき、爾後當地に足を留めて四十年には白人農家に奉公し具さに農園經營の模様を見て大に得る所有り、昨年に及びて六十英加之土地を借り受けコーンを試作し以て漸やく自營の衝に當り日夕多大の困苦を忍びて能く働さ能く勉めしと雖も經驗なくして満足なる收穫なく不愉快なる一年を経過して本年度は其方向を轉じて他業に着手せんと試みしも偶々令弟十郎氏の加州より遙々氏を訪ね來るありて議論一決しコーン耕作を暫時見合はせ廿五英加之借地にシユガアビーツを試作する事となりて兄弟

互に相勵み相扶けて一意農事の外餘念なかりし効空しからず充分なる結果を見るに及び明年度は更らに擴張して大に奮闘せんと期待しつゝあり。

氏は實に本年廿八歳、性温厚にして争を好まず、扑直にして親交あり、加ふるに令弟亦恭謙克く氏を補助するあれば其志を遂ぐる決して難きにあらざるを信するなり。

川島繁吉

全上

鶴ノ木友治郎、甲斐田松治郎の兩氏と共同して百六十英加之現金借地をなしコーン六十英加、オーツ廿英加、小麥四十英加及びビーツ十五英加之外牧草とを耕作し孜孜として勤めて倦まざるは之れ川島繁吉氏なりとす。

氏は年齒漸やく廿五篤實なる青年なり、而して日常農事の餘暇白人教師に就きてペン書の研究に餘念なきが如き蓋し尤も有益なる嗜好と云ふ可く以て其性行の一般を知る可きなり、氏は其郷里を後藤兄弟と同ふして宇小路の人なり明治卅五年布哇に渡航し各地に就働して専ら蓄財に志せしも徒らに費多くして收入尠なく在留三年何の得る處なきを見て斷然轉航を企て卅八年桑波に上陸して早速脇本西村組の配下に屬しユービー鐵道に就働する事約一年、後當地に來りて大根園に働き實地に就いて農業の有利なるを悟れる氏は四十年度に及びて漸やく事業着手の望を全ふし昨年以來ウエルソン氏との契約成り前記鶴ノ木、甲斐田の二氏と共同にて目下の農園を耕作する事なり以て今日に至る、吾人は今漫りに其前途の成否如何を斷定する愚を爲さず

と雖も如斯にして進まば近き將來に於て氏等が得意の域に達するは又豫測するに難からざるなり。

持丸三郎 全上

氏も亦福岡縣人にして八女郡白木村字下内の産なり、令聞すま子を携えて布哇に渡りしは川島氏と同じく卅五年四月なり、而して彼の地に留まる事滿三ヶ年の後當國に轉航せられ桑港に上陸せしは卅八年四月十六日なり、以來桑港に足を留めて諸種の働さに従ふ事約八ヶ月、夫れよりテブラスカに入りカアデーのセクションに働く事暫時にして翌年五月前記の諸氏と共に當地に移り始めて大根耕作に従事せしより居を定めて農業に着手し白人ウエルソンの信用を得て昨年に至り宅地及び家作三棟を購入して愈々永住の基礎を樹て營々として業務に精勵せられつゝあり。

氏や今年卅一歳、人と交る、至つて親切に世に處する極めて眞率にして着々其志望に向つて歩武を進めらる、蓋し植民の眞意義に適へる人と云ふを得可き歟。

以上列記せる諸氏の外尙當地の白人農家に奉公しつゝ事業着手の準備に寧日無き鹿兒島縣人内村清吉及び廣島縣備後の人高森勘次郎氏の兩名有りて前記の諸氏と互に相往來し殆んど家族的に相親睦して共に向上發展の策を講じられつゝ有れば當地に於ける吾同胞の面目をして更ら

に新らたに且大ならしむるも亦近きに有る可きを信するなり。

リンコルン

コロラド州傳馬市より東に四百八十二哩(バーリントン鐵道に依る)を隔てキャンサス州キヤンサス市に二百八哩の行程有りてネブラスカ州の東部に位するリンコルン市は本州々廳所在地にして人口約六萬を有し各鐵道の發着驛たり、街衢井然廣濶にして又清潔殆んど他に其比を見ず且つ人精敦厚にして信義を重んじ質素にして浮華に流れず、和氣霽然として常に安寧と幸福とに満てる一仙境たるの觀あり、宜なる哉一切の設備整然たる州立大學と四個の大圖書館とは一代の偉人ブライアン氏と相俟つて市民に多大なる感化を與へし事や。

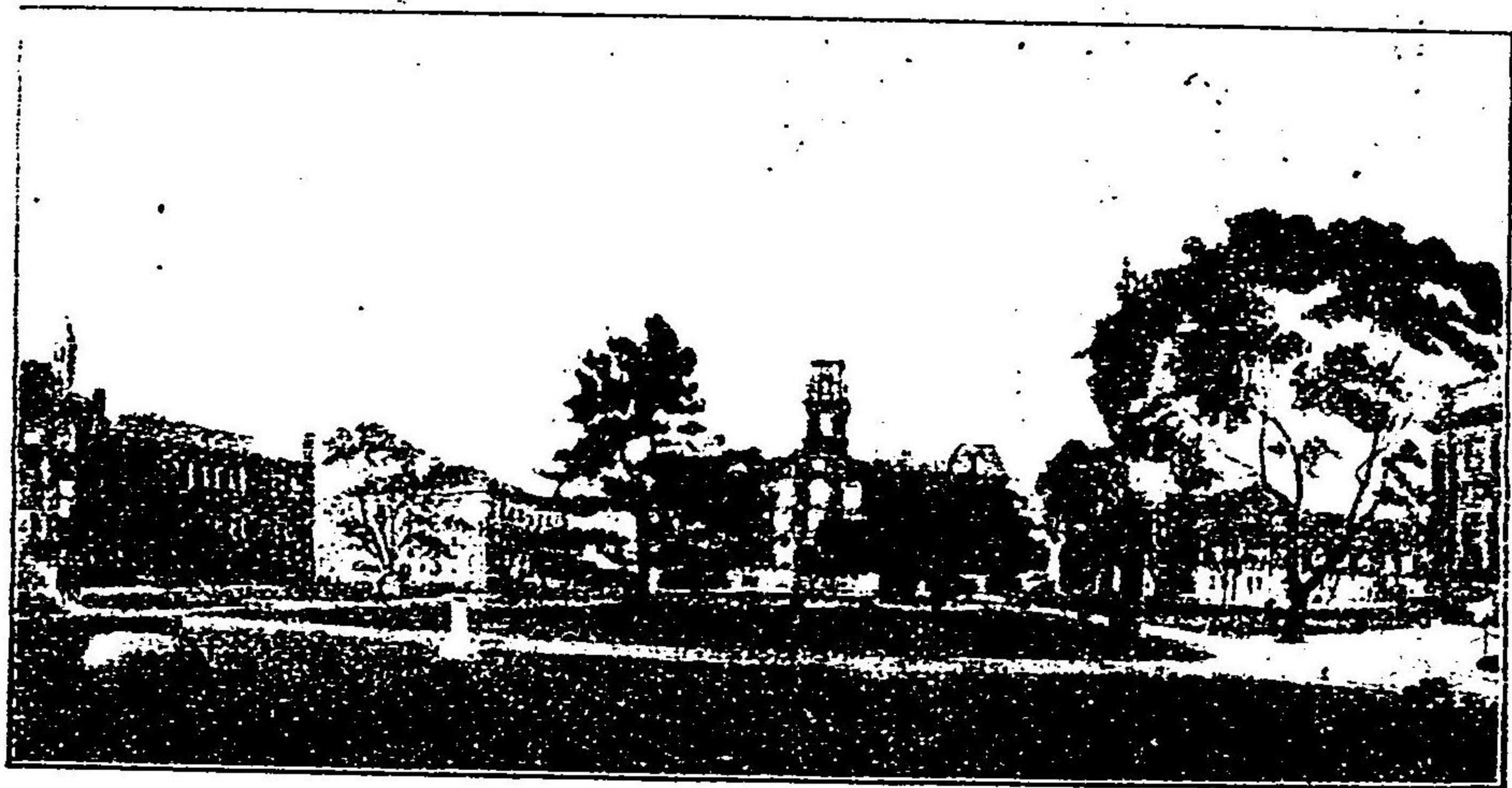
今試みに當市の特色二三を列記せば六萬の人口を經持するに僅か九名の警官にて事足り安息日たる日曜には唯賣藥店及果物屋のみを例外として彼の到る所に別區劃をなす猶太人すら其商店を閉ざすのみならず有らゆる誤樂場をも之を鎖ざして市民の過半は皆圖書館を訪げれ、又一個の醜窟無く一軒のサルーンを有せず且つ支那人の飲食店營業を許さず凡てのレストランに諸種の弊風を惹き起す彼のポックスを禁じて飽迄公明正大なる市民の襟度を示す等其美風擧げて數ふ可らず。

而して當市に於ける我同胞は他の諸市邑に於けると全然其趣きを異にする修學地として十五年來の關係實に淺からざるものあり、抑も當市の州立大學々生として先鞭を着けたる我同胞は

新潟縣人の二階堂某氏にして氏は明治卅年既に本州ウエスリアンユニバーシティーを卒業し更に

當市の州立大學撰科に入りて二個年間應用化學を専修せられ業卒ゆるや直ちにアメリカン製糖會社の技手に聘せられ助手として學理を實地に研究せられし功空しからず二個年の後抜擢せられて年俸二千五百弗の分拆課長に昇進して同會社員たる事約七年、千九百六年に及び同會社の衰頽と共に氏も亦其職を擲ちて以來四ヶ年何地に於て活動せられ居るや杳として未だ其所在を聞く能はざるは吾人の遺憾に堪へざる所なり。

是より先き二階堂氏が當大學を卒業せられし卅二年鹿兒島縣人山下彌七郎氏突然ブライアン氏の高風を慕ひ來りて此の偉人の門を叩き其家庭に於て親しく薰陶せらるゝと同時に入學に入りて業を積む事六年の後錦衣を故郷に飾りて目下横濱ガゼット新聞主筆として多年滯蓄せる深奥なる學理と其健筆とを以て終始侃諤の論議を上下せられつゝ有りと云ふ。山下氏の當市を去りし卅七年秋九月又當大學豫備校に入學せる赤木氏有り同年在日本米國宣教師の紹介を齎して渡米し當市のカトナ神學校に入學し本年漸やく大學本科に移りて研鑽怠らざる岡山縣河哲



リシヨル大學生の圖

郡成羽村の人村島瀨助氏あり、次いで卅八年始めて渡米せられシヤアトル港を経て本州オマハ市に來り又アイオワ州に行きて白人農家に就働し親しく農園攻究に従事せられしも尙ほ素養の不足を感ぜられしが昨年五月再び本州に戻り當市に足を留めて全年九月より州立農科大學生となられし關虎雄氏あり、氏は東京の人にして初め駒場の農科大學に入り實科を卒へて間も無く官命を帯びて渡清し日露の大戦開始當時は普ねく滿韓の野を跋渉して研究を積まるゝ所有り更らに臺灣に轉じて暫時同島の農況を視察し後東京園藝株式會社に聘せられて米國遊學の議纏まり妻子同伴にて渡米せられ以て今日に至る。

以上の諸氏は皆故國より聲援ある純粹の留學生として等しく敬意を拂ふに踴躍せざる所なるも獨り赤木氏に至りては大に其撰を異にし全く自助的人物として我同胞の仰いで以て範となすに足るものあり今左に同氏を紹介せん。

赤木金壽

リシヨル市州立大學校内郵便一九三

氏は岡山縣縣吉備郡日近村の人にして、明治卅年當國タコマ港に上陸し、早速ポートルランド市に來りて二個月間滞在の後、加州に出て桑港を経てオーナツグロップに行き在留三ヶ月にして、又ナトマに轉じ葡萄園に働く事二個月。夫れよりカスムネスに移りて四十英加の土地を借り入れ、ハップス耕作を試みて八個月を費やし、後英領晚香坡に戻りてフレザー河の鮭漁に就働し、多少貯蓄を得て其の方向を換へ、舍兄と共に鐵道ギャングを組織して、百餘名の同胞を引

連れ北太平洋線に入り、遠くモンタナ州のピリングス市に來りて就働す。而して同州ミゾーラに移りて以來氏は鐵道を罷め、日本人救濟會の會計及び熊本事務所の支部書記として、兼務する事約十一月、無事其職を完ふして、又ポートランド市に出て伴新三郎氏始めてバーリントン鐵道會社と契約し、人夫供給を請負ひし際氏は飛入りとして再びモンタナ州トルカに來り人夫と共に鐵道に就働する事二ヶ月にして氏の技倆を認められ撰拔されてセキシオンホームマンに採用さる、之れ抑もバーリントン鐵道に於ける邦人ホームマン採用の嚆矢なりとす。時に千九百二年なり、爾後約二個年ホームマンとして具さに辛苦を嘗め然して卅七年秋九月に至り心機一轉學業に志を立て當市に來りて籍を州立大學土木工科に置く事となり、以來一意専心切磋琢磨の功空しからず明年二月工學士の榮冠を擔ふ事となる、氏の意志や實に金鐵の如く、堅忍不拔其初一念を貫徹せんとして、働さ且つ學び、學びて而して働きを繼續する事茲に六個年の長日月未だ一回の病魔に襲はれし事なく、今や全く其希望を達せんとす。又努めたりと云ふ可き哉、氏よ希くは今後其身を活世間に投じて、其渦中に溺るゝなく、進んで我同胞社會の新天地開拓に力められん事を。

此他當市に於ける我同胞古參者として岡山縣御津郡馬屋上村の人、蜂谷民三郎（卅五歲）氏を始め七名の邦人ありて皆基督教青年會に至大なる關係を持てり、就中蜂谷氏は卅一年の渡米にして當市に來りしは、卅六年冬なり、而して翌年一旦ポートランド市に出て、卅八年春再び當市に戻りて基督教青年會に入りてクックとして働さ去る四十年より同會のランチカンターを依

頼され、爾來獨力にて經營する事となり、信用口を追ふて加はり好評年と共に愈々高きに至る。之を要するに當市は我同胞の勞働乃至は事業地として殆んど絶對に無價値なる可く、之れに反して修學地としては尤も好適たるを廣く紹介するに憚らざるなり。

オマハ市

五二〇

西、太平洋沿岸各地より東、大西洋沿岸各地に至る合衆國の殆んど中央に位して、世界第一の長流ミシシッピ河の支流なるミズリー河を隔て、東、アイオワ州に隣するオマハ市はネブラスカ州内第一の都會にして、南北兩オマハ市を合して人口約十三萬を有す。

北オマハ市は大廈高樓軒を並べ、車馬絡驛として往來恰かも織るが如く、宏莊なるユニオン及びバーリントン之二停車場有り交通運輸の便自在にして、商業亦頗る殷賑を極め有らゆる物貨の集散地として、北米中部諸州中最も重要な諸市場の一たり。

南オマハ市は製造工業の發達著しく大會社大工場の所在地として又有名なるスタックヤードの設けありて、本州畜産界に多大の貢獻と且つ影響とを與ふる根據地として、將た又資本家の勢力競争場として、勞働者の蝟集地として夙に知らるゝ所なり。

如斯當合衆國に知名なる當市はイリノエス州市俄古市より西、四百九十哩を隔て、ワイヲミング州酒園市より五百七哩（ユービー線に依る）東に有り、又コロラド州デンバー市より全州ジュルスバークを経て東に、五百七十哩を離れて、テブラスカ州の尤東端に位する一都市なり。

我同胞にして當市を見し者極めて多かる可く、其年代の如き今更之を知るに由なしと雖も、足を當年に留めて、我同胞移民の新天地を開拓せしは、蓋し岡島金彌氏を以て嚆矢となさん。氏は初め當サウスオマハ市に於ける鐘詰會社に大同盟罷工勃起せし際、其破壊者として該會社と我勞働者の供給を契約し、コロラド、ワイヲミングの二州に散在せる各地の炭坑乃至鐵道工夫

を募集し約百二十餘名を送りて富田某監督の下に當地の鐘詰會社に就働せしめしは、千九百四年の秋九月の交なりとす。後ボツス對ボーイス間に意志の疎通を缺きて屢々紛糾を惹起し數度の交渉も妥協の餘地なくして終り、爲めに岡島氏は己む無くボーイの要求を容れて斷然會社との關係を絶ちし以來幾多の變遷ありしと雖も、然かも當地に於ける我勞働者の今日有る所以のもの之れ全く岡島氏の恩恵なりと謂はざる可らず。

而して全氏時代より當市に於ける日白人勞働者間の關係は餘り面白からざるもの有りと雖も、元來我同胞の當市に入り來れる其原因を顧れば之れ寧ろ當然事たる可く、尙ほ未だ猛烈迂愚なる排日の聲を耳にせざるが如きは在加州各地に於ける我同胞に比し、當市在留の我同胞は遙かに不幸福なりと云ひ得可き歟、然り之を幸福なりとして内、私かに感謝しつつ有る吾人は茲に諸君が百尺竿頭更らに一歩を進めて、當地をして我勞働者の樂天地とす可く、否我同胞無限の發展地と化す可く、一切の困難、有らゆる艱苦を排除して益々奮闘活躍せられ、以て他日大成の基礎を築かれん事を切望に堪へざる者なり。

目下當地に在る我同胞は約二百餘名にして、サウスオマハ市に於けるカダファイ鐘詰會社に就働する者殆んど其大部分を占め常に百六十名を下らず、ゼ、ホーム、オプ、グード、シイハドを借り受けて之れに起臥し、自治團體を組織して日本人同志會と稱け、會長副會長は之を名譽職たらしめ、有給會計一人を撰定して一切の取締り及び通辯を兼務せしめ十幾名の評議員と共に規約外なる凡ての時事を議決して秩序を立て、以て之れが統一の全權を委ね、何れも和氣霽然として業務に精勵しつつ有る外、橋本某氏の寄宿舎に二十名内外の同胞とノースオマハ

市なる木岡氏の洋食店に就働する十餘名の同胞と有り、左に之等主なる二三の諸氏を紹介せん。

井藤 四郎

サウスオマハ市卅六及エル街

濛々たる煤煙四季を通じて漲ぎり渡る天の一角、突兀として空に聳ゆる大烟筒の林と立てる壯觀を前にして後に低く又遙かに蜿蜒たる二條の鐵路を隔て、電燈燦たる夜の市街を睥睨し得

る丘陵の中腹に巍然と樹てる一城郭は、是れサウスオマハ市に於ける我同胞百有餘名が、過ぐる卅八年より立籠りて惡戰苦闘に堪えたる結果漸やく毎歳十幾名の成功歸國者を出すに至れるや。ホーム、オブ、グード、シイハードならずや。



井藤 四郎

顧みれば趣味ある經歷に富む此城郭は南オマハ市なるカダフイ鐘詰會社に就働する我同胞壹百六十有餘名を收容して單に暑を凌ぎ、寒を避くるの一屋舎に止まらず、半面幾多の高才逸足が轢軻落魄して時に或は此に據り以て再び世に起つる策源地となり、且つは四方に放浪せる幾多無名の豪傑輩が類を呼んで集り來る好箇の梁山泊として、春風秋雨既に五星霜、今や諸般の

設備整然として一絲紊れず、眞に共和の別天地を形成するに至る。

而して現今此梁山泊に於ける一頭領として又自治團體の宰相として令名噴々嚮望亦其比無く、我同胞の信用を一身に擔へて活動せられつゝ有るは即ち井藤四郎氏なり、氏は備後の國世羅郡三川村字小谷の人にして幼より穎悟群童を凌駕し、長ずるに及びて益々望を郷黨に囑さる、明治卅四年の春福山中學を卒ゆるや、既に海外渡航の希望有りしも事情有りて果さず、漸やく日露開戦の悲報を耳にして、郷里を出發し、全年三月末日遂に桑港に上陸するを得たり。

斯くて同港に居る事僅か一週間にして、ユー、ピー鐵道工夫となりて約半ヶ年ワイフミング州の各地に就働して後、コロラド州に入り傳馬市に來りて情況を探り、其到底足を止む可き所ならざるを知り、滯留約十日にして直ちにネブラスカ州に轉じ、當地に居を定めしは同年十一月なりき。

當時カダフイ鐘詰會社の人夫供給者岡島金彌氏と我労働者間との信用口に非なるものありて、紛擾に次ぐに紛擾を以てし、幾度か統御上の刷新を行ひしも遂に満足なる解決を見る不能、労働者の過半は斷然分離を主張して現今の屋舎に移り、仁内氏を選定して會社と直接の交渉をなせし結果、遂に契約者を排して自治團を組織し、此に始めて確固たる基礎を定めしも、未だ全く諸種の因襲を脱する能はず幾多の弊害之れに伴ひて起り、我同胞間に於て終始内訌の絶間無かりき。

されど卅九年に至り仁内、神田の二氏相次いで當地を去りしより、彌平穩なる日を送る事となりしも、諸般の幹旋、萬事の折衝、一切の重任は擧げて會計に移りし爲め、池田氏辭し、重

見氏罷めて四十年七月に及び、衆望の期する所となり井藤氏起つて其任に就かれし以來既に三年、日夜拮据勉勵能く志實なる公僕となりて敏腕を揮はれし効空しからず、今日吾人が等しく嘆美に堪へざる好成绩を見るに至る、之れ實に氏の功勞と言はざる可らず、而して氏は當年尙廿八歳少壯血氣の士、漫りに前途を誤るなく、修養加餐以て徐ろに大なる未來を迎ふる有らん事を。

田口富太郎

全上



田口富太郎

千葉縣匝瑳郡椿海村の人にして、明治卅六年九月八日シヤアトル港に上陸し、直ちに加州桑港に移りて越年し、翌年コロラド州に來り外園直市氏の請負に係る、ロッキーマウンテン鐵道工事に従事しブツクキーパーとして就働中、全年九月に及び岡島金彌氏當サウスオマハの鐘詰會社の同盟罷工破壊者として我勞働者供給を契約し普ねく人夫を募集せし際、同氏の依頼に應じて一意之に盡力し數多の我勞働者と共に始めて當市に見ゆる事となりぬ。
之れ抑々當市に於ける我同胞の第一先驅者にして爾後滿五個年、他に意を移さず又居を換へ

才鐘詰會社に就働して具さに困苦辛勞を嘗め盡くし今や期せずして衆望一身に集まり、辭し能はずして現に日本人同志會長の位置にあり。

氏や齡不惑を超ゆる當さに一年、驅幹肥大にして威容嚴然たり、而して思慮愈々圓熟して圭角尠なく濃厚恭謙宛然君子の風あり、然かも意一度決すれば果斷勇往敢て人後に立たず、其漆黒の美髯を撫しつゝ滔々として論じ來り諄々として説き去る所又劍を把つて欣然國難に赴きし當年の志士を髣髴せしむるに足る、氏たる者希くは紛々たる世俗の風評に耳を籍す無く、宜しく大勢の如何に向つて意を注ぎ以て我同胞發展の途を講じられん事を。

木岡幸四郎

オマハ市十六街六〇六
長崎洋食店主

東都の士動すれば一般近畿の人を目して上方贅六と云ふ、余は江戸ッ兒ならざれば此一語の何を意味するかを解し能はず、されど所謂上方贅六の中心點なる大阪人士の概して錮録の利をだも忽緒に附せず積んで巨萬の富を作する敏なるを知る、蓋し外優柔不斷にして内、堅固なる意志を有し、表面不得要領なるが如きも蔭に抜く可らざる信念ありて執着心尤も強く、能く其道に忠實なる商人氣質を遺憾なく具體的に説明したるものならずとせんや。

然り果して之を上方贅六と云ひ得可くんば、吾人は此語の大に使用さるゝを歓迎するものなり、而して木岡氏が本年漸やく廿八歳の青年にして、尙且つ幾十軒の白人同業家を凌ぎて優に一頭地を抜ける洋食店主として敏腕の聞え高く、終始不斷の競争に悠然勝者の位置を保ちつ

有る所以のもの、又實に上方出身者の好典型ならずや。

氏は即ち贊六の本場と稱せらるゝ、大阪府下和泉國北郡南松尾村の人にして、明治卅六年十



木岡幸四郎

月シヤアトル港に上陸し早速世界の大都紐育に直行して、足を留め身を學窓に委ねて具さに螢雲の苦を積む事約一年、後同市に於て有名なる日本商店島村組の店員となりて勤務せしが、偶々聖路易大博覽會の開催あるや、氏は撰拔せられて同市に出張し多くの店員諸氏と共に活動せられ、全年十一月同會の閉場後又紐育市に戻り爾後東部各地に於ける島村組支店の巡廻員として、卅九年五月に至る間其辣腕を揮はれしも都合有りて同店を辭し、東部諸州を経て當州に入り此所に居を下して洋食店を開業せらる。

以來四個年刻苦精勵晝夜の別なく、親ら經營の衝に當りて磐根錯節を試みられし効空しからず、今や十三名の同胞と三名の白人とを使役して繁榮他に比なく、隆々として家運の昌んなるを見るに至る、之れ氏が即ち錙銖の利も尙忽かせにせず、着實に且つ勤勉に孜々營々として業務に精勵されし賜のに外ならず、氏たる者須らく之に安んぜず更らに一步を進めて、我同胞の爲め宜しく新天地の開拓に従事せられんことを。

キヤンサス州

キヤンサスセテ

所謂在米同胞十萬の策源地を以て目せらるゝ加州桑港を東に距る殆んど貳千哩の地點に當り、彼の有名なるミヅリ河畔に臨みて、起伏せる一帶の丘陵に建設されし大都會有り。

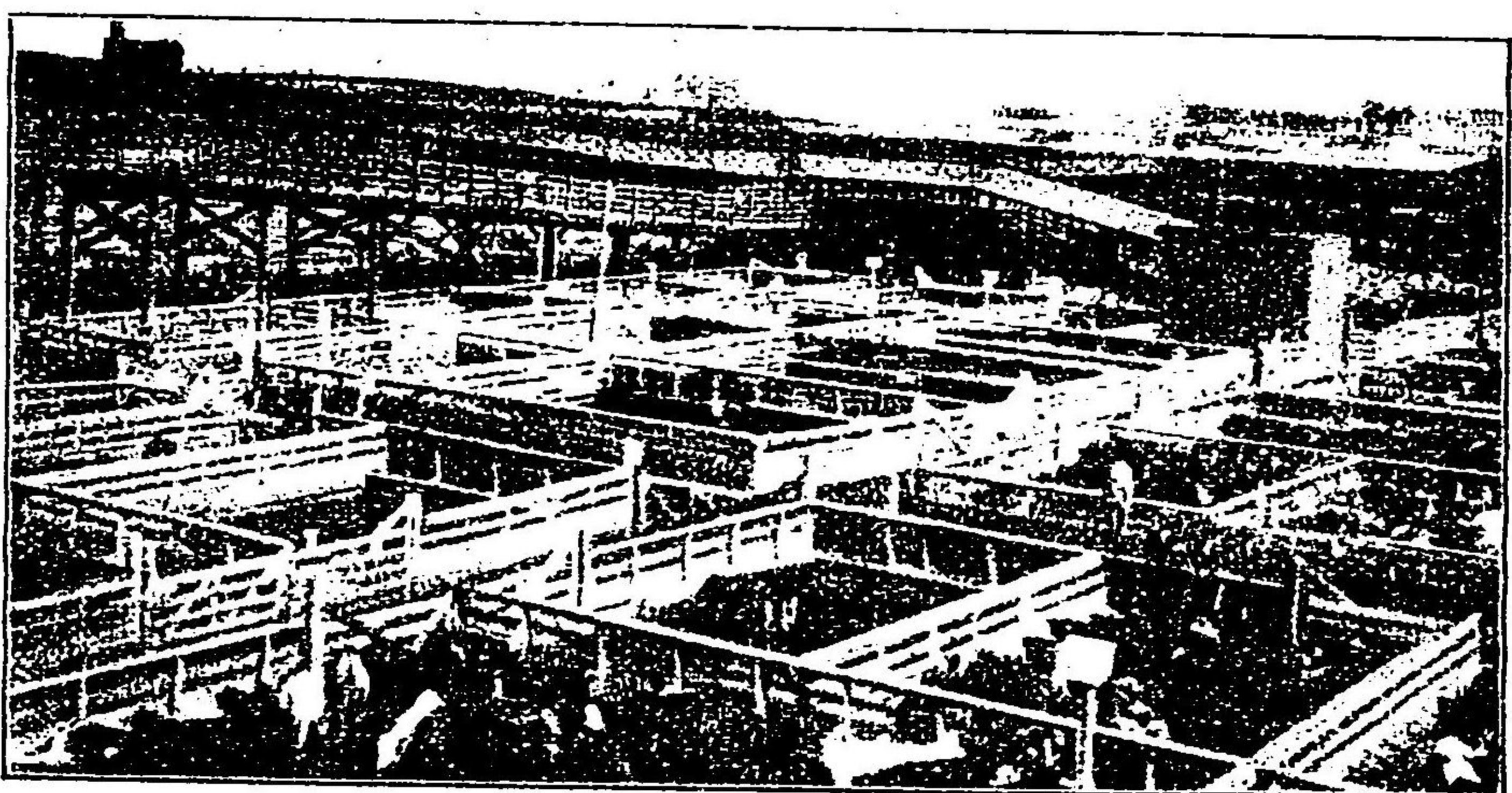
水利の便は無さも瀛車の交通頗る頻繁にして、物貨の集散最も旺盛を極め、生産業としては農業畜産第一位を占め、製造工業又大に發達して、北米諸州に覇を唱ふる、カントリータウンとして恐らく他に其比を見る能はざるは、キヤンサスセテならずや。

當市は市俄古市に四百九十哩を隔て、オマハ市の南東二百哩の所に有り、コロラド州デンバ市の東六百四十哩の地點に當り、聖路易市より西二百八十哩を離る、キヤンサス及びミヅリの兩州に跨がれる都會にして北にミヅリ河を擁し、地勢の高低常ならざる恰かも、シヤアトル、或は桑港に酷似する所あり、市區の面積二十七平方哩を有し、總人口三十七萬八千と注さる。

而して當市は農具一切の製造販賣高殆んど、合衆國に冠たるを以て見るも如何に工業の發達せるかを知り得可く、又各種鐘錶業の旺んなる、合衆國中比敵無しと稱せらるゝ、市俄古市の次位に有るを以て見れば又如何に製造業の進歩せるかを知るに足らん、殊にグレーンは本州第一の産物にして麥類コーンを其主なるものとし、又ポテイト及びトメトの産出之れに次ぐ。

キヤンサスセテ、キヤンサスは概して製造工業地として、テブラスカ州オマハ市に於けるが

如く、労働者タウンとして知らるゝの觀あり、市街の建築古くして彌々不快の感を與ふる無きに有らずと雖も、般賑と云はんよりは寧ろ人馬の雜沓夥しく、五分時毎に流車の發着あるユニオン停車場附近の橋上に立ちつゝ、層々空を衝きて聳立する大會社大工場の壯觀を一望すれば、又一種雄大の氣自から胸に溢るゝもの有り。



ワデル博士の架橋設計圖案會社を組織せられ、同社經營の重任に盡瘁さるゝ傍ら我が帝大工料

出身の俊才を呼寄せて、逐次教養せらるゝ有りて、今を去る約十年前既に樺島、藤野の兩工學士同博士の門を叩いて親しく其薫陶を受け、斯道の濫輿を究めて、成業歸朝されし以來漸次我同胞の知る所となり、且つ西曆壹千九百年和歌山市の人南部辰次郎氏當地に來り、居を卜して日本美術店を開業せしより、實業家乃至其他の所謂家持連なる者次第に増加し、又明治四十年六月に至り秋山某氏當地に來り、アーマー鐘詰會社と契約して我が同胞人夫を供給せしより、始めて當地に邦人労働者を見しと云ふ、當時同會社に就働せし我同胞は約八十名に餘りしと雖も、爾後諸種の關係ありて不結果を來たし、爲めに方今微々として振はざるに至りしは之れ當市の或は労働に適應せざるの故なら乎。

由來當市は氣候の變化急激にして、殊に雨量多く、降雹雷鳴に名有りと云へば吾同胞に適せざるは素より論無かる可しと雖も、然かも地方に於ける夏季の労働尠なく、加ふるに諸般の勞銀最も低廉にして比較的高額を要請する我労働者の堪ゆる能はざるが爲め、自然當地に遠ざかり行くは之れ其重なる一の源因ならんと聞けり。

如斯我が労働者が大體に於て失敗の跡を残せるに反して、當地に於ける我が實業家の着々成功せられつゝ有るを以て見れば、當市の或は企業方面に有望なる可く又絶對に我労働者の需要を拒むものにあらざる無き乎を疑はずんばならず、吾人は今遽かに其成否の如何を論せず、本年二月より當地の郊外約十哩なるミヅリー州エンデペンデンスに於て、四十英加の土地を借り入れ、ビジテールブルの耕作に着手せられし廣島縣人近藤常市、上田喜代藏の兩氏が、率先して此點に着目奔走せらるゝを私かに欣ぶものなり。

目下當市在留の主なる我同胞を列記すれば即ち左の如し。

職業	姓名	住所
日本美術商店	南部辰次郎外二名	421. E. 12th st, k, C, Mo.
東郷商會	西本參一外二名	1411. Grand. ave, k, C, Mo.
日本美術商店	黒鳥安松	1002. Wauwate, st, k, C, Mo.
スター洋食店	不明	609, E, 12th st, k, C, Mo.
東京洋食店	村上、吉井、山口	402. Wauwate st, k, C, Mo.
ケンパー、グレイソン會社運輸課長	原田木一	90. the keuper Grain Co, k, C, Mo.

架橋設計製圖會社工學研究
 工學士 松山常次郎 No. 608, New Nelson Bldg, Mo.
 工學士 高橋清輔
 工學士 江橋貞二

全
 上
 工學士 堀見末子 No. 309, Keith & Perry Bldg, Mo.
 工學士 増田淳
 工學士 川名孝次郎

竹 細 工 職 小谷徳四郎 1411 Grand ave k, c, Mo.
 サウザン、チャブスイ、ハウス 佐々木、橋爪 121, w, 8 st, k, c, Mo.
 農 業 近藤、上田 No 6, Lant, pokox, 104, Independence, Mo.

日本人寄宿舎 布谷權右衛門 4. S. James st, k, c, kans.
 ましの洋食店 増
 玉突場、日本茶園主、音 頭 全 上
 生 柴 田 春 江 90 Baptist theological school, kans.

其他勞働者約五十名
 備考 No. はキャンサスセターの畧字にして mo. はミズリー州、kans にキャンサス州の略字なり。

目下當市に在留する我國同胞約七十名内外にして、右表に示すが如く、所謂我がビジネスマンなる者の多くは即ちキャンサスセター、ミズリー州に居住し、残る二三の營業者と各種勞働者とは大概キャンサスセター、キャンサス州に足を留むるが如き觀有るも、之れ地理の關係上又處世上自から此區別を見るに至りしなる可く又當然の事と云ひ得可き歟。今左に當市に於ける元老(?) 南部氏及び青年活動家原田氏を紹介して暫らくキャンサスセターに於ける我同胞將來の如何を偲ばん哉。

南部辰次郎

ミズリー州キャンサスセター
 一東十二街四二一

太平三百年、治國平天下の道、只鎖國攘夷にありと爲せる徳川幕府の誤れる政策に因りて、益々島國根性を涵養せられし爲め、明治維新の大革命を見しも、尙未だ民間には箱庭的志願の滅

却する無く眇たる山間十戸の村を我が天地となし、桃李艶を競ふ春酣に武陵の夢圓かにして世の變遷に伴ふ社會の大勢如何を知るに由なく、徒らに因循姑息の生活に甘んぜし、故國に國會開設後僅々一兩年の交、奮然起つて海外發展の希望を立て、萬里の波濤を蹶つて北米に航し、幾多の困難辛苦も辭せず、勇往敢爲屈せず撓まず、四回故郷に往復して其精神愈々堅く、孜孜營々飽迄素志の貫徹に努力せられし結果、現在當市に於ける元老として將た成功者として、聲譽隆々名實兩つながら衿きは之れ南部海東商會主南部辰次郎氏ならずや。

身を一個の商人より起して今日在米邦人同業者の角逐最も激烈を極むる美術店經營者として噴々たる令名を博するに至れる氏は、明治三年山紫水明を以て聞ゆる紀州和歌山市橋町十七番地に生る、齡若冠を越ゆる漸やく一兩年ならざる廿四の春斷乎たる決心の下に飄然故國を去つて渡米の途に上り全年五月英領ビクトリヤ港に上陸し、早速加州桑港に來り居をグローブ街十四番に定めて先づ竹細工店を開業し、刻苦精勵四個年間殆んど晝夜の別なく、製造に且つ販賣に腐心せられて好結果を獲、廿八年六月に及び桑港を去りてユタ州ソートレイキ市に移轉し、メイン街に於て又従前の商店を開き、頗る白人間の嗜好に投じて販路俄かに擴張し繁榮を極むる事約壹年、偶々飛信ありて頻りに氏が歸國を促す有り、爲めに一旦故山に見えて父母を郷里に省し、留まる事又壹ヶ年勃々たる雄心禁じ難く、再び渡米を企て桑港に上陸せしは卅一年春なり。

而して直ちに南加羅府に行き、再び竹細工店を開きしも、當時米西兩國間に隙を生じて砲火相見ゆる事となりし爲め、開業一ヶ年の辛苦空しく徒勢に歸せんを慮り已む無く閉店して同地を退き、更にコロラド州に入り傳馬市に來りて足を留め、從來の方針を換えて、日本植木の輸入販賣を試みしも、時利あらず不運にして全然失敗に終りしと雖も、經驗なくして事業着手の無謀なる一大教訓を得たる氏は、毫も之を悔ゆるなく再び捲土重來の策を講ぜんと欲して、又故國に見ゆる事となりぬ時の卅二年夏八月なり、其當時在傳馬市の我同胞は僅々二三十名にして内二名の洋食店經營者ありきと云ふ。

斯くて氏は故郷に在る事僅か半年の後、三度渡米して足、桑港の地を蹈む事となり仔細に同市當時の状況を探りて内心私かに期する所あり、一決倉皇同市を去りて遠く給機山東に出て、普ねく北米中部の諸都市を遍歴して、當市に來り其有望なるを觀破し地を相して再び植木商を開始せんとせしも元來利を見るに敏なる氏は心機一轉早速小坂市太郎、松尾政吉の兩氏と共同して美術店を開き、商品一切は之を故國の攝州神戸及び加州九谷等を輸入先きとして廣く顧客を歐米人に求め、誠心誠意家業の發展に勉勵せられ、奮闘茲に十春秋今や年額二萬弗の純收入を見るに至り、三度故國に類齡の父母を訪ふて孝養盡さざる無く、昨年十月四度渡米せられて現に其辣腕を示されつゝ有り。

眞に氏の如きは終始一貫初一念を枉げずして、其鵬志を海外萬里の異邦に伸べしもの、全く山間僻村に惰眠を貪る蠅輩の仰いで以て當さに愧死す可き價值あるの人と云はざる可らず、乞ふ一層奮勵して益々我國益を圖られん事を。

原田 木 一

ミヅリ州キャンサステー
ゼ、ケンバー、グレーン、カンパニー内、

五三四

天稟の機智世を驚かすに足るもの有り共、其時に遇はずんば之を示すに由なかる可く、縦横の奇才人を制するに足るもの有り共、其所を得ずんば之を用ゆるに術なかる可し、而して其時に逢ひ其所を得るに一は偶然にして不可解なる運命に支配さるものと又自己の力量如何に因りて我が天地を開拓する者との二者あるを知らざる可らず、之を知りて後其人を見れば津々たる興味自から湧出し來るを覺ゆ可く、不識の間に又得難き好教訓あるを認め得可し、茲に紹介する原田氏の如き亦此の好適例ならずとせんや。

氏は今年漸やく廿七歳、一個白面の青年に過ぎざる身を提げて、然かも堂々たる穀物會社のトラフキック、マテジャアとなり、激烈極まる米國の商界に打つて出て、幾多の老練敏活なる白人商客に伍して輸贏を争ひ尚ほ且つ一步も譲らざる辛辣の活腕を揮ふが如き、之れ天稟の才智を兼備して而して適所に應用するに有らざれば決して成し能はざる所ならん。

氏は明治十六年岡山縣淺口郡大島村字西大島に生る、幼より穎脱の才あり、郷里に在りて普通學を修め、後東都に出て、攻玉社中學に入り、業卒ゆるや直ちに身を海軍に投ぜんとして果さず、遽かに渡米遊學の希望を起て當時在桑港なる竹下浩氏の斡旋に依り、遂に一行九名の留學生と共に桑港に上陸するを得しは去る卅七年六月にして、早速會話の研究に従事し或は青年會に又教會に或は白人家庭に寄寓して練習する事約六ヶ月、偶々知人の紹介に依り白人デー、エフ、ピエアベック氏の知遇を受けて全氏の所有に係るケンバー穀物會社に事務員となり、間

も無く當市に轉任し來りしは其翌卅八年三月なりき

爾來五個年精勤群を抜き敏腕衆に絶して社内信用日に益々厚く漸次累進して今日に及び運輸課長の椅子を占むるに至る又努めたりと云ふ可き哉、然りと雖氏の前途や尚ほ遼遠なり須らく修養加餐し以て其大なる未來を迎ひらる可きなり。

カンサス州西部地方

五三六



ターナー氏

八萬二千千八十萬方哩の面積を有し、米國西部地方の一大州たるカンサス州の西部は又我同胞の好發展地たるを失はず、同州の西部に位するファイニー及びカーチーの二郡即ち之れなり。之れアーカンサス原野の一部にして最も豊饒なる部分なり、蓋し此等の地方は多年米國砂漠として放棄せられたりし所、一度アーカンサス河水を利用して灌漑を施し、肥沃の曠野と化したること、コロラド州其他西部地方に異なることなし。而かもファイニー郡は灌漑を施しアルフアル畑地を灌漑し、砂糖大根を耕作したるはカンサス州中本郡を以て之が嚆矢とす。

ファイデンシティーはファイニー郡のカウンティシートにして、人口四千、同州ハチンソン以西の大邑なり、サンタフェ鐵道の幹線に在りて、カンサス市を去ること三百八十九哩デンバーの東三百三十三哩に位し、コロラド州界を去ると僅かに、六十六哩に過ぎず、而してチブラスカ州スピリアに至りて大陸鐵道に連絡す可き、チブラス、カンサスサウザン鐵道と、南はコロラド州トリニダード市に至りロックアイランド又はミズリーバシフィック鐵道に連絡して西北部地方に至るべきファイデンシティー、ガルフ及びノースウエスターンの兩鐵道が、ファイデンシティーに開通するの日は遠きにあらず、實に本市はカンサス州中尤大尤美の製糖所を有し、獨り斯業の中心點たる而已ならず、本州西部に於ける各種産業の先驅者たり。

本郡農産物の産額は五十五萬二千三百十八弗四十五仙にて、畜産物は七十七萬四千四百十八弗にて砂糖大根の価格は三十萬弗に上り、合計百六十二萬六千七百廿八弗四十五仙の多額に達す、而して之を生産する農業者の数は二千を越えず、以て其土地の肥沃なるを證するに足らん（千九百六年調査）

灌漑が米國砂漠と稱せられたる西部地方をして、其生産力を幾倍加したるかは今茲に贅するを要せざる可し、本郡亦然りとす、今本郡の地質を見るに四部に區別するを得べし。第一はアーカンサス原野にして河川に依り直ちに灌漑し得可き所也第二はシャロー、ウオーター地方と稱し地下三呎乃至十五呎を掘鑿する時は多量の井水を得ポンプを以て容易に灌漑せらるゝ地方を云ふ此區域は古昔河又は流域なりしなる可しとは一般の信ずる所にして現時テリと稱せらるゝ地方を中心として幅三哩乃至六哩に亘りて郡中を貫き各種の農産物は勿論尤も國藝に適す、第三は高地にして灌漑し得ざる所なり、麥類に適す、第四は砂地區域なり、麥類、苜を産し牧畜業に適す、即ち第三及び第四は灌漑に依らず自然の降雨によりて耕作するの外なし。

本郡の灌漑法中ユメイトストリート、砂糖會社の灌漑法を以て尤も重要な位置を占むるものとす。同會社はグレート、イースターン及びサウスサイドの兩デツチを所有し、ガアデンセター及びアマゾン、チャチルの水道を管理し以てアーカンサス河水を引きて灌漑に供す、猶ほ

給水の不足に備へんが爲め貯水池を築造す、其最も大なるものは第五貯水池にしてマキニール池と稱し、長サ六哩巾平均二哩、建造費百萬弗を投じたり、貯水量五萬四千英加呎即ち二百五十萬立方呎以て八萬乃至十五萬英呎歩を潤すに足る、其他數箇の貯水池有り、春季河川の氾濫せる時に當りて流入せしめ、危急の場合に有らざれば決して水門を開く事なし、夏時は製糖所に裝置せる有力なる唧筒を運轉して一日五百萬瓦の水を供給し以て附近の地方に灌漑す、會社は益々灌漑區域を擴張して會社所有の土地は勿論之に連なる土地を灌漑せんとす、次に重要なものは合衆國政府が卅萬弗を投じて、ガーデンシターの西なるデヤフィールドに裝置せる唧筒式なり一中央部及廿三の分所を置き、一所毎に十箇の井戸あり、内九個は五十乃至六十呎の深さにして一個は三百呎の深さに達し各直徑十五吋なり、遠心式唧筒第九號を使用す。皆河邊に在りてセメントの樋によりて河水をフアイマース、カナル（農夫用水道）に導き一萬英呎歩を灌漑す、該給水を使用する農業者は一の組合を設立し毎年一定の金額を納付し建築金額を償還したるとき始めて唧筒及び設備の一切は其組合の所有に歸するものとす。其他一千八百七十九年の築造に係るガアデンシター、デッチ有り一萬五千英呎歩に水を給す、フィニール郡フアイマースキヤナルは二萬英呎を濕ふし、グレイトイースタアンはカーチー郡より水を引きて二萬英呎歩に注ぐ、曩時改築せるを以て最も完全せる水道なり、カーチーカウンティ、フアイマー、キヤナルはテリロー及びシャイロックに達す、加ふるに私人がウインドミル其他の方法に依りて灌漑する小規模の水道は至る所に設けられ、河水灌漑に代用せられ灌漑費を減少す、之れ當地方の尤も農業を扶くるものにしてシャイローウオターの賜なりと謂はざる可らず。

砂糖大根の耕作と此の製糖業とは本州西部産業の第一位を占む、數年前之を試作しロッキーフォード製糖所に送りて試験し、好結果を得たるを以てコロラド州資本家の投資によりて、今日の製糖所を設立するに至れり、製糖所は高さ五階にして、倉庫及び原料置場を合せ間口二千呎なり、ピロツダムプ、原料置場は鋼鐵及びセメントを以て送り、長サ七百呎巾百五十六呎にして同時に鐵道貨車百輛及び荷車五百輛を容れ、砂糖大根五萬噸を收容するに足る、唧筒は一日五百萬瓦の水を揚げ製糖所は一日八百噸の大根を以て百噸の精製糖を出だし、製糖期には四百乃至五百人を使用す會社が製造所及び灌漑其他の事業に投入せる金額は六百萬弗に達す、ピロツを耕作し得る反別は二十萬英呎を超ゆと云ふ、而して當地方に於ける同胞の發達及び事業は後段に於て之を説明すべし。

アルファアルファ牧草は當地方に於ける砂糖大根に次いで尤も重要な農産物也、蓋し砂糖大根を耕作して疲弊せる土地は同牧草を植へ以て其土壤の精力を恢復せしむ、即ち循環耕作法に適する一舉兩得の作物なり、當地方のアルファアルファは品質優等一年三回乃至四回之を刈り取るを常とし一回一英加に就き一噸乃至二噸の收穫あり、又往年聖路易大博覽會に於て金牌を得たるが如く當地方産の同牧草種子は精良なるが故に高價に販賣せらるゝを以て一英加五十弗の収益を得るもの少しとせず。

麥類、牛乳業、蜂蜜、キャンタヒーブ、各種野菜物、馬及びミュール又は種子製造業は當地方の重要な産業なりとす。

同胞の發達 當地方に同胞の來住せるは千九百七年（明治四十年）にして當時鐵道工夫契約

業者たりし木山定吉高塚吉造竹田吉太郎の三氏がユナイテッド砂糖及び土地會社と第五區及び第三十三區七百二十英町を收穫の六分一の借地料を以て借地し、石川縣人大野孝治氏が折半にて三百四十英町及び收穫七分一の借地料を以て百六十英町を借地して各砂糖大根を耕作したるに始まる。

木山氏等を代表したるは安瀬清吉氏にして桔据經營せるも耕地は皆新開にして之が準備に多大の費用を要したると管理其當を失し、天候亦順を得ざりしかば收穫に豫想に反し第五區は平均四噸、第三十三區は平均九噸の砂糖大根を得たるに過ぎず失敗に歸したりしかば木山は五六百弗を携ひて密かに歸朝し高塚は鹽湖に轉住し一敗地に塗れて四散するに至りぬ。大野氏亦失敗に終り兩者今に勞働者又は商店に支拂ひを果さず偶々高塚氏が翌年ホルコムに於て大膽にも千二百英加を借地耕作せんとして參百弗の手附金を失ひたるが如きは以て彼等の事業經營法を窺ふに足らんか。同年當地に來住せる日本人は六十人の多きに及び收穫を終りたる頃は食料品をも満足に得る能はざるの悲境に陥りぬ、是に於て同胞は總代を派して傳馬に至らしめ、木山高塚組に迫らしめしも要領を得ず、遂ひに破産に決し勞働者は抵當物處分法違犯を楯として會社に勞働賃金の請求訴訟を提起し今尙ほ其結果を見ず。然れ共應急の救濟策として傳馬市有志家外園直一等の盡力に依り、會社と協商し翌年は會社は馬及其飼料、住宅、農具、地代、水代を供給して收穫の四分を得、同胞農夫は一切の勞力と大根種子とを負担して收穫の六分を得る事とし一人に付き廿五英加を耕作せしむる事に決し、漸やく同胞農夫を安んずるを得せしめたり、而して千九百八年度同地方に於て砂糖大根を蒔き付けたる英加數は一萬四千五百英加

に及びしも烈風の爲めに吹き飛ばされ耕作英加數は八千に減ぜり、而して同胞は其八分の一即ち千英町を耕作せり、レーキン地方にては五百英加を播種せしも亦烈風の吹き飛ばす處となりて耕作するを得ざりき、同年度は平均九噸の收穫を得て聊か愁眉を開きたり、千九百九年度に入りて同胞農夫は漸やく獨立するを得レーキン地方にては四分六の歩合耕作法を以て、耕作するものありと雖も多くは收穫の六分一を地代として支拂ふの契約を以て耕作する者多きに至れり、會社は農具馬匹等は買収するに當りても收穫を以て支拂ふの便宜を與へ以て本邦農夫を優待す。

要するに同胞が同地方に耕作する所は重もにガーデンシラー、レーキン間なり、耕地大概平坦にしてガーデンシラーの名に背かず、若し夫れ缺點を擧ぐれば孟春風烈しきに降雨の少量なるにあり、本年度のガーデンシラーは豊作にして過去二年間の失敗を償ふの餘りあるものゝ如し。而して同地附近の耕作總英加數は一萬英加にして其中千八百英加は同胞の耕作に係る、其出來作は一英加平均十噸なる可く中には二十噸或は十二噸乃至十五噸の大根を得たる所ある可し、噸數の多き所は即ち同胞の手に係ると云ふも敢て過言にあらず。在留同胞一致事に當らば其發展將さに近きにある可し。

左に當地方に於ける同胞事業家一覽表を示さん

縣名	姓名	作物	英加數	地名
安	瀬(會社)	大根	四、五〇	ガーデンシラー
沖繩	知念森藏	全	六八	全
宮城	平岡組	全	一一〇	全

廣島	山田和一	全	五〇	全	五四二
静岡	藤山利平	全	七〇	全	全
	岸山利平	全	四〇	全	全
	中曾根新五郎	全	四〇	全	全
岡山	松田	大根	五〇	全	第二十三區
全	大川	全	五〇	全	全
熊本	谷口	全	一五〇	全	全
静岡	岸山菊太郎	大根	一五〇	全	全
福岡	小畑	全	二五	全	全
熊本	古賀	全	二五	全	全
廣島	井上	全	二五	全	全
全	須田	全	一五	全	全
熊本	濱田	大根	一五七〇	デアファイルド	全
静岡	藤浪寅吉	大根	一五七〇	デアファイルド	全
全	久保田	大根	三七〇〇	全	全
全	芝田	大根	四〇	全	全
宮城	品川運五郎	大根	四〇	全	全
福岡	中井	大根	一六四〇	レーキン	全
廣島	藤浪	大根	五〇	デアファイルド	全
静岡	藤浪	大根	三〇	全	全

岡山 吉田 全 二四五 全

安瀬清吉

ガアデンセテ
一郵便四二八

ガアデンシテ、に同胞が入りてより常に之が指導者たりしものは安瀬清吉氏なりとす、問ふに氏の傳を以てす、氏答へて曰く未だ傳ふるに足らずとて固辭して語らず、依りて氏の事業と過去とを語ると友人とより得たる所を綜合して左の傳を叙す、若し誤謬あらば之れ編者の罪なり。

氏は明治十年一月六日を以て北海道仙臺藩開拓地に生る、幼より強健能く父を扶く、十六歳の時上京游學の途に就き、中學教育を卒り、進んで理科大學に入る、中途學友某の留學生として歐米に派遣せらるゝに及び渡米の念禁ずる能はず、三十一年四月加州桑港に上陸し先づ東部に學費を負はんと欲し、準備として家内の勞働に従事し傍ら英語の研究をなし、後叔父飯田某氏が安孫子久太郎氏と共同し金門洋食店を開くに當り、之を補助し、勤勉倦まず居ること四年、轉じてポートランドに至り同地洋食店樋口新平氏にミートカッター(肉切り)として就働す、其目的は一定の學資を貯蓄して東行するに有りしなり、而かも周圍の事情は氏をして其方針を一轉せしめ、店主樋口氏を代表してコロラド州に來り岡島金彌氏と提携しフォートコリンズに於て農園勞働契約業に従事するに至りぬ、其コロラド州に於ける活動は氏が談話に依りて之をコロラド州南部の部に記せるが如し、而して岡島氏が更に手をオマハ市カンサス市各鐘話會社